



社会医療法人・社会福祉法人
栄光会

2023 年度 年報

Eikoh-kai Group Annual report



目 次

理事長挨拶	1
-------------	---

I 社会医療法人 社会福祉法人 栄光会 概要

・ 栄光会創立の精神・理念・基本方針 ..	4
・ 社会医療法人栄光会の概要	5
・ 社会医療法人栄光会・	
社会福祉法人栄光会の沿革	9
・ 社会医療法人栄光会の歴史	11
・ 栄光会グループ 組織図	14
・ 栄光会グループ 職員状況	15
・ 外来診療予定表	16

II 社会福祉法人 栄光会の現況

・ 特別養護老人ホーム ころろ	20
-----------------------	----

III 社会医療法人 栄光会の現況

1 地域連携室	
・ ライフサポートセンター	26
2 医療事業本部	
1) 栄光病院	
・ 総合診療科	30
・ 呼吸器内科	31
・ 消化器内科	32
・ 外科・消化器科	33
・ 脳神経内科	34
・ リハビリテーション科	35
・ ホスピス	37
・ 在宅医療センター栄光	39
・ 健診センター.....	41
(1) 診療技術部	
・ 薬剤課	44
・ 放射線室	46
・ 臨床検査室	47
・ リハビリテーション課	48
・ 栄養管理課	49
・ 医療機器安全管理室	50
(2) 看護部	
・ 看護部長挨拶	52
・ 2023年度看護部目標	53
・ 看護管理室	55

・ 外来/内視鏡/中材	58
・ 3 A 病棟（ホスピス）	63
・ 3 B 病棟（ホスピス）	65
・ 2 C 病棟（ホスピス）	67
・ 4 A 病棟	69
・ 4 B 病棟	72
・ 5 A 病棟	74

(3) 感染防止対策室・医療安全管理室

・ 感染防止対策室	78
・ 医療安全管理室	81

(4) 医療事務

・ 医事課	86
・ 診療情報管理室	87

2) 栄光会ファミリークリニック

3) 栄光会訪問看護ステーション

3 介護事業本部

・ 栄光会ケアプランサービス	102
・ 介護付き有料老人ホームかめやま ..	104
・ 栄光会通所リハビリテーション ..	106
・ 栄光会ヘルパーステーション	107
・ 介護事業本部栄養管理課	108

4 伝道部

5 地域協働部

6 ボランティア統括部

7 本部事務局

・ 財務・経理課	123
----------------	-----

IV 研修状況

1 院内・院外研修状況

・ 新入職員研修実施状況	128
・ 第15回TQM研究発表会	129
・ 院内研修会 実施状況	130
・ 看護部院内研修	131
・ 院外研修・院外発表の状況	133

2 対外研修の状況

・ 栄光杯セミナーこれまでの歩み	140
・ 2023年度院外からの研修.....	146

新たな栄光会を目指して

社会医療法人栄光会・理事長・院長
井上 裕

栄光会はこの3年の間に名誉会長・下稲葉康之先生と総院長・折田泰彦先生を天国にお見送りすることとなりました。私は2021年7月から院長を併任する形で理事長職に就任いたしましたが、栄光会40年の歴史を継続すること、下稲葉、折田先生の意志を引き継ぐこと、またあらたな40年を見据えた法人運営というまことに大きな課題に直面しております。

2023年はそのスタートとして中期課題を設定し「シン・栄光会5カ年プロジェクト」を掲げております。

シン・栄光会5カ年プロジェクト 〈新(新生)・心(真心)・進(前進)〉

- 1 新(新生)：新しい栄光会のために
栄光会の素晴らしい財産を継続・拡張
101番目のユニークな病院としての存在感の持続
新しい世代へのなめらかな事業継承
- 2 心(真心)：「癒し癒される」を実感するために
スタッフが「やりがい」を実感できる法人運営
スタッフとその家族の「健康」と「安心」を支援する
スタッフの「幸せ度」が向上することを目指す
- 3 進(前進)：愛される栄光会であるために
地域に愛されているか、常に意識し、前に進む
関わるすべての方に愛され、選ばれることで安定的な経営基盤を確立する

このプロジェクトのもとに栄光会の課題を掘り起こし、職員一人ひとりの協力をお願いし、全力で取り組んでいく所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

これまでも過去の40年に出来上がった栄光会の様々なシステムを広く見直し、今後の栄光会にふさわしいシステムに移しかえる作業を行ってまいりました。ここ数年で多くの部署で創生期からの先達が引退され、第2世代ともいべき若い方々がトップに立ちますので良いタイミングだったと思います。2022年度に再編した看護部の「看護管理室」は順調に滑り出ておりますし、「患者サポートセンター」と「ホスピス地域連携室」の統合による「ライフサポートセンター」も順調に動いてくれています。2024年度もいくつかの部署の再編を予定しております。

コロナ感染症では栄光会も大きな打撃を受けました。2023年度も病院内クラスター感染や介護施設におけるクラスターを何度か経験しました。多くの職員の素晴らしい働きにより、乗り越えることができましたが、コロナの経験をつむにつれ、栄光会では職員の意識も向上し、組織内での自発的対応が可能な極めて優秀な組織体に成長しているように感じます。今後は「コロナ患者の新規入院も可能」な病院を目指しますし、コロナ感染症をはじめとする新たな感染症の勃発にも迅速かつ冷静に対応できる病院を目指したいと考えます。

さて経営的には、極めて困難な二年間となりましたが、「コロナとともに生きる」を自覚し地域で必要とされる医療を淡々と前向きにおこなっていく所存です。

以上新しい栄光会はすでにスタートしています。職員一同、一致団結し今後の栄光会発展のために
よろしくご協力をお願いします。

社会医療法人 栄光会 社会福祉法人 栄光会 概要

栄光会創立の精神・理念・基本方針

栄光会創立の精神

この最も小さい者の一人にしたのは
わたし（キリスト）にしてくれた
ことなのである。 ～ 聖書 ～

栄光会理念・基本方針

癒し癒される

- キリスト信仰に基づいた全人的で最善の
医療・看護・介護を目指します
- 患者さん・利用者の方々・そのご家族 そして職員も
互いに癒し癒される関わりづくりに励みます
- 患者さん・利用者の方々・そのご家族の
権利・プライバシーを尊重します
- 地域の医療機関・介護福祉施設と連携し
総合的なサービスの提供に努めます
- 患者さん・利用者の方々の全生涯にわたり
その幸せと生きがいづくりに尽くします

【栄光病院】

外来

２４時間、いつでもみなさんが最善の診療が受けられるような診療体制を整え、院内の各科や地域の医療関係機関との連携を図って、一人ひとりの患者さんを総合的に診療しています。また、同時に地域医療の充実と向上に努めています。

- 総合診療科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 消化器内科
- 外科
- 脳神経内科
- 糖尿病内科
- 泌尿器科
- 整形外科
- リハビリテーション科
- 肛門外科
- ホスピス外来（相談）

在宅医療・訪問看護・在宅ホスピスケア〈在宅医療センター栄光／栄光会訪問看護ステーション〉

高齢化社会の到来や新型コロナウイルス感染症の影響もあり、在宅医療・訪問看護の必要性は依然高い状況が続いています。当法人ではいち早く、専従・専任の医師・看護師のチーム体制により、２４時間・３６５日いつでも訪問できる体制をとりました。具体的には１９９０年代後半には訪問看護ステーションを開設し、２００６年４月には栄光会傘下の「亀山クリニック」について『在宅療養支援診療所』の認可を得るとともに、２０１０年４月には「栄光病院」が『在宅療養支援病院』としての認可を得、病院及び両クリニックとの連携強化を行いました。そして、２０１３年４月には「在宅医療センター栄光」をオープンし、より一層充実した在宅医療を推進しています。２０１８年６月には、「栄光会訪問看護ステーション」を栄光病院敷地内に移転し、病院との連携をさらに強化しております。２０２０年５月、亀山クリニックとこどもクリニックを統合し開設した「栄光会ファミリークリニック」（『在宅療養支援診療所』）においても、在宅医療にさらに積極的に取り組んでおります。

健康診断・ドック 〈健診センター：２０１２年７月稼働開始〉

日頃の健康管理によって病気を未然に防ぎ、病気を早期発見するため、高血圧・ガン・心臓病などの成人病予防の各種成人病検診、人間ドック、内視鏡検査、健康・予防意識の向上を図る働きに力を入れて取り組んでいます。

リハビリテーション

体力回復や術後の機能回復について、パワーリハビリ機器を完備したリハビリテーションルームの運用に加え、病棟・ベッドサイドでの訓練も行っています。専門のスタッフが一人ひとりの患者さんに合ったプログラムでバックアップします。

救急医療

栄光病院は二次救急告示病院として、地域住民のみなさま方の急な発熱・痛みや苦しみ、突発的な事故などにも対応できる設備やスタッフで２４時間・３６５日体制の医療を行っています。またその実績が認められ、２００９年１２月、社会医療法人として認可されています。

オープンシステム（開放型病院）

地域医療の向上・充実のため、医師会との協力体制のもと、開放型病院として取り組んでいます。地域の診療所・クリニックの先生方との連携を密にしながら、地域医療を担う病院として、住民の皆様の期待に応えていく所存です。

【栄光会ファミリークリニック】

診療科目：内科・小児科・呼吸器内科・アレルギー科

栄光会ファミリークリニックは、２０２０年５月に、「亀山クリニック」「栄光会こどもクリニック」を統合し、運営を開始しました。

『全世代型のクリニック』として、これまで以上に患者さんに信頼される身近なかかりつけ医として、地域に根ざした医療を実践するとともに、栄光病院における専門医療・検査・入院などとの連携を密にしています。また在宅療養支援診療所として患者さんやご家族の要望に応えるため在宅医療を強力に推進しています。

【介護保険事業】

介護は医療・看護と一体でなければならないという理念のもとに、栄光会ファミリークリニックに併設する「医療介護施設かめやま」を中心として、次の通り関連事業に着手しています。

【関連事業】

- 栄光会ケアプランサービス（居宅介護支援事業所）
- 栄光会訪問看護ステーション（訪問看護、訪問リハビリテーション）
- 栄光会ファミリークリニック 栄光会通所リハビリテーション（デイケア）
- 介護付き有料老人ホーム「かめやま」
- 栄光会ヘルパーステーション（訪問介護）

【栄光病院の施設概要】

- 許可病床数 178床
- 看護単位 外来・6病棟
 - 【内訳】 緩和ケア病棟 3病棟（71床）
看護配置 7 : 1
 - 地域包括ケア病棟（45床）
看護配置 13 : 1
 - 障害者施設等入院基本料病棟（28床）
看護配置 10 : 1
 - 回復期リハビリテーション病棟（34床）
看護配置 13 : 1
- 救急指定病院 24時間受診可
- 健診センター
- 重症患者管理施設
 - 心拍、呼吸、血圧監視装置
 - 人工呼吸器、除細動器
 - 心臓ペースメーカー（体外式）
- 消化器内視鏡室
- 気管支鏡検査

●リハビリテーション施設

各種リハビリテーション施設

各種理学療法機器(含 電気ハリ)

パワーリハビリ機器

●中央材料室

●MR I

●80列マルチ・スキャンCT

●X線透視撮影装置

●マンモグラフィー

●迅速血液ガス・電解質測定装置

●心臓超音波装置

●腹部超音波診断装置、その他

社会医療法人 栄光会・社会福祉法人 栄光会 の沿革

昭和の初頭	亀山病院(炭鉱付属病院)としてスタート
昭和55年10月	院長 下稲葉 康之 就任
昭和56年 5月	院長 藤江 良郎 就任
昭和57年 4月	救急指定病院 認可
昭和61年 4月	福岡亀山栄光病院(キリスト教主義の病院として現「医療介護施設かめやま」の地に移転)
平成 元年 5月	栄光ホスピスセミナー第1回を開催
平成 2年 4月	ホスピス病棟増築
	9月 ホスピス・緩和ケア病棟 認可(西日本初 全国で5番目)
平成 3年 7月	医療法人 福岡亀山栄光病院 認可
	在宅医療・訪問看護 及び 通所リハビリテーション 開設
平成 4年 3月	病院納骨堂の建立
平成 5年 2月	ホスピス110番開設
平成11年 9月	特別医療法人 栄光会 認可
平成12年 4月	介護保険法施行に伴い居宅介護支援等介護関連8事業に着手
	7月 開放型病院 認可
平成14年 2月	病院機能評価 Ver. 3 認定
平成15年 4月	社会福祉法人 援助会 「聖ヨゼフの園」(北九州市八幡西区)譲受
	8月 栄光会クリニック博多の森 開設
平成17年11月	新病院 竣工・移転 及び 亀山クリニック 開設
平成18年 4月	介護保健施設「グロリア」、特定施設入居者生活介護「かめやま」 開設
平成19年 3月	病院機能評価 Ver. 5 認定
平成20年 1月	特別医療法人 栄光会 理事長 下稲葉 康之、会長 藤江 良郎 就任
	7月 病院機能評価 付加機能 緩和ケア 認定
平成21年12月	社会医療法人 栄光会 認可
平成23年 4月	住宅型有料老人ホーム「安息」・栄光会ヘルパーステーション 開設
平成24年 4月	病院機能評価 Ver. 6 認定
	栄光病院新館 竣工(ホスピス3病棟・71床へ再編成、健診センター 他)
平成25年 9月	栄光会こどもクリニック開設(栄光会クリニック博多の森を小児科に)
平成26年 5月	社会福祉法人 栄光会 認可
	5月 社会福祉法人 栄光会 理事長 下稲葉 康之 就任
平成27年 4月	下稲葉理事長 『栄光会フィロソフィ(経営理念)』上梓
	8月 特別養護老人ホーム「こころ」 開設
平成29年 4月	病院機能評価 3rd G Ver. 1. 1 認定
	7月 社会医療法人 栄光会 会長 下稲葉 康之、理事長 青戸 雄司 就任
	栄光病院 院長 井上 裕 就任
平成30年 5月	栄光会ケアプランサービス・栄光会訪問看護ステーション 移転 (栄光病院敷地内へ)
	9月 介護老人保健施設「グロリア」 閉鎖
	12月 住宅型有料老人ホーム「安息」 休止(令和4年7月 閉鎖)
令和 2年 5月	栄光会ファミリークリニック 開設(亀山クリニック・栄光会こどもクリニック統合)
	7月 社会医療法人 栄光会 名誉会長 下稲葉 康之 就任

令和 3 年 7 月 社会医療法人 栄光会 理事長 井上 裕 就任
社会福祉法人 栄光会 理事長 青戸 雄司 就任
令和 5 年 1 2 月 病院機能評価 3 r d G V e r : 3 . 0 認定

■ 社会医療法人栄光会の歴史

『 私たちは「こころ」も「からだ」もともに癒され
幸せに生きる医療・看護・介護”を目指しています 』

社会医療法人 栄光会 はキリスト教の精神に基づいて、健康管理、日常診療、救急医療、在宅医療、終末期医療(ホスピスケア)などの医療とともに、介護事業も強力に推進し、人間の全生涯にわたり、地域に開かれた医療・看護・介護を目指して取り組んでいます。悩みや痛み、苦しみを共にし、「こころ」も「からだ」も癒される医療・介護の充実、また患者さん・ご利用者・ご家族一人ひとりの幸せと生きがいに応えることを目指しています。

炭鉱病院からキリスト教病院に

社会医療法人 栄光会 栄光病院は昭和の初め、志免町亀山に炭鉱付属の亀山病院としてスタートしました。時代は移り変わり、エネルギー革命によって石炭が石油へと転換されると、炭鉱は閉山。亀山病院は付属病院としての使命を終え、地域の一病院として診療を続けていました。1970年代～1980年代の亀山病院は、老朽化が激しく、消防署などから再三改築を迫られる状態でした。そのような中1986年4月、旧病院を 現・医療介護施設かめやま の地に新築移転しました。当時、院長であった藤江良郎医師(元・会長)は、下稲葉康之医師(元・名誉会長、名誉ホスピス長)、折田泰彦医師(元・総院長、副理事長)らと共に、キリスト教病院として、福岡亀山栄光病院と名前も新たに再出発させたのです。

それは、これまでの診療に加え、まだ「ホスピス」という言葉になじみのない頃に、終末期医療に真正面から取り組む全国的にも珍しい存在の病院でした。

地域の人々の理解と協力に支えられ

キリスト教病院としての再スタート直前、町内会・婦人会・老人クラブなどの代表4～5人が訪ねてこられました。そしてこんな質問をされました。「クリスチャンではない私たちも、診てもらえるのでしょうか?」。地域の方からの素朴な質問です。栄光病院の藤江元・会長、下稲葉元・名誉会長(・名誉ホスピス長)、折田元・総院長(・副理事長)の3人をはじめ、スタッフの10%程はクリスチャンで、栄光病院の医療精神はキリストの癒しを礎としています。一方、地域には仏教徒や無宗教の方もたくさんおられます。栄光病院は、宗派や信仰の有無に関係なく、24時間診療や訪問看護にあたっています。地域の方々に「クリスチャンであろうがなかろうが一切関係ありません」とお答えしたところ、ある日、病院に大きなふろしき包み2個が届けられました。開けてみると手縫いの雑巾がぎっしりつまっていて、「ぜひ病院で使って下さい」という言葉が添えられていました。このように、栄光病院を中心とする栄光会各施設は創立の時から、このような地域の方々の理解と、多くの教会関係者の祈りと支えによって、現在があるのです。

人と人のふれあいを通して

栄光病院の診療内容は内科・外科・泌尿器科・循環器科・消化器科・リハビリテーション科・麻酔科・肛門科などで、病床数150床からスタートしました。また、開院当初1982年から終末期医療に取り組んできました。すぐにベッドは満床になり、その数か月後に178床に増床し、その内、24床がホスピス病棟でした。当初、ホスピスは一般病棟と混在でしたが、1990年3月、念願のホスピス病棟が完成し、1998年5月には36床に増床、2005年11月、病院の移転を機に50床へ増床しました。その後も、地域の患者さん、関係医療機関からの強いニーズに応える形で、2012年6月に、新病棟の増築・病棟再編をおこない、ホスピス病棟71床という全国で最大の病床規模を有する病院になりました。当院は、患者さん・ご家族に温かいおもてなし（ホスピス）の心で仕え、穏やかな生活を送って頂くことを大切にしています。最善の医療設備の他に、病院や施設の建物内には礼拝堂を設け、患者さんやご家族、関係者などの結婚式やお葬式も執り行っています。一見、医療とは関係ないことのように思われますが、医療の目的は人間の幸せ。患者さんの人生をトータルに考えると、医療の中で「死」は決してタブー視すべきものではなく、希望と喜びをもって「死」を迎えることができるかどうか大切です。それは、死を目前にしたある患者さんが言った「私はこんなに幸せでいいのでしょうか」という言葉に集約されるのではないのでしょうか。その根底には、患者さんとそのご家族、医師、看護師などのスタッフ、牧師やボランティアのみなさんなどとの心と心のふれあいがあります。

そして、未来へ

栄光病院は1999年9月、「特別医療法人」として、医療の安定性及び持続性を確保するため新設された法人として、福岡県では1番目、全国で4番目の認可を得ました。

同じ1999年には開放型病院の認可を受け、地域の開業医の先生110名ほどが賛同登録するなど病診連携が順調に進んでいます。数年前より紹介率は20%を超える状況となっています。

2001年には、病院の質的レベルの評価を受けるために、日本医療機能評価機構による「病院機能評価」(Ver. 3)の審査を受け、2002年2月に認定を得ました。その後2007年には「病院機能評価」の初めての更新を受け(Ver. 5)、翌年 緩和ケア病棟50床について「病院機能評価付加機能」として評価をいただきました。更に2012年1月には2度目の更新(Ver. 6)、2017年1月には3度目の更新(3rd G Ver: 1. 1)、2023年度には4度目の更新(3rd G Ver: 3. 0) 審査を受け、無事認定を頂くことができました。

2003年には、旧病院から同じ志免町内の約0. 7km西方の地に、新病院建築を計画し、2005年11月竣工、移転しました。また旧病院は増改築工事を経て(2006年4月竣工)、1Fは亀山クリニック(現・栄光会ファミリークリニック)、その上階には介護老人保健施設「グロリア」や介護付き有料老人ホーム「かめやま」などを併設、運用するようにしました(この施設を総称して法人内では「医療介護施設 かめやま」と称しています)。

以上により、医療、看護、介護を3本柱とする、より地域に密着した病院及びその関連施設を完成させたことになりました。その後、2011年には新たに住宅型有料老人ホーム「安息」の稼働と、リハビリテーション機能の強化を目的とした「通所リハビリテーション」の拡充も行っています。

(2018年9月 介護老人保健施設「グロリア」閉鎖、
同年12月 住宅型有料老人ホーム「安息」休止、2022年7月閉鎖)

一方、2009年12月には「社会医療法人」としてより一層公益性の高い法人格の認可も受けました。これは24時間365日の救急医療の実績が認められたことによるものです。

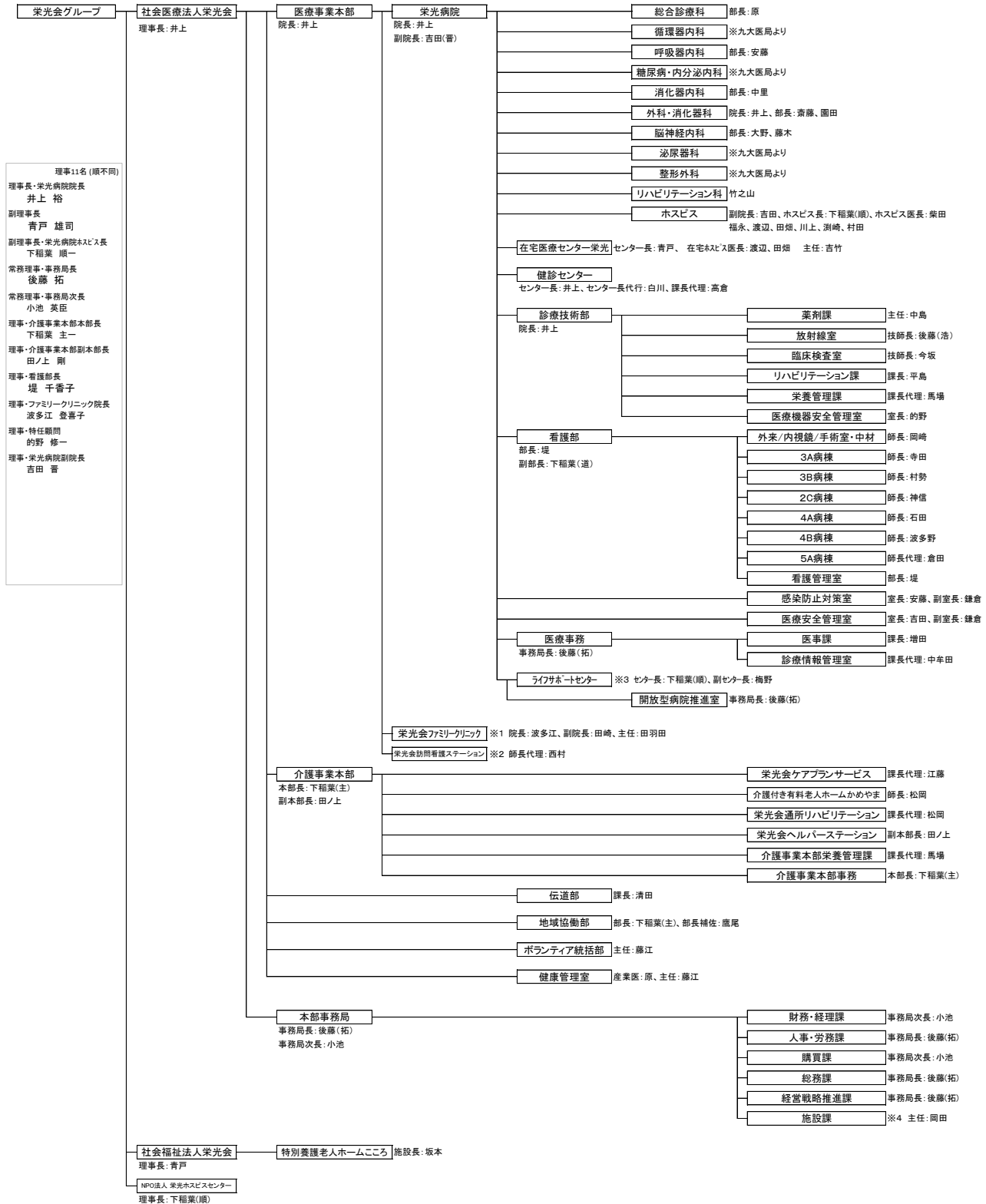
その後、病院においては2011年度より新病棟の建築に入り(2012年4月竣工)、同年6月より病棟再編による新体制、同年7月より新「健診センター」がスタートするなど大きな変化の年となりました。また、2013年4月には、「在宅医療センター栄光」をオープンし、在宅医療に一層注力しています。また、「栄光会クリニック博多の森」が小児医療に特化する事となり同年9月より「栄光会こどもクリニック」としての運営が始まりました。更には福岡県による2014年事業としての特別養護老人ホーム申請(80床、内ショートステイ10床)が認められ、施設名称を特別養護老人ホーム「こころ」としました。その後も着々と計画は進み、2014年5月には社会福祉法人 栄光会を設立し、理事長には社会医療法人 栄光会 の下稲葉名誉会長が兼務で就任しました。その後2014年9月には特別養護老人ホーム「こころ」の建築に着手し、予定通り2015年7月には竣工、同年8月より開業の運びとなりました。また、2020年5月には、亀山クリニックと栄光会こどもクリニックを統合し、全世代対応・地域密着のクリニックとして「栄光会ファミリークリニック」の運営を開始しました。コロナ禍を経て、クリニックの外来診療、また在宅医療にさらに積極的に取り組んでいます。

現在、社会医療法人・社会福祉法人を合わせた「栄光会グループ」の職員数は450名を数えます。栄光会の創立者である3人の医師を見送り、グループとして大きな柱を失った私たちではありますが、新たなステージへと力強く進むべく、志を同じくするスタッフとともに日々邁進しております。

栄光会グループとしては、産婦人科を除く全ての人生ステージに対応する医療・看護・介護の体制を有しています。今後、地域医療を担う医療機関としての機能を一層向上させ、市中の大規模病院や地域の診療所との連携をさらに深めることによって、地域住民のみなさまが安心して暮らせる地域医療圏完結型の医療体制を拡充し、在宅医療と介護・福祉を統合した患者さん・利用者の方々・ご家族のトータルな支援体制の強化に努めてまいります。

あらためて、建院の精神であるキリスト教精神、栄光会創立の理念を大切に心に刻み、患者さん・利用者の方々・ご家族の幸せと生きがいのために、スタッフ一同心と力を合わせて、これからも励んで参ります。

■ 栄光会グループ組織図 (2024. 04. 01. 現在)



※1：栄光会ファミリークリニックについては、看護師の人事教育責任は看護部が、事務職員の人事教育責任は医療事務が有するものとします。

※2：栄光会訪問看護ステーションについては、看護師の人事教育責任は看護部が有するものとします。

※3：ライフサポートセンターについては、看護師及び相談員の人事教育責任は看護部が有するものとします。

※4：介護事業本部における施設課職員については、本部事務局の「施設課」に所属するものとします。

■ 栄光会グループ 職員状況 (2024. 04. 01. 現在)

理事長 兼 院長 (病院)	1	理学療法士	1 9
副理事長	2	作業療法士	1 5
院長 (クリニック)	1	言語聴覚士	6
副院長 (病院/クリニック)	2	音楽療法士	1
医師・常勤	1 2	相談員	6
医師・非常勤	1 6	ケアマネジャー	9
看護師	1 7 6	ケアワーカー	8 0
准看護師	6	歯科衛生士	1
保健師	1	臨床工学技士	2
薬剤師	3	診療情報管理士	3
放射線技師	5	事務職	5 9
臨床検査技師	5	チャプレン	1
管理栄養士	6	その他	3 4
合 計			4 7 2

[事業所別内訳]	栄光病院	3 5 5
	医療介護施設かめやま	6 1
	特別養護老人ホームころ	5 6

外来診療予定表【栄光病院】（2024. 04. 01 現在）

曜 日		月		火		水		木		金		土	
		午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後
総 合	①	原	藤 木	布 巻	原	青 戸	安 藤	原/安藤	永 井	藤 岡	青 戸	原/安藤	手 越
	②	当番医		鶴 田		原		斎 藤		鶴 田		手 越	
外 科		井 上		園 田		井上/斎藤		斎 藤		斎 藤		園 田	園 田 (初診のみ) 受付16:30迄
専 門・ 予 約 外 来	循 環 器					畑 島	折田義也	折田加奈子	吉田賢明				
	呼 吸 器				安 藤					安 藤		秋山(第1土曜) 武田(第3土曜)	
	糖 尿 病			永 井	永 井	二 宮		永 井					
	脳 神 経 内 科	鶴 田		大 野		藤 木		大 野		藤 木			
	整 形 外 科		山 口	本 村				原雄人 (am 10:00~)					
	泌 尿 器 科											九 大	

※注）表中の表示について「／」・「隔週」の意味。表示医師が原則交代で担当します。

○診療時間は、午前9時～午後5時00分（昼休み12時30分～13時30分）となっています。

○午前中の受付は12：00までとなっておりますのでご注意ください。

○午後の診療終了間際の受付につきましては、検査等、診察時間の兼ね合いから、夜間当直医の診療へ切り替わることがありますので、ご了承ください。

○急患は何時でも受け付けております。

○「専門外来」は、原則として予約制です。ご予約がないときは、お待ち頂くことがありますので、ご了承ください。

なお、ご予約に関するお電話は、午後（13：30～17：00）にお願いいたします。

（緊急はその限りではありません）

○「ホスピス相談・ホスピス外来」は、予約制です。事前に必ずお電話でご予約ください。

○月が変わった時は、あらためて保険証をご提示ください。

■ 外来診療予定表【栄光会ファミリークリニック】(2024.04.01 現在)

内科・呼吸器内科・アレルギー科

月		火		水		木		金		土	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
波多江	—	波多江	—	手越	—	波多江	—	波多江	—	波多江	—

小児科

月		火		水		木		金		土	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
田崎	田崎	田崎	田崎	田崎	—	田崎	田崎	田崎	田崎	田崎	—



社会福祉法人 栄光会 現況

社会福祉法人 栄光会 特別養護老人ホーム こころ

施設長 坂本 久美子

こころ方針

おもてなしの心で 皆さまの幸せと

生きがいのある生活をサポートします

構成人員

施設長 坂本久美子

介護支援専門員	2名	相談員	1名	機能訓練指導員	1名
看護師	4名	管理栄養士	1名	管理事務員	1名
介護士	38名	食器洗浄員	2名	夜間管理当直員	4名

概要

皆様方のご支援、ご協力のもと9年目を迎えております

入居70名＋（短期入所）ショート10名の定員80床

要介護3から要介護5までの方が入居対象です。平均要介護度4.1です

全室個室型のユニットケアを提供しております

2023年度を振り返って

食事については、業務委託を変更することにより、年間を通じて経営の安定が図ることができました。また、味も安定しており、美味しいお食事を召し上がって頂くことができました。改善点もありますが、総じて今回の変更は良かったと考えています。

コロナは今年1月に発生もありましたが、発生者4名で無事終息することが出来、勢いは弱くなっていると感じています。

人材はどこも大変な状況ですが、ミャンマーの留学生を受け入れ、今後の介護人材を育てていきたいと考えます。23年度は、クラスター発生により稼働を増進することが出来ない月がありました。

今後も感染対策を行いながら、入居者の方の生活サポートをおこなって参ります。

開設より8年が過ぎ、電気機器などに故障、修理、買い替えなどが多くなっております。先を見据えた経営を考える1年でもありました。

2024年度 目標

《地域に根ざした介護事業の運営に努める》

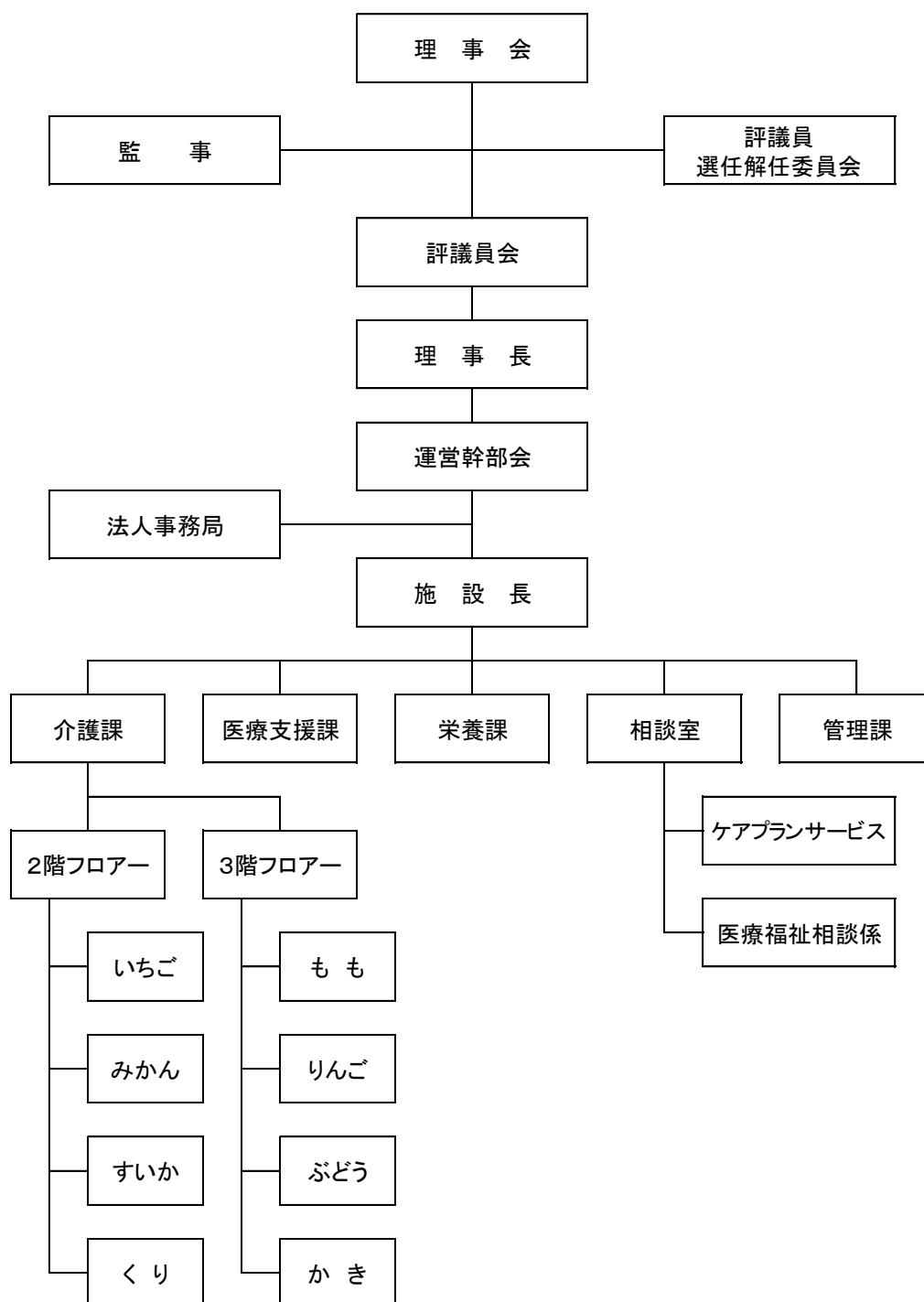
コロナ対策により、入居者の方は面会や外出もままならず笑顔が少なくなったように感じております。小さいながらも笑って楽しめる活動を、レクリエーション委員や地域の方と一緒にやっていき

たいと思います。

今年度はミャンマーからの留学生を採用し、2年後に介護福祉士として働いて頂く方です。人材不足はもちろんありますが、スタッフの介護に対する意識改革も期待しています。4月よりご家族の面会制限を解除しました。笑顔で話される様子に安堵しています。スタッフもご家族と会話する機会が増え、人間力のあるスタッフ育成に力を入れていきます。外部研修も少しずつ増え、介護スタッフには参加してもらいたいと思っています。

今後とも皆様のご協力ご支援よろしくお願いいたします。

社会福祉法人 栄光会 組織図



社会医療法人 栄光会 現況

地域連携室

■ ライフサポートセンター（地域連携室）

センター長 下稲葉 順一
副センター長 梅野 理加

職場紹介

1. 職員構成 N r s . ; 看護師 MSW ; 社会福祉士

○前方支援 副センター長：看護師長 梅野 理加

主 任：N r s . 和田 真知子

N r s . 古賀 悦子

N r s . 山田 佳代

N r s . 末永 理絵子

○後方支援 副 主 任：MSW 森下 茂子

MSW 矢羽田 有希子

MSW 野内 麻依

MSW 斉藤 直子（2024／3退職）

MSW 柴田 昌子（2024／3退職）

MSW 北森 友理子（2024／4～入職）

MSW 鳥羽 レナ（2024／5～入職）

2. 業務内容

- ・入院調整 ・退院支援 ・医療福祉相談（患者相談）
- ・ホスピス相談（ホスピス面談の予約、面談時のサポート、ホスピス110番）
- ・地域医療連携（病病連携・地域連携パス） ・広報活動 その他

2023年度を振り返って

1. 栄光会の窓口として患者、家族、医療機関へ安心、信頼して相談できる部署を目指す

栄光会の職員も含めて、栄光会の窓口として信頼できる部署づくりを目指しました。まずは、部署内で、部署ミーティングごとに他部署での連携での困りごとを話し合いました。

毎月、課題がなくとも共有することで、他部署との信頼関係に努めたことはライフサポートセンターとしての部署の目標達成につながったと思います。

また、患者さん、ご家族との関係づくりの中で、丁寧な関わりを意識しました。中には、治療経過や今後の療養場所についてなど相談が始まり長い時は1時間対応することもありました。今後も栄光会に関わる患者さん、ご家族への対応を丁寧にしていきたいと思います。

2023年度は、スタッフ全員で分担して、他院の連携室の会に多く参加しました。顔の見える関係づくりに努め、より情報共有、地域に求められる施設を目指して、対応できたと思います。また地域連携に欠かせないのが地域連携パスの運用です。そのため初めに、回復期リハビリテーショ

ン病棟における、地域連携パスの運用に力を入れました。SWを中心にカンファレンスを行い対応することができました。今後は一般病棟でも運用ができるように検討していきたいと思います。

2. 稼働率や数字を意識した動きが取れる業務の効率化

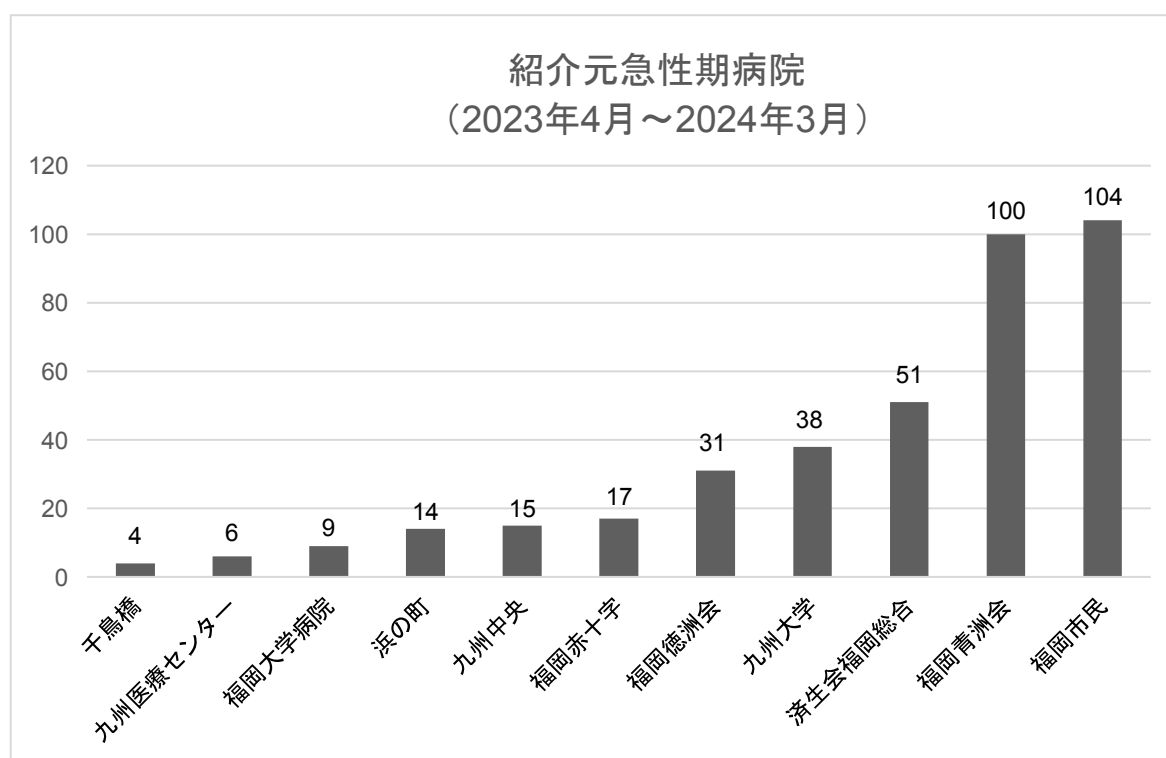
ライフサポートセンターは病院の窓口でもあります。入院退院の調整を担っています。病状の経過や家族背景、今後の方針など様々な情報を整理し対応しています。2023年度は、日報の確認、在宅復帰率、スタッフの状況を確認しながら対応していました。積極的にかかわることで部署内だけでなく全体で取り組めるように努めることができたのではないかと思います。

現在、集計業務ができていませんでしたが、少しずつシステムを整えていくことで、今後も数字を意識し必要なところに時間が活用できるように努めていきたいと思います。

2024年度に向けて

- 1：部署内のコミュニケーションを密にして患者さん、ご家族、医療機関、介護施設、福祉関連機関が安心できる部署を目指す
- 2：稼働率や数字を意識した動きが取れる業務の効率化

2023年度統計



医療事業本部

職場紹介

1. 職員構成

原 一生 : 総合内科専門医 消化器病専門医 消化器内視鏡専門医
老年科専門医

青戸 雄司 : 総合内科専門医

安藤 俊二 : 呼吸器専門医 アレルギー専門医 内科認定医

布巻 直美

鶴田 裕子 : 内科認定医 神経内科専門医

手越 静子

2. 診療内容

総合内科では下記の範囲の診療を行っています。

- ① 生活習慣病の管理
- ② 急性熱性疾患の精査・治療
- ③ 各種疾患のプライマリケア

2023年度を振り返って

COVID-19 が感染症法5類感染症に変更された。本年も予約制の発熱外来を継続し、時間外受診も含めて発熱者の対応を行った。本年は冬季のインフルエンザの流行がみられたが、抗原検査キットにより COVID-19 インフルエンザ鑑別し対応することができた。

2024年度に向けて

COVID-19 流行下であり本年度も院内感染対策を継続しつつ、上記診療を行う。
COVID-19 感染に留意しつつも、選ばれる外来を目指し、サービスの質の向上に努める。

年間統計

2023 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初診	187	215	219	608	382	128	198	218	314	262	206	158	3,095
再診	1,434	1,274	1,307	1,677	1,623	1,329	1,403	1,389	1,532	1,190	1,105	1,184	16,447
計	1,621	1,489	1,526	2,285	2,005	1,457	1,601	1,607	1,846	1,452	1,311	1,342	19,542

職場紹介

職員構成

外来部門

常勤医師 安藤 俊二（内科部長）

非常勤医師 （九州大学より月2回）

病棟部門

安藤 俊二（4 A病棟医長）

2023年度を振り返って

本年度は常勤医師1名（安藤）、外来のみの非常勤医師1名の体制で診療を行いました。

非常勤医師は九州大学より月2回の土曜日の午前の診療で、健診での胸部レントゲン異常の精査も行っています。

当科の主な検査は気管支鏡検査ですが、2023年度も0件で、肺癌診断における気管支鏡検査は遺伝子解析が求められており、当院での肺癌診断のための気管支鏡検査は困難となり、気管支鏡検査が必要な症例は他院に紹介しています。

入院診療は4 A病棟で行いました。本年度の入院総数は102例で、2020年度（97例）より5例増加、2021年度（93例）より9例増加し、2022年度（103例）より1例減少しており、コロナ禍における病院の稼働率の低下がやや緩和されてきていると考えます。

疾患別では肺炎（細菌性、誤嚥性）が24例と最も多く、全体の23%を占めています。睡眠ポリグラフィー検査目的の入院が3例で、睡眠時無呼吸症候群の診断、CPAP療法の導入、導入後のCPAP圧の再評価を行っています。慢性閉塞性肺疾患（肺気腫、慢性気管支炎）の急性増悪が3例、気管支喘息発作での入院はなく、吸入ステロイドを主体とした外来治療が定着したためと考えています。呼吸器疾患以外では心不全、COVID-19治療後の症例があり、脳梗塞後、脳出血後のリハビリ目的（回復期リハビリテーション病棟への移行も含めて）が多くなっており、呼吸器疾患以外の一般内科診療も多岐に渡って行いました。

2024年度に向けて

外来診療では患者数の増加に伴い、待ち時間も増加していることが問題であり、効率的な診療、予約時間、人数の調整を行ない、待ち時間の減少を目指しています。

入院診療では常勤医師1名のため、重症例の受け入れは困難ですが、患者様のQOLを重視した治療をご家族、コメディカルスタッフともコミュニケーションをとりながら行っていきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症の治療目的での入院の受け入れについて、2023年度は1件のみですが、感染症法上の分類変更に伴い、今後は治療目的での入院受け入れに向けて準備する予定です。

地域包括ケア病棟としての診療、退院支援の再考、稼働率の向上を目指して、よりコスト意識を持った診療を心がけていきたいと考えています。

職場紹介

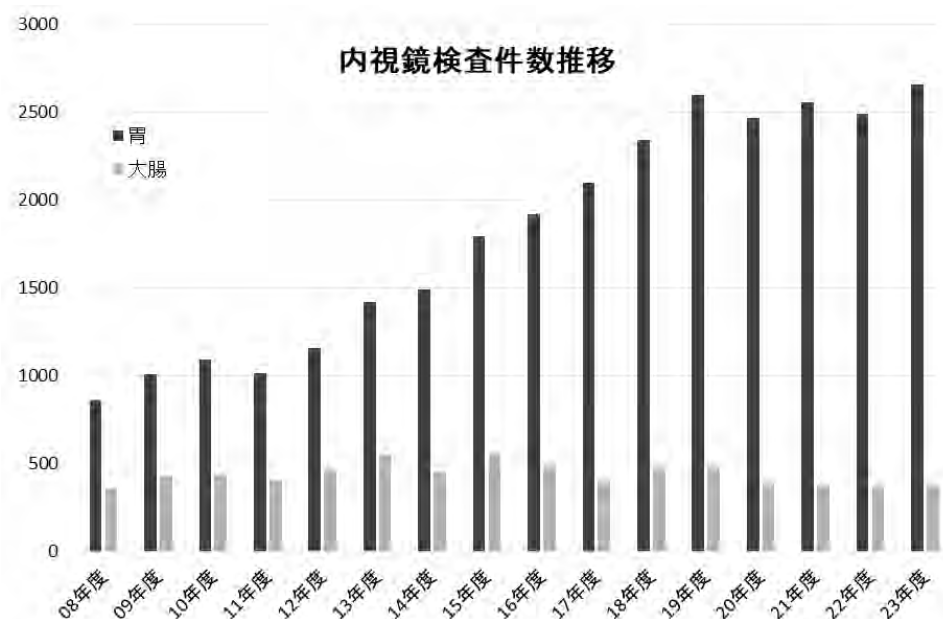
1. 職員構成

消化器内科部長兼内視鏡センター長：中里 貴浩

消化器内視鏡センター：外来看護師（認定内視鏡技師5名（専従1名））

2. 消化器内視鏡センターでは、検査室2室で、検査と治療、胃瘻造設/交換、PTEGなどを行っています。

2023年度を振り返って



- ・コロナの終息傾向とともに検査数は増加に転じ、今年度の総検査数は3037件（胃2658件、大腸379件）で、前年度より6.3%増加。（胃検査数は過去最高でした）
- ・BCPとして、刃物殺傷／放火テロ／CO中毒対策訓練、耐震転倒防止を行いました。

2024年度に向けて

『内視鏡センターで発見された消化管癌（2008年4月～2024年3月31日）』

総検査数 上部28801件 下部6908件

	病変数(発見率)	内視鏡切除件数(切除率)
食道癌	46(1/626)	16(35%)
胃癌	220(1/131)	84(38%)
大腸癌	303(1/23)	145(48%)

- ・上表の如く、2008年のセンター開所以来、多数の癌を発見し、内視鏡治療に、つながらせることができました。
- ・昨年来、オリンパス社の最新内視鏡システム（EVIS X-1）と高画質内視鏡を導入。また、内視鏡技師試験合格者1名あり。今年度は、さらに診断精度の向上が期待でき、早期癌発見が可能になると考えています。

職場紹介

1. 職員構成

院長： 井上 裕 部長： 斎藤 純

2023年度を振り返って

本年度の外科スタッフは常勤医2名体制であり、病棟入院患者は4A地域包括病棟が主体で15名程度が外科常勤医の受け持ち患者である。栄光病院外科は2017年3月をもって手術場を閉鎖し全身麻酔による手術治療を中止した。その後7年が経過し消化器系疾患および整形外科リハビリを中心に入院患者さんを診察・治療してきた。新型コロナウイルス感染症が勃発して4年となり、長らく続いた稼働率の低下はなかなか回復の兆しがみえない中、2023年度は「コロナ感染症とともに生きる」をスローガンに外来・病棟業務に邁進した。2023年5月には感染症分類2類→5類への変更があり、それ以降も何度かの病棟クラスターを経験し、病院運営・経営的には大変な年度であったが、コロナ感染症もようやく収束に向かいつつあるなか、稼働の改善に全力で対処したい。

外科診療を充実させるため2023年度に工夫したこと

- 1) 消化器センターとの連携を深め、適切症例を可及的すみやかに地域の中核病院に紹介し、治療（手術）終了後の療養を中心に病棟業務を組み替えたが、順調に多くの外科系病院と連携が取れている。
- 2) 従来糟屋地区および福岡市の中核病院の医師との定期的ミーティング（年二回）を開催してきた。ここ2年コロナ禍にて密な連携を保つことができなかったが、2023年は年一回ではあるが復活させている。
- 3) 入退院システムとしてのライフサポートセンターは十分な活躍をみせており、入退院が一元化でき従来よりもスムーズな診療を行えるようになった。

2022年1月に5A病棟リハビリ専従医として赴任した井手医師が2024年3月に退職となり、今後5Aの回復期患者は脳血管一名、整形外科一名が診療担当になる予定である。今後のスムーズな病棟運営を目指したい。

今後の展望

- 1) 外科外来手術やその他消化器疾患については今後も積極的に診察・治療（外来・入院）を続ける予定であり、外来患者の増加を図り更に外来治療の充実については努力していく所存である。
- 2) 乳癌検診についてはデジタル・マンモグラフィーが導入されより精密な診断が可能となった。健診センターの充実とともに被検者数の拡大に努めていきたい。
- 3) 整形外科専門医の週3回外来診療と密に連携を取りながら診療を一層充実させていくつもりである。
- 4) コロナ感染症が常態化する中で、感染対策を一層充実させることでなるべく多くの患者の入退院をすみやかに行う努力を続け、2024年度の外科診療を続けていきたいと考える。
- 5) 2024年4月には17年ぶりに新しい外科医の就任が予定されている。新しい外科構想を早期に構築し、今後の消化器疾患・整形疾患の対応にあたりたい。

職場紹介

1. 職員構成

常勤医 : 大野雅治、藤木亮輔

非常勤医 : 鶴田裕子 (外来のみ)

2. 診療内容/業務内容

神経疾患 (脳血管障害、認知症、てんかん、神経系感染症、末梢神経疾患、筋疾患、神経難病、頭痛など) を中心とした診療、病院の要請に応じて総合内科外来診療、脳波判読、筋電図・神経伝導検査施行、訪問診療

担当病棟 : 主として神経難病センター、他に地域包括ケア病棟、回復期リハビリ病棟

2023年度を振り返って

4 B 病棟 (神経難病センター) の年間平均稼働率は昨年度と同程度だった。レスパイト入院の件数は前年度より微増した。訪問診療の件数は増加 (パーキンソン病の症例が増えた)。

検査件数は概して前年度より増加、神経伝導検査・筋電図検査数はやや減少した。

2024年度にむけて

診療の質の向上

4 B 病棟の目標稼働率の達成、そのための適切な入退院調整、他病院との連携。

神経難病患者を受け入れ、そのQOLの向上を目指す。

在宅療養支援のため定期的なレスパイト入院、訪問診療。

画像検査 (特にMRI) や神経筋生理学的検査を積極的に行う。

2023年 年間統計

脳神経内科外来患者数 : 1861

訪問診療 : 14 件 (パーキンソン病 6、筋萎縮性側索硬化症 3、多系統萎縮症 2、ミオパチー 1、脊髄炎 1、アルツハイマー病 1)

検査件数 : CT 271、MRI 92、エコー146、脳波15、神経伝導検査・筋電図21

レスパイト入院 : 7 名、19 件

4 B 病棟稼働率 (月別平均、%)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
87	80	82	89	82	87	85	81	87	81	86	74	83.4

リハビリテーション科

回復期リハビリテーション病棟医長（代行：院長 井上 裕）

職場紹介

1. 職員構成

回復期リハビリテーション病棟医長（代行：院長 井上 裕）

2023年度を振り返って

1) 病棟診療実績（過去3年間の年度別推移：各平均値）

	入院患者数 (人/月)	新規入院数 (人/月)	稼働率 (%/月)	在院日数 (日)	在宅復帰率 (%)
2021 年度	30.3	11.7	89	79.4	83.3
		脳血管 (%) 56.5			
		運動器 (%) 42.3			
		廃用 (%) 1.2			
2022 年度	27.2	9.3	80	88.2	79.0
		脳血管 (%) 58.6			
		運動器 (%) 40.7			
		廃用 (%) 0.7			
2023 年度	26.9	9.1	79	80.4	84.2
		脳血管 (%) 53.0			
		運動器 (%) 47.0			
		廃用 (%) 0			

2) リハビリ実績（過去3年間の年度別推移）

	リハビリ総件数	リハビリ総単位数	総診療報酬点数
2021 年度	24997	55974	13220097
2022 年度	21758	47543	11089703
2023 年度	20130	49222	11323207

3) 2023年度の総括

2023年度は複数回、病棟におけるコロナ感染を認めた。法人全体でも8月および2024年1月に大規模クラスターが発生した。そのため、入院患者受け入れを制限したり、紹介先から入院延期の申し入れがあったりして、稼働率の低下を認めた。また2年間にわたりリハビリテーション病棟医長を務めた医師が2024年3月に退職することとなり、特に2024年、年明けの病棟運営がタイトであったため稼働率の低下につながった。リハビリ実績としては2022年度と比較してリハビリ総単位数と総診療報酬点数は回復したが、リハビリ総件数は低下した。コロナ以前の目標値への復帰が必須である。

2024年度にむけて

1) 健全な病棟運営の継続

下記、回復期リハビリテーション病棟入院料2の施設基準の維持

- a) 新規入院患者のうち4割以上が重症の患者であること。
- b) 重症の患者の3割以上が退院時に日常生活機能が改善していること。
- c) 当該病棟において、退院患者のうち他の保険医療機関へ転院した者などを除く者の割合が7割以上であること。

2) 病棟稼働率の維持

病院経営上、必要とされた病棟稼働率の堅守に努める。特にコロナ以前の活発な病棟運営を今年こそは取り戻すことを目標とする。

3) 医療の質の向上

各種研究会、勉強会、学会などへの参加を推奨し、他医療施設へのアピールを行うと共に診療の場に知識・技術のフィードバックを行うよう努力する。

4) リハビリ診療の再構築

2024年4月には2名の医師がリハビリテーション病棟を担当することとなる。久しぶりに脳血管専門と整形リハビリに分担が分かれるが、担当患者数は従来よりも余裕が生まれるため、新たな病棟再建のために期待されるところ大である。更に診療報酬改定内容の確認、リハビリ診療動向の観察を行いながら、今後、有益なリハビリ診療を継続していくために診療体制の再構築について検討を行う。

職場紹介

1. 職員構成

ホスピス主監：	吉田 晋	ホスピス医：	淵崎蓉史
ホスピス長：	下稲葉順一	(同)	村田修一
ホスピス医長：	柴田冬樹	在宅ホスピス医長：	渡辺啓太郎
ホスピス医：	福永頼子	在宅ホスピス医：	田畑香
(同)	川上豪仁		(2024/4/1現在)

2. 診療内容/業務内容

- ① 外来：ホスピス相談（他院より当院への転入院・外来通院・在宅医療などの相談）
ホスピス外来（ホスピス相談後の患者の外来）
- ② 病棟：3A病棟 24床、3B病棟 24床、2C病棟 23床 計：71床
入院目的：全人的ケアの提供
疼痛などの身体症状マネジメント、レスパイトケア、在宅移行への準備、看取りなど
- ③ 在宅：別途報告あり
- ④ その他
 - 1) NPO法人栄光ホスピスセンター
栄光ホスピトラ発行、グリーンカウンセリングなど
COVID-19のため現在、栄光ホスピスセミナー（年2回：医療者・一般の方対象）、
栄光ターミナル口腔ケア研修会などについては中止としました。
 - 2) 講義・講演
医学部生、看護学生、高校生（医学部クラス）などを対象
 - 3) 研修の受け入れ
医学部生、医師、看護師などを対象
 - 4) 学会活動など
日本緩和医療学会、日本ホスピス緩和ケア協会、日本死の臨床研究会

2023年度を振り返って

2020年～22年度のいわゆる「コロナ禍」の3年間は、ホスピス病棟運営にとって困難を極めた時でした。しかし、2023年5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが5類感染症に移行し、ホスピス病棟での家族の面会制限などの感染対策も徐々に緩和されました。その結果、「コロナ禍」では平均病床利用率が70%台まで落ち込んだのに対し、2023年度は約87%とコロナ前の状態まで回復しました。しかし、まだコロナ前と同じようなケアの提供ができない苦悩の中、予定外の入院数も依然多く、多忙を極めた年度でもありました。このような中で、関わる患者さん・ご家族のために、『こころ』をこめてケアに従事してくれたスタッフ皆に感謝の思いです。

2024年度にむけて

2024年3月に川上医師、4月に淵崎医師、村田医師が入職となり久し振りにスタッフが充足しました。今年度も、栄光ホスピスの『こころ』を念頭に、患者さん・ご家族また地域のニーズに応えていけるように、『こころ』を込めて励んでいく所存です。

「コロナ禍」の3年間、私たちは多くの苦悩を経験しました。しかし、このようなコロナ禍で気付かされたことがあります。それはコロナ禍で提供できる『ケアの形』は変わっても、提供する『想い』、『こころ』は変わらない。そしてこの『想い』、『こころ』は必ず伝わるということです。これからも、コロナ前と同じようなケアの提供はできないかもしれませんが。またコロナ以外の要因で私たちが提供できる『ケアの形』が変わる時が再び来るかもしれません。しかし、最も大切なことは、いかにホスピスの『こころ』を育み、発揮させていくかということだと思ふのです。コロナを経験した私たちはきっと強くなっています。これからも様々な困難に、ホスピスの『こころ』を大切に対峙していきたいと思ふます。

2018～2023年度統計

年度	入院患者数	退院患者数	死亡退院患者数	生存退院患者数	予定外入院数	日数別の退院患者数			平均病床利用率	平均在院日数	ホスピス相談
						0-30日	31-60日	61日以上			
2018年度	587名	585名	478名 〈82%〉	107名 〈18%〉	160名 〈27%〉	364名 〈62%〉	124名 〈21%〉	97名 〈17%〉	83.6%	37.0日	667名
2019年度	645名	653名	481名 〈74%〉	172名 〈26%〉	189名 〈29%〉	405名 〈62%〉	135名 〈21%〉	113名 〈17%〉	89.9%	36.0日	658名
2020年度	622名	636名	439名 〈70%〉	197名 〈30%〉	216名 〈35%〉	430名 〈68%〉	120名 〈19%〉	86名 〈13%〉	77.2%	31.8日	683名
2021年度	565名	554名	422名 〈76%〉	132名 〈24%〉	169名 〈30%〉	388名 〈70%〉	87名 〈16%〉	79名 〈14%〉	74.3%	34.4日	693名
2022年度	538名	538名	409名 〈76%〉	129名 〈24%〉	155名 〈29%〉	359名 〈67%〉	103名 〈19%〉	76名 〈14%〉	80.6%	38.8日	631名
2023年度	534名	537名	434名 〈81%〉	103名 〈19%〉	163名 〈31%〉	329名 〈61%〉	94名 〈18%〉	114名 〈21%〉	86.5%	42.0日	661名

2023年度の当院のがん患者の在宅療養支援について

職場紹介

1. 職員構成

医師 4名（内科 1名、脳神経内科 1名、緩和ケア 2名）

看護師 4名（主任 1名 常勤 3名）

2. 診療内容

当科はがんの症状や精神的苦痛緩和を病院受診せずとも自宅で行う事ができる

在宅医療センターである。

また、在宅療養中に入院が必要な体調、精神的苦痛や介護困難になった場合は栄光病院のホスピスも利用できるようにしている。

2023年度では病院の面会制限も緩和されており、自宅で出来るだけ過ごし、最期は入院を選択する患者さん・ご家族が増えている。

療養場所の制限がないことは患者さん・ご家族にとって重要なことであり、できるだけ地域で暮らすことのできる環境や安心感を当科は提供することに努めている。

2023年度を振り返って

栄光病院の在宅医療センターは、1. 地域のがん治療病院や当院や他院の退院支援、2. 広範囲の訪問看護ステーションとの連携、3. 施設療養の支援を軸に置いた在宅療養を行っている。

2023年度の新規患者数は145件、往診を含めた自宅訪問数は1991件／年であった（図1）。自宅看取りは75件（図2）であった。

2023年度は前年度に比し看取り数は減少していたが、訪問件数や新規依頼は維持していた。在宅医療のみが正解ではなく、残された時間が短くても入院することが本人や家族にとって安心できる対応であれば入院も勧めている。

2024年度にむけて

現在の入院希望の多さから、自宅看取り数が減少するが、訪問件数は維持していた。

2024年4月から在宅緩和ケアの医師が増員となり、今後は訪問診療を増やすことができ、新規依頼を断らず、迅速に在宅に駆けつけることが可能になる。

また、入院の依頼が多ければ、癌治療病院、当院や他の緩和ケア病棟の退院支援の必要性も高くなり、当科はこれまで以上に積極的に退院支援を行う事ができる。

地域での医療の広がりのためには、訪問看護ステーションや施設との協働も必要で、医師だけでなく当科の看護師も訪問看護師、薬剤師やケアマネージャーと切れ目ない関係性強化を図っている。

2019～2023年 年間統計

図1：訪問件数と新規紹介件数

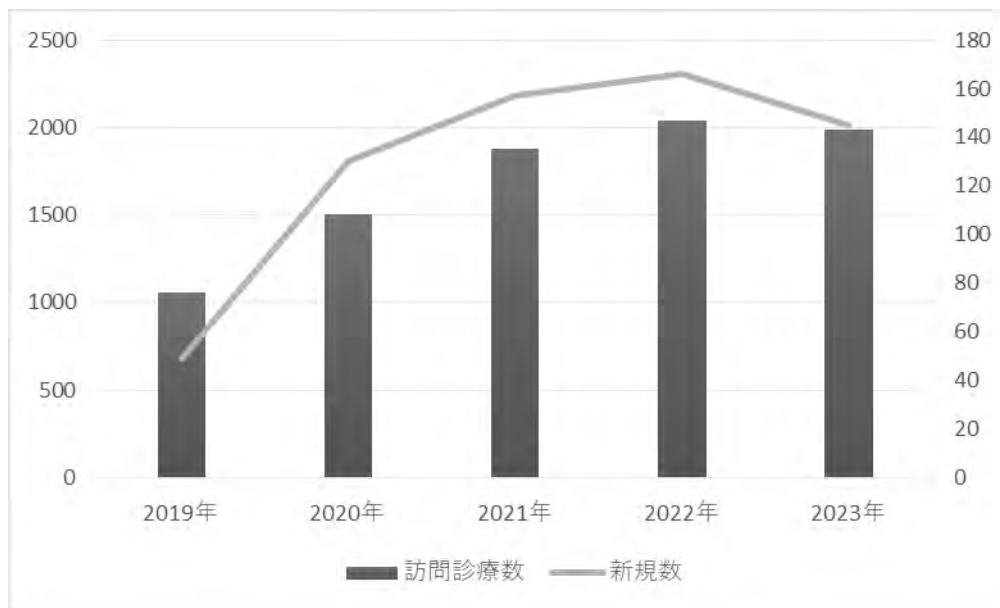
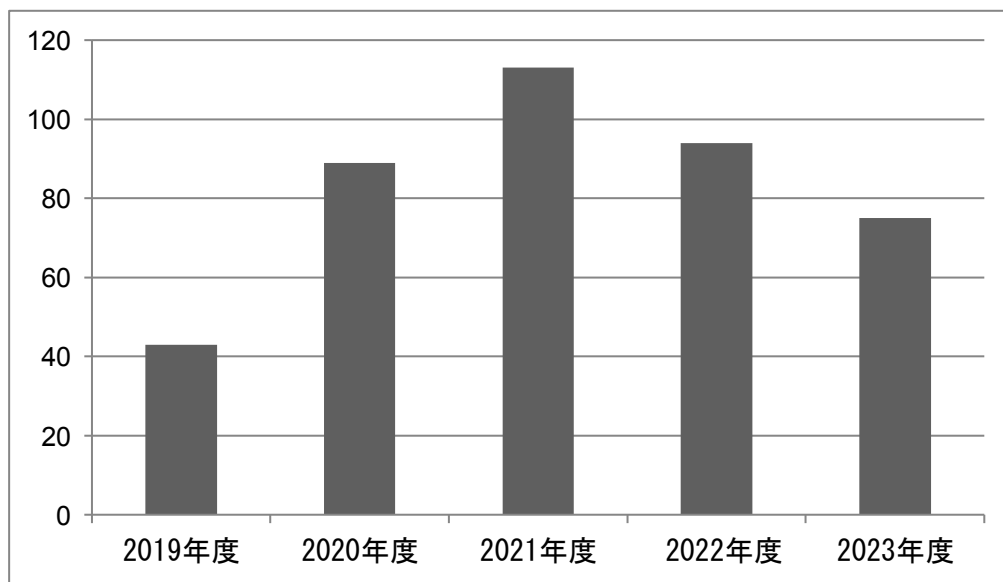


図2：自宅看取り件数



職場紹介

1. 歴史

栄光病院は創立にあたって①地域医療 ②救急医療 ③ホスピス ④健康管理（健診）の4本柱を掲げてスタートしました。

④の健診は開院当時、一般外来の中で当時の藤江院長（故人）と折田副院長（故人）がそれぞれ担い、今日に至る様々な健診の基礎を作りました。

平成24年（2012年）ホスピス病棟の増築に伴い、その一階に健診センターが新設され、働きを開始しました。1）親切 2）快適 3）迅速 4）正確 5）テラーメイド 6）安全をキーワードに受診者も増加の一途をたどっていました。

しかし、新型コロナ流行に伴い（図1）が示すように、2020年以降は右上がりの状況が一変してしまいました。

2. 職員構成

医師：井上 裕（健診センター長）

木下 節子（非常勤）、金澤 有紀子（非常勤）、近松 沙樹（非常勤）

胃内視鏡（中里医師）、脳ドック（大野医師、藤木医師）、

乳がん検診（井上医師、斎藤医師）

看護師：吉村 敦子（外来所属）

事務：高倉 誠一、檜山 典子、畑田 雅世、石井 真生、鹿間 初美、近藤 尚子

その他スタッフ：藤江 富由美（保健師）、臨床検査技師1名、放射線技師1名

3. 健診内容・業務内容

健診・ドックは一般健康人が対象です。日本人の死因は癌が30%、動脈硬化（心臓病・脳卒中）が30%を占めています。いずれも無症状で進行しますので、その早期発見・治療を目的として、各種がん検診や一般健診（定期健診）の実施。また、平成20年（2008年）に始まった特定健診（いわゆるメタボ健診）は、動脈硬化やその原因となる生活習慣病の発見と是正を目指しております。

事務職員は、各種健診組合などとの折衝、各企業への営業、電話での健診予約対応、診察介助、各検査の場所へのご案内、報告書作成の補助、事前案内・報告書・請求書の発送、健診料金の受領など、多岐に亘る業務を担当しています。

2023年度を振り返って

2020年からの新型コロナ流行による企業倒産や人員削減などの理由から、右上がりであった受診数の伸びが鈍っています。

また、長年勤務された折田総院長(故人)、川端医師がお辞めになり、非常勤医への体制変更となったために、2023年度開始当初は各企業や受診者の方々にこれまでとは違う対応をお願いすることもありましたが、関係各課のご協力により、図1)が示すように収入面では前年度を上回る実績を上げる事ができました。

2024年度に向けて

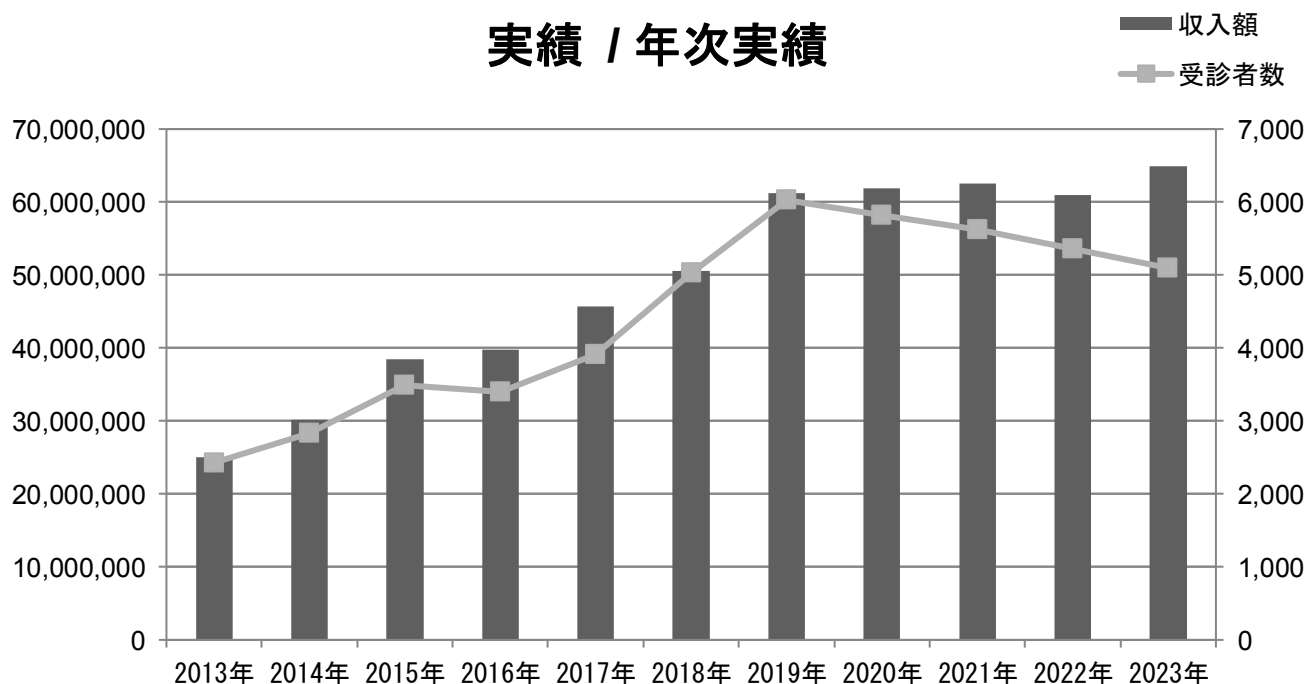
医療介護費増加に対して、生活習慣の予防や癌の早期発見・治療を通じた医療費抑制の為、今後ますます健診は重要視されることになります。近い将来、診療報酬だけに重きを置いた病院経営では、中・長期での経営は困難になると思われ、健診部門と診療部門を連動させた経営戦略がカギになると考えます。

さらに今後、健診運営を盛り上げていくには、大量退職が始まる団塊世代、健康志向の強い方、ライフスタイルにこだわりを持つ方など、いかいに個人や企業のニーズに対応できるかが重要になります。

栄光会健診センターとしては『101番目の病院』を目指し、一人ひとりの健康に対する不安に応えられるよう、関係各課と協力しながら、健診運営を行っていく所存です。

年間統計

図1:





診療技術部

職場紹介

1. 職員構成

薬剤師 3名

調剤助手 2名

2. 業務内容

入院患者の持参薬鑑別

入院患者の内服薬・外用薬・注射薬の調剤

入院患者に対する薬剤管理指導

一部外来患者の注射剤の混注

医薬品の適正管理

各種委員会等への参画

新型コロナワクチンの管理と調整

2023年度を振り返って

2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、医療提供体制は、入院措置を原則とする行政の関与を前提とした限られた医療機関による特別な対応から、幅広い医療機関による自律的な通常の対応に移行していくこととされた。

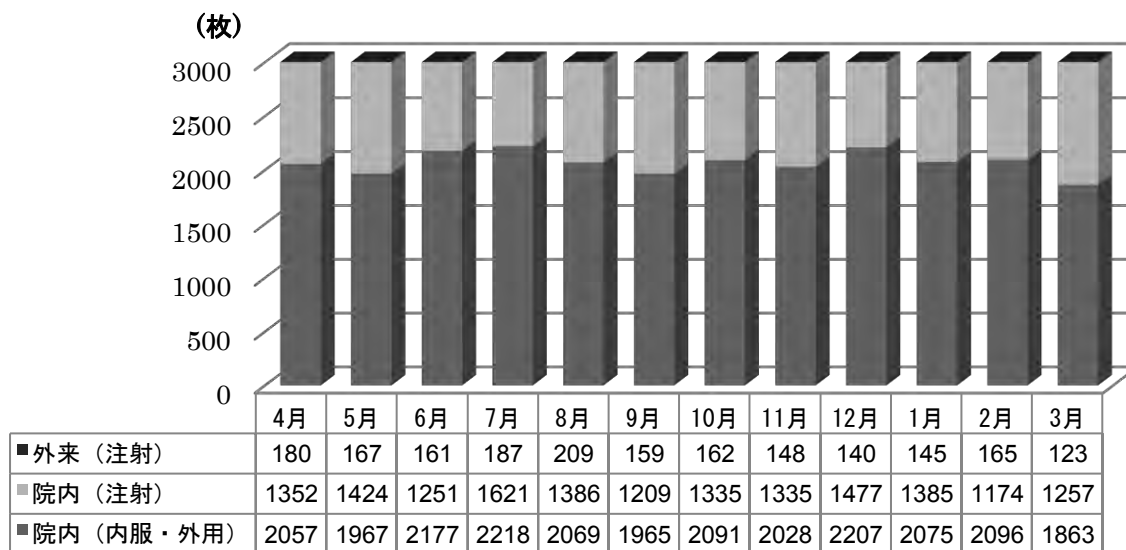
全額公費負担であった新型コロナウイルス治療薬も、上限額があるものの医療費の自己負担割合に応じて、自己負担が発生するようになり、2024年4月からは上限額を超える部分の公費負担も終了した。

また、新型コロナワクチンの全額公費による接種も2024年3月31日で終了し、秋冬には高齢者を対象とした自治体による定期接種が開始されるなど、新型コロナウイルス感染症への対応は変化しつつある。

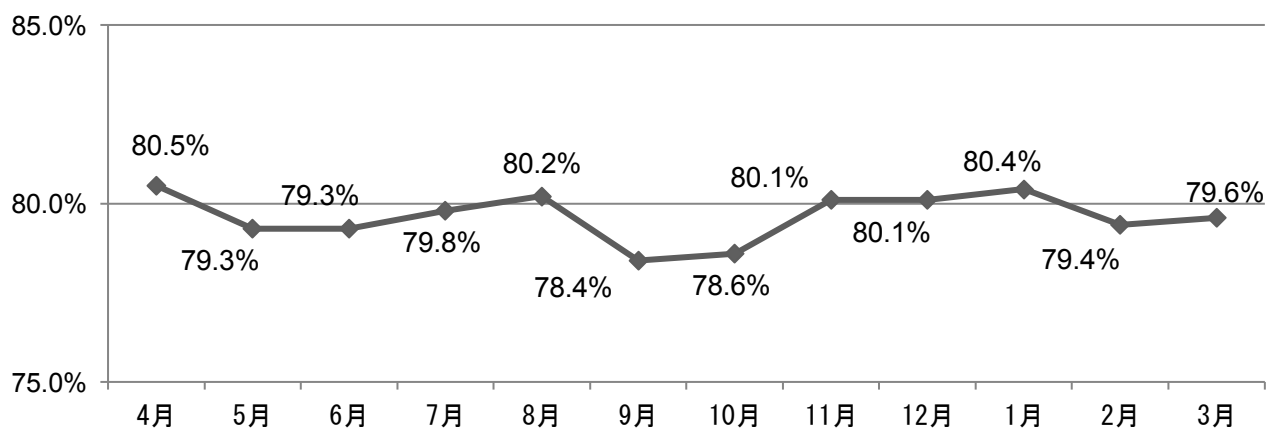
医薬品の供給不足に関しては、原材料調達上の問題、採算性の問題、製造・品質トラブル、需要増など様々な原因はあるが、改善の兆しは見えず、苦慮している状況である。

2023年度、薬剤課は、期限切れ廃棄薬剤金額の5%減を目標の一つとしていた。期限切迫医薬品リストを提示し処方協力を求めること、特定患者で使用する臨時採用薬の在庫管理をおこなうことで、この目標は達成することができ、経費削減に繋げることができたと考えている。

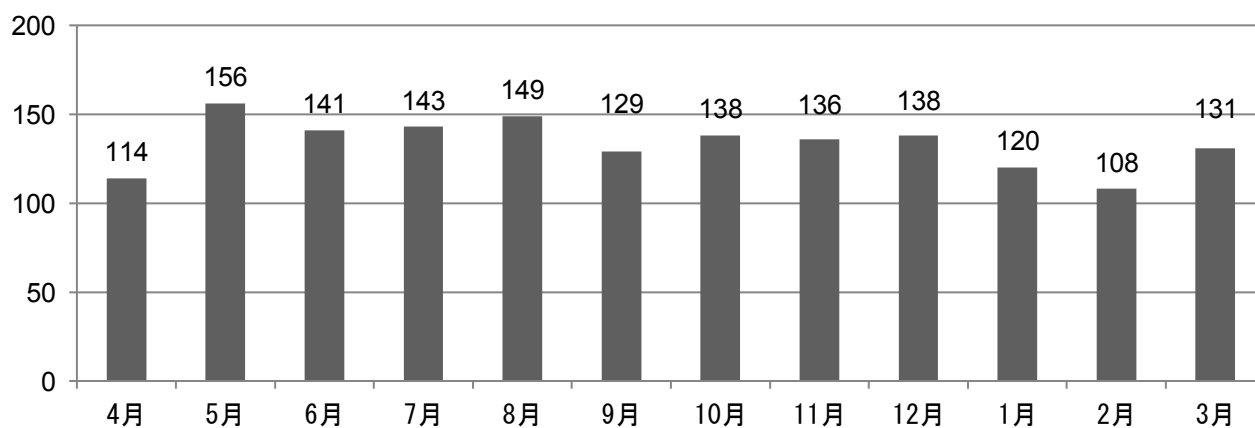
院内処方箋枚数



全外来処方箋発行件数に対する
一般名処方加算取得率



持参薬鑑別件数



職場紹介

1. 職員構成

放射線技師 5名（男性3名、女性2名）

クラーク 1名（女性1名） 計6名

2. 業務内容

一般撮影、ポータブルX線撮影、骨塩定量検査、CT、胃透視、大腸透視、嚥下造影、MRI、MRCP、マンモグラフィー、健康診断撮影

2023年度を振り返って

2023年度は、2022年度までと比べて新型コロナウイルスの影響も落ち着き、検査件数の増加がみられた。

放射線室関連の各種検査も全てが増加しており、緩やかではあるが回復基調が見られる。

2024年度もすべての検査が増加することを願いたい。

2022～2023年度 統計

一般撮影

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	538	550	729	619	635	542	684	667	646	542	509	624	7285
2023年度	490	637	689	635	757	584	692	697	722	540	653	600	7696

CT

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	280	246	306	247	198	241	292	275	198	196	252	271	3002
2023年度	264	249	267	288	294	252	345	273	244	251	254	255	3236

MRI

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	86	90	103	67	56	50	69	63	62	72	51	74	843
2023年度	70	60	83	78	72	85	78	88	67	59	81	86	907

胃透視

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	7	8	12	12	19	18	15	18	24	17	26	15	191
2023年度	8	10	28	22	14	19	13	9	18	20	18	20	199

MMG

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	6	18	33	19	23	33	26	37	37	21	15	26	294
2023年度	20	19	31	29	19	26	36	28	34	29	20	33	324

臨床検査室

技師長 今坂 正生

職場紹介

1. 職員構成
臨床検査技師 4 名 (非常勤) 検査技師 1 名
2. 業務内容
 - 1) 検体検査
血液、尿、糞便等の分析
 - 2) 生理検査
心電図、超音波、呼吸機能、脳波、眼底カメラ、脈波
3. 検査機器
血球計数器、血液ガス分析装置、電解質測定装置、生化学自動分析装置、尿素呼気分析装置、心電計、24時間ホルター心電計、超音波診断装置、肺機能測定器、脳波計、筋電計、無散瞳眼底カメラ、血圧脈波計、24時間血圧測定器、簡易型睡眠時無呼吸検査装置

2023年度を振り返って

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ変更となりました。PCR検査はより簡易的な抗原検査へと移行し、健診での肺機能検査も再開しました。また、研修会や学会などもオンラインで無く現地開催が増えてきました。しかし、コロナによるクラスター発生もあり、医療人としてはまだまだ気を抜けない日々が続きました。

その他として、6月に超音波診断装置、11月に尿分析装置、12月に尿素呼気分析装置（ピロリ菌感染診断）を新しい機器へ更新しました。

2019～2023年度 統計

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
血液検査	4,208	3,655	3,544	3,357	3,680
尿検査	8,876	8,497	9,010	8,688	8,966
生化学・免疫（院内）	7,317	5,682	6,489	7,330	9,058
血液・生化学・免疫（外注）	12,130	11,400	12,648	13,904	11,860
細菌検査	257	182	189	239	287
病理・細胞診	372	279	368	333	358
心電図	4,706	4,609	4,721	4,409	4,621
ホルター心電図	59	60	51	44	53
肺機能	324	52	28	41	302
腹部エコー	1366	1187	1,252	1,066	970
表在エコー	537	530	542	472	478
心エコー	420	340	279	307	300
脳波	37	18	17	17	18
眼底カメラ	297	314	330	338	346
血圧脈波	177	159	167	189	186
その他	14	22	16	18	21

(件)

リハビリテーション課

課長 平島 哲也

職場紹介

1. 職員構成

課長 理学療法士 平島 哲也 課長代理 理学療法士 石元 淳也

主任 理学療法士 長谷川裕介

他 理学療法士 11名 作業療法士 9名 言語聴覚士 6名 音楽療法士 1名 リハビリ助手 1名

2. 業務内容

- 1) 入院、外来患者治療・訓練
- 2) 各部署カンファレンス、ミーティング参加
- 3) 退院前訪問指導・住宅改修案作成・調査実施
- 4) 介護予防事業（うきうきルーム・脳若）の運営

2023年度を振り返って

新型コロナに対する感染対策も徐々に緩和される中、時折発生する院内感染にも感染拡大防止対策に迅速に対応することができました。

また、コロナ前から要望のあった言語聴覚療法士による訪問リハビリを、まだ件数は少ないものの開始することができました。しかし、病院部門の業績は、病棟稼働率低迷の影響を受けて、厳しい結果となりました。

2024年度は、リハビリテーション課内のジョブローテーションを積極的に行う予定としており、各部門にて、業務改善等新たな取り組みを行っていきたいと考えています。

2023年度 年間統計

(単位数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
PT	入院	3763	3998	4304	3872	4185	4162
	外来	213	194	216	229	218	261
OT	入院	2750	2891	3063	2779	2976	2918
	外来	18	14	19	16	6	14
ST	入院	1860	1882	1673	1553	1697	2014
	外来	2	0	8	8	12	21
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
PT	入院	4080	3718	4050	2717	3732	3986
	外来	262	285	248	224	283	369
OT	入院	2845	2708	2837	1851	2412	2652
	外来	28	37	46	16	13	31
ST	入院	1952	1782	1745	1163	1487	1580
	外来	20	28	27	28	32	38

■ 栄養管理課

課長代理 馬場 ひとみ

職場紹介

1. 職員構成

病院側責任者：馬場 ひとみ 管理栄養士 3名

委託側：（日清医療食品株式会社）チーフ 秋山 妃代

管理栄養士 1名 栄養士 3名 調理師 3名 調理員 3名 食器洗浄パート 6名

1日実働人数 8～9名

2. 業務内容

1) 給食管理：入院患者、付添食、職員食

2) 栄養管理：入院患者

3) 栄養指導：入院患者（糖尿病教育入院を含む）、外来患者、特定健診

2023年度を振り返って

- ・給食委託会社から委託料の値上げの提案があり、話し合いの末4月から契約が改定された。委託料は値上げに至ったが、その中のコメについては、地域貢献を目的とした志免町の米穀店との取引を提案し、交渉の結果、コメの仕入金額は年間約60万円のコスト削減ができた。
- ・2023年度の部門目標の成果をはかるための数値目標を掲げた。
専門職のスキルアップのために、研修会などの参加を2回／年以上とし、研修案内担当を決め、実際に参加した研修は月報に記録するようにした。
栄養指導件数（特定保健指導も含め）55件／月の目標値は、糖尿病専門医の異動の影響もあり、下半期は達成できなくなってしまい、残課題となった。
- ・須恵町と志免町から地域ケア会議の出席要請があり、助言者として地域貢献に努めた。

2023年度 年間統計

食種別食数（単位：食）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般食	9381	8878	9969	9852	9350	9706	9641	9518	9983	9642	9461	8730
特別食	1682	2644	2642	2828	2927	2657	2579	1705	1551	1617	1755	2154
合計	11063	11522	12611	12680	12277	12363	12217	11223	11534	11259	11216	884

栄養指導件数（単位：件）

※入院にはホスピス病棟の栄養相談を含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来	43	34	31	32	28	27	27	18	21	8	8	8
糖尿病透析予防指導	7	6	5	2	1	3	4	5	0	0	0	0
入院	22	12	13	11	8	10	8	3	10	3	3	6
合計	72	52	49	45	37	40	39	26	31	11	11	14
保健指導	0	3	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0
総合計	72	55	51	47	37	40	41	26	31	11	11	14

職場紹介

1. 医療機器安全管理室とは

栄光病院を訪れる患者が安心して治療を受け、そして療養できるように、医療機器を必要時迅速に供給できるよう機器の整備、保守点検を主業務とする部署である。

2. 職員構成

室長：的野 修一（臨床工学技士）

職員：飯田 多佳子（臨床工学技士）

3. 業務内容

1. 医療機器保守点検計画作成
2. 医療機器保守点検
3. 医療機器修理対応
4. 医療機器貸出し対応
5. 医療機器に関する情報収集
6. 医療機器新規、入替え購入時の機種選定
7. 医療機器に関する研修会実施
8. 睡眠時無呼吸症候群検査調整
9. その他

2023年度を振り返って

2023年度は新型コロナも落ち着きを見せるようにはなったが、機器の貸し出し等の際し、引き続き清掃、消毒を徹底して行った。また2023年度は2005年病院移転に伴い購入した機器が老朽化し、不具合、故障が頻発するようになり、人工呼吸器をはじめ、輸液ポンプ、シリンジポンプ等製造中止、故障対応期間が過ぎるなど修理用部品が入手不能な機器も多くなる中、日頃の点検を徹底し出来るだけ不具合、故障が起こらぬよう、また早期発見を心掛けてきた。

また、2023年度は小型シリンジポンプを病棟のみならず在宅でも使用する頻度が高くなり、特に在宅用に容量の大きいポンプも購入、今後従来型とともに台数、後継機種への変更等計画的に行う必要性を感じている。

2024年度にむけて

2024年度は前述の通り保有機器の更新、必要数量の再検討が必要となることから、それに伴うマニュアル等書類の備えに加え、業務の見直し効率化を行い、医療機器安全管理の更なる充実を図り、今まで以上にすべての機器を安全に迅速に必要部署に供給できるよう日頃の業務に励んでいきたいと思う。

看護部

コロナウイルス感染症と、私たち医療現場との闘いも足掛け5年目となりました。

誰もがこれだけの苦しみと長期間向き合うことになるとは、想像もしなかったのではないのでしょうか。2023年5月に5類へと引き下げられましたが、当院においても多くの行動制限を迅速に緩和することは容易ではなく、現場を支える看護職員をはじめとする多くの職種の負担軽減にはなかなか繋がることはありませんでした。度重なるコロナウイルスの感染拡大においては、全ての病棟が経験する事態となり、その中で、スタッフの感染が相次ぎ、休暇を要することとなり、継続的にマンパワーの確保ができない状況も発生しました。都度の勤務変更と部署間の応援体制に対しても柔軟に応じ、スタッフ一人一人が必死に踏ん張り、医療と療養の現場を支える姿へと変化し、互いに助け合う心が自然と生まれていったように思います。「栄光会フィロソフィ～経営理念～」にも記されているように、各部署がモーターとなって、「栄光号」を牽引していく姿へと成長していることを実感いたしました。それぞれの部署の牽引者として個々のスタッフにしっかりと向き合い、隊列を整えて看護管理者として力強く前進する師長会メンバーの姿勢に逞しさを感じさせられた1年でした。

日本の人口減少と並行して生産年齢人口の減少も余儀なくされる世の中へと変化しています。また、働き手の不足は、様々な職種に大きな影響を与え、人財の確保に苦戦していく時代へと移り変わる中で、今年度は当院初の派遣看護師の導入と協働を実現することができました。子育て世代のスタッフとプラチナ世代のスタッフ、そして自身の病気を抱えながら働くスタッフなど、様々な背景の違いにも理解を示すことの必要性和、多様な働き方に考慮した勤務形態の構築については、来年度の重要課題として更なる取り組みと検討が必要であると考えています。

最後になりますが、今年度末に実施した看護部研修会におきましては、数年ぶりに「フィロソフィ発表会」を開催することができました。

「ウキウキ・ワクワク・フィロソフィ～私の看護実践～」というネーミングのもとで、自身の看護実践のエピソードを栄光会フィロソフィに紐づけ、各部署より発表をしてもらいました。コロナウイルスとの長期戦の中で、多くの制限や当たり前のことが当たり前に対応できない環境においても、栄光会看護部のあるべき姿【栄光会理念（フィロソフィ）を理解し、実践できる看護部となる】をスタッフ一人一人が体得しながら、それぞれの成長へと繋がっていることに感銘を受けました。看護部理念の「～優しさ～」に包まれた2023年度であり、私自身が多くのスタッフから「癒し癒される」を感じることができました。素晴らしいスタッフとともに「栄光会の看護師として大切にしていくことは何か」を改めて一緒に考えていくことができる看護部へと成長し、益々発展できるように努力をして参ります。



看護部目標

【あるべき姿】

『栄光会理念（フィロソフィ）を理解し、実践できる看護部となる』

【目標】

1. 栄光会フィロソフィ、経営に対する関心・意識を高く持つことのできる看護部の組織風土を育てる
2. ホスピスマインドを看護部全体で実践し、看護サービス・看護の質向上を図る
3. 各部署の専門性を追求し、使命感・情熱を持って業務に従事する事で、離職防止に繋げる

2023年4月1日

看護部

栄光会看護部理念

優

～やさしさ～

人の憂を背負える優しい看護師であれ
人が憂いを背負うと書いて優と読む
私たちは、患者さんの憂
（悩み・悲しみ・痛み・苦しみ）
覚悟を持って共に背負い、常に寄り
添う看護師でありたいと思います

職場紹介

1. 職員構成

看護部長 : 堤 千香子
副看護部長 : 下稲葉 道一
主 任 : 藤江 富由美
准看護師 : 池田 よしの (総合案内)

2. 業務内容

1. 看護部の運営方針
2. 看護部の人事配置・人事・人材活用
3. 看護師の採用計画及び就業活動
4. 教育活動・人材育成
5. 病院運営への参画

2023年度を振り返って

1. 栄光会フィロソフィ、経営に対する関心・意識を高く持つことのできる看護部の組織風土を育てる

・栄光会フィロソフィ浸透への対策

1) フィロソフィの唱和 : 各部署の取り組み

週3回以上 : 2% (2022年度)

毎日4%+週3回以上 14.1% : 18.1% (2023年度) 16.1%増加
(2022年度・2023年度看護部アンケートより)

2) フィロソフィ発表会の実施

【ウキウキ・ワクワク・フィロソフィ～私の看護実践～】

自身の看護実践のエピソードを栄光会フィロソフィに紐づけて、師長会から各部署へ年度末の看護部研修会での発表会を実施

3) 稼働率について

2023年度目標 : 89% 実績 : 83.8% (未達)

コロナウイルス感染拡大等々による、入院制限の影響

4) 満足度調査

① 当院を選んだ理由

病院の評判 : 11% + 医療水準が高い : 3% (前年度比+1%)

医師・看護師等が親切 : 病棟6% 外来9% ファミリークリニック18%

② 職員満足度調査

看護部理念の理解 : 十分にある+ある程度ある 13.6%+71.8%
= 85.4% (前年度比+3.4%)

- 残課題： 1) 栄光会フィロソフィの更なる浸透
2) 経営基盤の確立、安定（電子カルテの導入）

2. ホスピスマインドを看護部全体で実践し、看護サービス・看護の質向上を図る
- 1) 看護師・看護補助者との協働推進研修受講（看護部長・副看護部長、看護師長が参加）
 - 2) 福岡大学筑紫病院への見学
 - 3) プロジェクトチームの立ちあげ
 - 4) 看護補助者のマニュアル作成（看護主任会）
 - 5) 看護師・看護補助者向けの研修実施

☞看護補助者体制充実加算の取得

- 残課題： 1) ホスピスマインドの更なる浸透
2) 看護師・看護補助者（他職種を含む）との協働推進
3) 認知症・高齢者・多死社会への対応（院内ディの再開）

3. 各部署の専門性を追求し、使命感・情熱を持って業務に従事する事で離職防止につなげる

1) 職位別研修

- ・ 師長会： eラーニング「看護管理者コース」より毎月事前視聴のもと
師長会の中で輪番にて座長を設定しディスカッション実施
- ・ 主任会： 「タスク・シフト／シェア多職種共同をめぐる現状を整理する」
事前視聴とディスカッション実施
「看護主任の役割について」レポート作成
- ・ 副主任会： 「これからのコーチング・ファシリテーション」事前視聴と
ディスカッション
「看護副主任の役割について」レポート作成

2) 人事制度リ・スタートの取り組み

① コミュニケーションシートの活用

- ・ 目標の明確化
- ・ 部署目標と個人目標の連動

② 目標期待整理シートを使用し各部署で部署長との面談を実施

- ・ 「期待目標」と「本人の目標」設定のすり合わせ
- ・ 部署長からスタッフへ期待する役割と行動の明確化が実現

3) 職員満足度調査の結果

- ・ 仕事へのやりがい

非常にある＋ある程度ある→15.8%＋54.2%＝70%（前年度比＋4%）

- ・ 福利厚生の満足

非常にある＋ある程度ある→2.3%＋19.2%＝21.5%（前年度比＋5.5%）

4) 離職率 【目標： 10%以下】

- ・ 看護要員： 10.2%（前年度比－6.6%・－14名）
- ・ 早期退職者 21名中 7名（33%）＜早期退職： 入職後1年未満＞

2024年度に向けて

1. 栄光会フィロソフィ、経営に対する関心・意識を高く持つことができる看護部の組織風土を育てる
2. ホスピスマインドを看護部全体で実践し、看護サービス・看護の質向上を図る
3. 多様な働き方に考慮した勤務形態を構築し、働きがいを持って業務に励む事ができる
4. 看護師と看護補助者（他職種も含め）がパートナーシップを形成し、患者中心のケアを実践する

年間統計

2023年度 看護要員推移

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
看護要員数 （月初値）	204 (4/1入職 4)	208	210	210	208	210	211
入職者数 (2日～翌月1日)	5	3	1	4	4	4	4
法人内異動数 (2日～翌月1日)							
退職者数	1	1	1	6	2	3	

	11月	12月	1月	2月	3月	3月末日の 看護要員数	計
看護要員数 （月初値）	215	213	212	214	214	215（注3）	
入職者数 (2日～翌月1日)		2	4		2（注1）		33
法人内異動数 (2日～翌月1日)			-1		-1（注2）		-2
退職者数	2	3	1		6 (内3/31付 5)		26

（注1）2024年 4月1日の入職者は含まれない

（注2）2024年3月31日付異動 3月末日は在籍

（注3）2024年3月31日の退職者は含まれない

（敬称略）

職場紹介

1. 職員構成

看護師 16名・准看護師 3名・ケアワーカー 1名・クラーク 1名

(消化器内視鏡技師 4名・福岡糖尿病療養指導士 1名・日本糖尿病療養指導士 1名)

師長： 岡崎 祥子

主任： 小林 千恵・桐島 あす香

副主任：中村 直子・山下 香・鈴木 裕美子

2. 診療内容／業務内容

総合診療科・発熱外来・循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・脳神経内科・糖尿病内科

ホスピス外来（相談）・外科・肛門科・整形外科・泌尿器科・消化器内視鏡センター

健診センター・中材

2023年度を振り返って

2023年度外来目標

【栄光会フィロソフィーを実践し『栄光会の玄関』としての誇りと責任をもつ】

1. 栄光会フィロソフィーの理解とホスピスマインドの実践

2. 初診を含む外来受診率の増加

3. ワークライフバランスの充実

4. 地域との連携による継続看護の充実

5. 接遇の向上

2023年度も特に夏と冬は、新型コロナウイルス感染症・インフルエンザは繰り返し流行の波が訪れ、流行時期は、発熱外来を求めて来院する患者さんは後を絶たなかった。特に夜間帯の発熱外来は需要が多く、時間外初診率の回復は実現し、成長し続けた年でもあった。一方で様々な要因が絡み合い、時間内においては外来受診率が伸び悩んだ。患者層も高齢化が進み（当院かかりつけの患者さんの約50%が70歳以上）当院に通院するための交通手段に不便さを感じる方や、自力では通院できない方も増えてきており、すぐには解決できない問題も多く苦慮しているが、新型コロナウイルス感染症の分類が5類へ移行したことで、流行期以外は抗原検査を目的に受診する患者さんが減少していったのも伸び悩みの要因のひとつだった。

また、年度の後半は常勤医師の異動があり、医師もマンパワー不足と闘いながらの業務遂行だった。当院は、拠点病院をはじめ地域の開業医の先生方とも連携を取り、中核病院としての役割を果たす必要があるが、受け入れ体制が不十分でお断りをせざるを得ない状況もあった。しかし、このような苦しい時期だったからこそ、医師・コメディカルが「建設的な話し合いが必要だ」と改めて感じる事ができ、コミュニケーションを取り合う機会も増えていった。

そして何よりも、外来スタッフが心身ともに健康でいられる様に、プライベートの時間も大切にできる配慮（休みの確保）やスタッフ個々の得意分野の見極めをしながらの業務分担を実行していった。時には厳しいご指摘を受ける事もあるが、スタッフひとり一人が「外来は栄光病院の玄関であり、顔」という事を意識できていると感じる。次年度は新体制となり、医師の増員の予定もある。外来の診療体制を整え、1人でも多くの患者さんに対応できるように、医師・コメディカルが協働していこうと思う。

2024年度に向けて

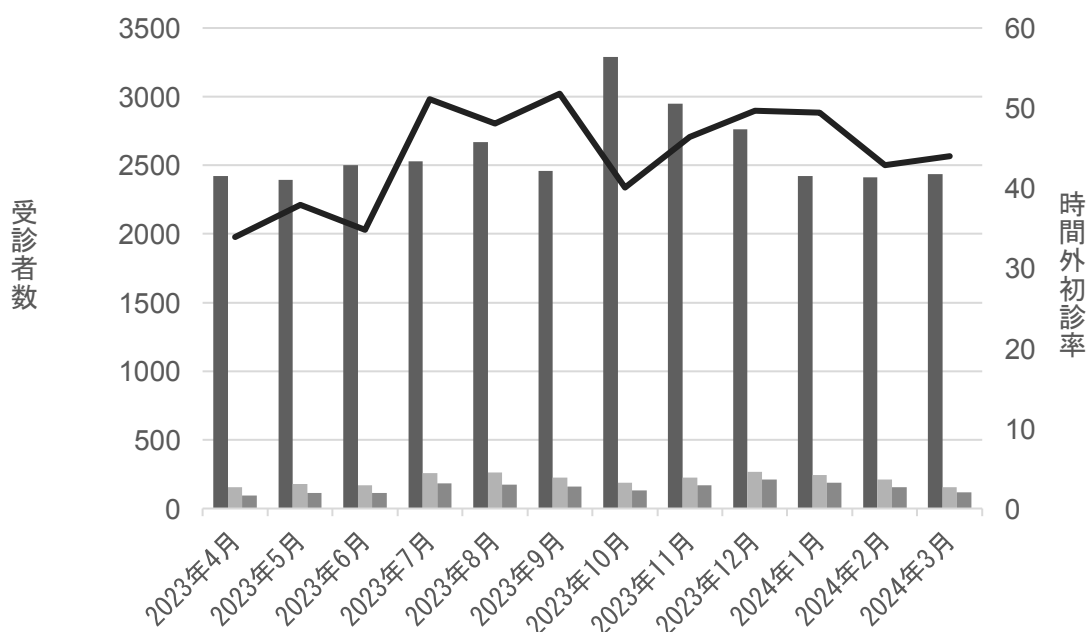
よき伝統を大切に、悪しき習慣は見直しをしていき、特に接遇面に配慮し地域の方々へ細やかな対応を心掛けたい。

2024年度外来目標

【『栄光会の玄関』としての誇りと責任をもち、選ばれる外来となる】

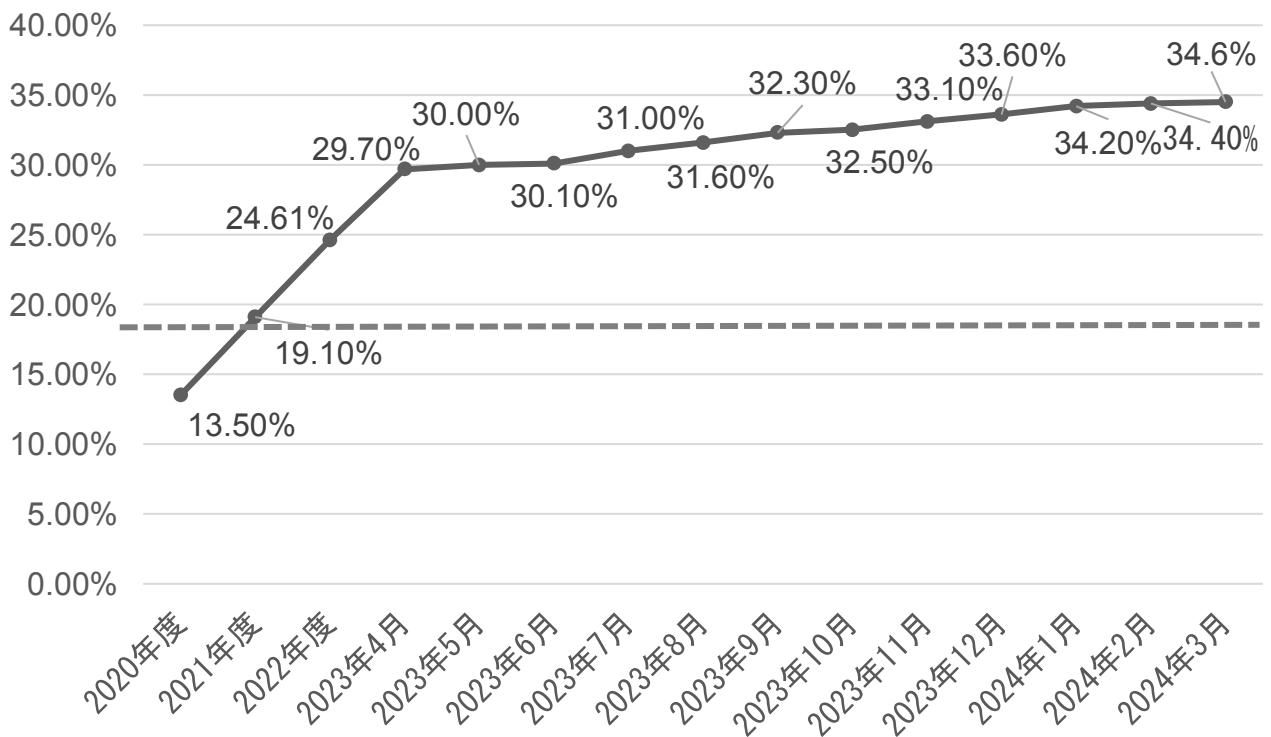
1. 「優しさ」を大切にしながら栄光会フィロソフィーの理解とホスピスマインドの実践を通じて、接遇力を高める
2. 外来受診率の増加
3. ワークライフバランスの充実
4. 地域・多職種との連携を強化し、「協働」を実行する
5. コスト意識をもち、適切な在庫管理をする

2023年度外来受診者総数

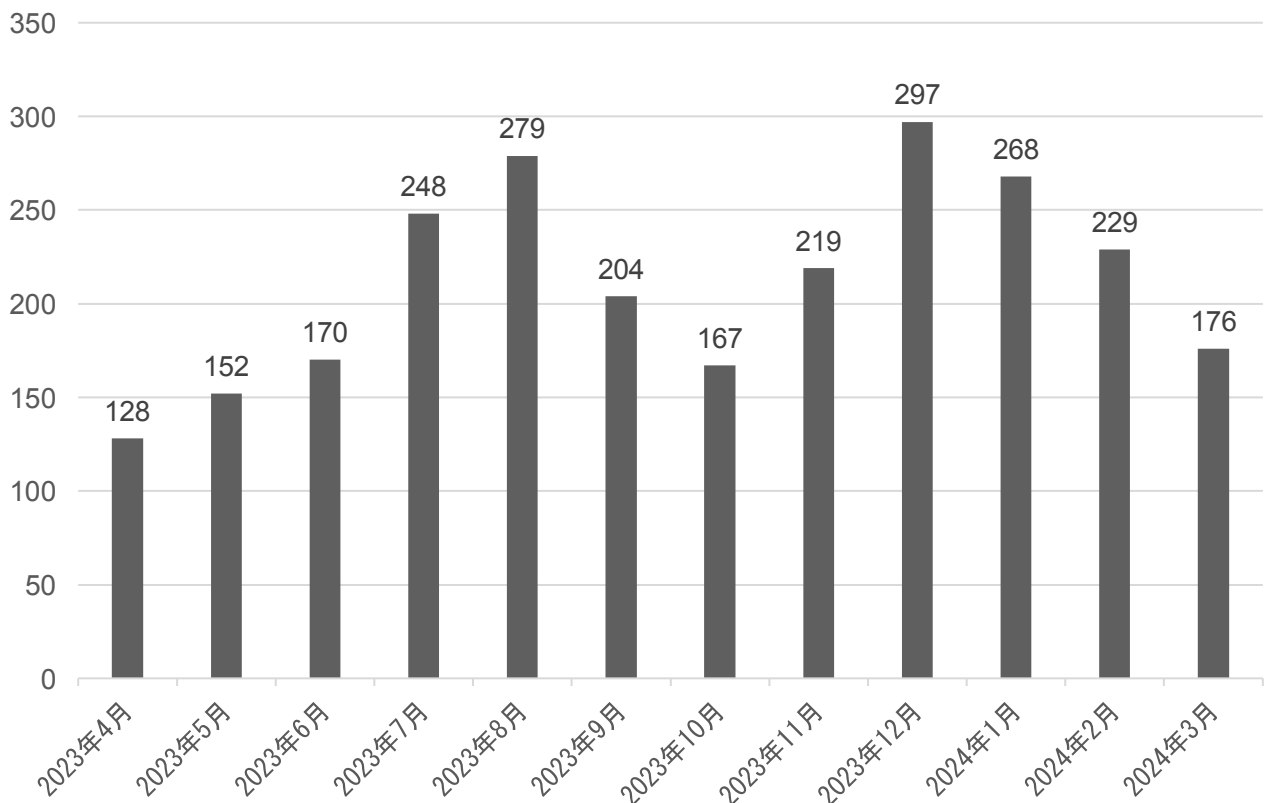


	2023 年4月	2023 年5月	2023 年6月	2023 年7月	2023 年8月	2023 年9月	2023 年10 月	2023 年11 月	2023 年12 月	2024 年1月	2024 年2月	2024 年3月
■ 受診者数総計 (人)	2421	2393	2500	2529	2670	2458	3290	2947	2762	2420	2412	2435
■ 時間外受診者数(人)	156	180	171	258	261	223	187	223	268	245	213	155
■ 時間外初診者数 (人)	95	112	115	181	175	162	132	167	211	187	157	120
— 当月時間外初診率 (%)	33.9	37.9	34.8	51.1	48.1	51.8	40.1	46.4	49.7	49.4	42.9	44

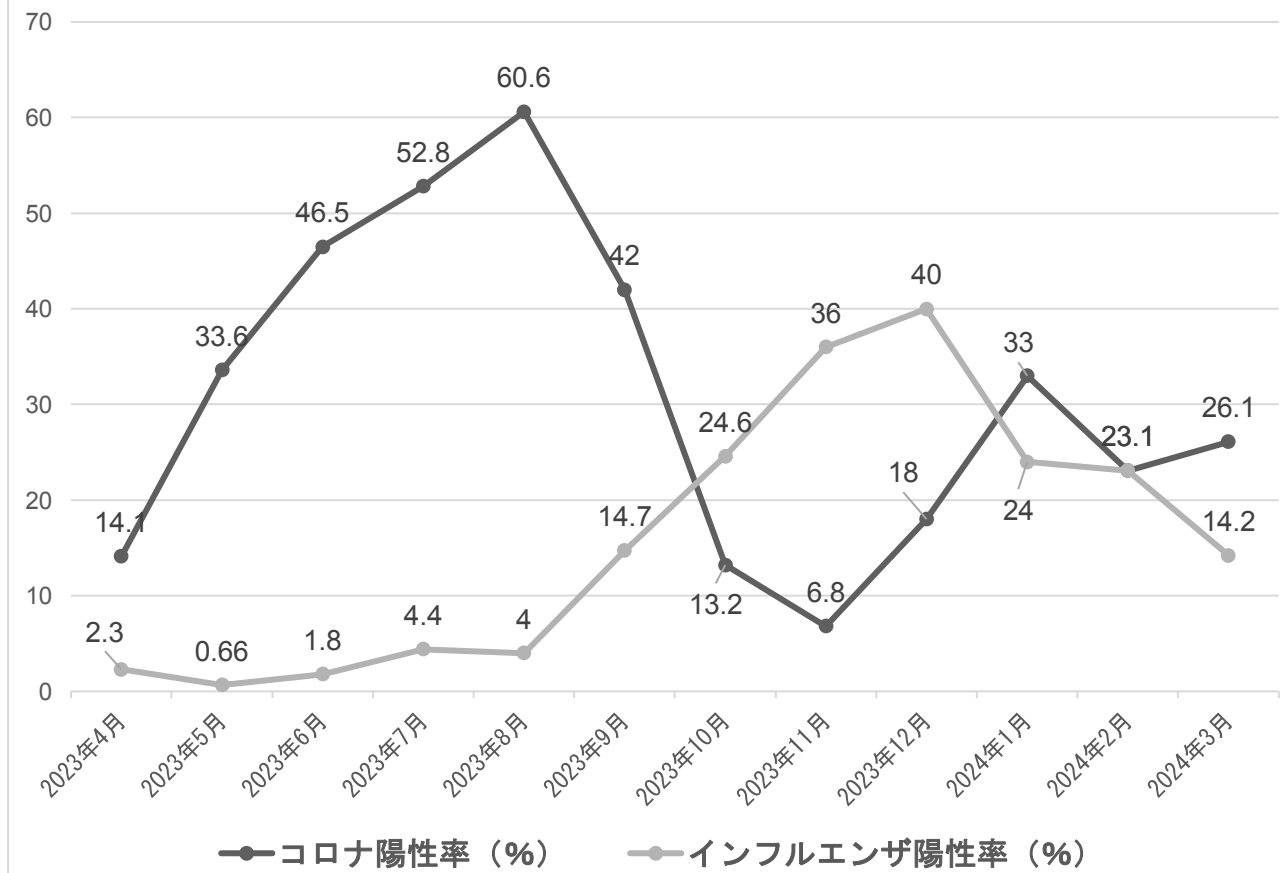
時間外初診率3年間累計平均



2023年度 コロナ・インフル抗原同時検出検査件数



2023年度 コロナ・インフル陽性率比較



職場紹介

1. 職員構成

師 長：寺田 泰子 主 任：福地 祐子

看護師 24 名（うち緩和ケア認定看護師 1 名、がん性疼痛認定看護師 2 名）

看護助手 2 名 クラーク 1 名

2. 診療内容／業務内容

ホスピス病棟の理念に沿った全人的ケアを提供する

2023 年度を振り返って

1. 栄光会フィロソフィに基づいた、安心・安全で癒し癒されるケアを提供する
2. コミュニケーション力を深め、働きやすい職場作りに個々が貢献する
3. 積極的な経営参画 21 床 88% 稼働率を目標に入退院支援を行う

1. について

昨年からの引き続きで、毎月の病棟目標を掲げ目標は各々を思いやる視点で、栄光会フィロソフィに関連づけ振り返りの機会になった。

「ウキウキ・ワクワク・フィロソフィ」の発表もありスタッフ個々の看護の振り返りの機会ともなった。安心・安全の点では防災に特化し取り組んだことで意識づけにはなったが、安心・安全な環境づくりの基本は患者さんの療養の場であることに再度着目し、次年度も取り組んでいく必要がある。

2. について

ガーデニングとメダカの飼育は継続できたが、病室の環境整備には課題が残った。また、コミュニケーション技術向上にむけファシリテーションの学習会は実施出来た。業務改善としては、診断カンファレンスを業務時間内に行うことを目標に取り組み、開始時間の意識付けを行うことはできたが、残業削減まではできなかった。倫理の事例検討の実施は出来たが、日々のカンファレンスでの実施を次年度は目指せるよう継続したい。

3. について、稼働率 89%（21 床）、入院受けを 16 床／月以上とし、入退院支援を行う。入院受けも断らずに受け入れることができた。感染症や産休・育休、スタッフ自身の病休などでの欠勤や欠員もあり、他部署の応援をもらい対応できた。

入院患者数 1 5 8 名（予定外入院患者数 5 0 名）、退院患者数 1 6 0 名（死亡退院者数 1 2 8 名）
平均病床利用率 9 5 . 4 %、平均在院日数 5 2 . 7 日、一日平均患者数 2 2 . 9 名



2 0 2 4 年度に向けて

ホスピス病棟の理念に沿った全人的ケアの提供の継続

1. 接遇・倫理

ホスピスマインドの実践

倫理カンファレンスの実践

2. 知識・技術の基本に戻る

診断カンファレンスの充実

教育資料の活用

認知症ケアの実践

3. 報告・相談

チーム活動の理解・協力

リーダーシップ・メンバーシップの実践

4. 経営参画

療養の場を整える

退院支援

インシデント・アクシデントの削減

職場紹介

1. 職員構成

看護師：23名（内非常勤職員2名 派遣看護師1名）

看護助手：2名 クラーク：1名

2. 業務内容

ホスピス病棟の理念に沿った全人的ケアを提供する

2023年度を振り返って

2023年度3B病棟目標

1. 栄光会フィロソフィを基盤とした、安全・安心・信頼できるホスピスケアを提供する

2. チームを構成するスタッフが協働し、楽しくやりがいを持って働ける職場風土を醸成することができる。

3. 積極的な経営参画 21床88%稼働率を目標に入退院支援を行う

1. インシデント・アクシデントがホスピス3病棟の中で発生件数が一番多かった。認知症・せん妄症状を有する患者が多く、転倒・転落やルート類の自己抜去などのインシデント発生が多かったという状況はあるが、投薬に関する看護師要因のインシデントも多く発生しており、安全で安心できるホスピスケアの提供という面で、十分なケアを提供したとは言えない。看護師要因で発生するインシデント削減に向け、医療安全を中心に取り組んでいく。

2. スタッフが協働し、楽しくやりがいを持って働ける職場ということに関しては、2023年度の退職者は減少し、同じメンバーで1年を通して働くことができた。面会制限が緩和され、面会者と接する機会が多くなった。その分、コミュニケーション力をアップし、患者さん・ご家族との信頼関係の構築、あるいは他職種とのパートナーシップを深めていく。

3. スタッフのコロナ感染やその他様々な事情により稼働をあげられない時期や、稼働が上らない時期はあったが、年間を通して積極的に緊急・予定を問わずホスピスケアを必要とする方の入院を受け、目標は達成できた。引き続き経営的な視点を持ち、入退院支援を行っていく。

2024年度に向けて

前年度の振り返りや、その他3B病棟の現状を踏まえて、より具体的に目標を設定し目標達成に向けてアソシエイトチームで活動を行っていく。

2024年度 3B病棟目標

1. 栄光会フィロソフィを基盤とした、安全・安心・信頼できるホスピスケアを提供する
 - 1) 看護師要因のインシデントを50%削減
 - 2) 看取り期におけるケアの充実
 - 3) 癒し癒される療養環境の提供
2. チームを構成するスタッフが協働し時間管理を意識したメリハリのある働き方、働きやすい職場を実現する
 - 1) 申し送り時間15分以内
 - 2) 時間外勤務 10時間以内
 - 3) パートナーシップの構築と職場環境の整備
3. 積極的な経営参画 21床 88%稼働率を目標に入退院支援を行う

職場紹介

1. 職員構成

看護師：22名（緩和ケア認定看護師1名、皮膚排泄ケア認定看護師1名）

看護助手：2名 クラーク：1名

2. 業務内容

ホスピス病棟の理念に沿った全人的ケアを提供する

2023年度を振り返って

1. 全人的ケア、ホスピスマインドに基づいた個別性を大切にするケアについて深め、患者・家族満足度が上がる

①フィロソフィ浸透促進チーム②安楽障害チーム③倫理チーム④ストレスマネジメントチームに分かれて活動し、チーム目標達成していく

①について、週1回栄光会フィロソフィの読み合わせを実施し、下半期は個々のスタッフの臨床経験と栄光会フィロソフィを織り交ぜながら発表会を行ない、休憩室に発表内容を張り出した。

②について、看護計画の看護目標を個別性が出るように、カンファレンスで意見交換しながらその人らしさについて考えた。

③について、倫理カンファレンスについて試行錯誤しながら取り組んだが、明確に何かをやり遂げたものがなく、次年度にまた、検討していく。

④について、仕事をする上でストレスといかにうまく付き合っていくかをテーマに、「読むこころのサプリ」の本より抜粋し、毎月、休憩室に張り出して共有した。また、腰痛予防のため、朝の申し送り後、軽いストレッチ体操を実施し、就業開始とした。

2. スタッフ個々に対して肯定的・協力的態度を示し、チーム力の向上に貢献する。

月1回のチーム会でご機嫌なチーム作りについて考えた。お互いの個性を認め合いながら、できることに目を向けて、できないところはフォローしていくことを改めて考える場となった。

3. 積極的な経営参画の実践で、稼働率89%（21.5床/日）、入院受けを16床/月以上とし、入退院支援を行う。

入院受けは断らずに受け入れることができた。スタッフやその家族の感染症や、家庭の事情での欠勤が続き、欠員が目立った。他部署の応援や派遣看護師の応援でどうにか対応した。

入院患者数185名（予定外入院数52名）、退院患者数185名（死亡退院者数152名）、平均病床利用率85.9%、平均在院日数39.1日、一日平均患者数19.7名

2024年度に向けて

栄光病院ホスピスの基本理念に沿ったケアの提供の継続

1. 全人的ケア、ホスピスマインドに基づいた個別性を大切にするケアについて深め、患者満足度が前年度より上がる
2. みんなが気兼ねなく意見を述べることができ、自分らしくいられる組織風土となる
3. 積極的な経営参画の実践で稼働率89%、20～21床以上とし、入退院支援を行う

4 A 病棟

師長 石田 美千代

職場紹介

地域包括ケア病棟入院基本料1 算定

看護基準 13:1以上

1. 職員構成

医師：外科医師 3名 （ 理事長（院長）・外科部長・医師 ） 外科・整形外科他担当

内科医師 2名 （ 内科部長・総合診療科部長 ） 呼吸器・消化器内科 他

看護師：22名

認知症ケア認定看護師1名、 医療的ケア教員2名、看護実習指導者2名、

救命救急士1名、介護支援専門員1名

看護補助者：8名

病棟クレーン：1名

2. 業務内容（地域包括ケア病棟）

地域包括ケア病棟（病床）には、3つの役割があるとされています。

1. ポストアキュート：急性期治療を経過し病状が安定した患者
2. サブアキュート：自宅や介護施設等において急性増悪した患者
3. 在宅復帰支援：在宅療養に不安のある患者

この3つの役割を果たすために、院内・地域内多職種協働による退院支援を実践することで切れ目のない医療提供を行い、「ときどき入院 ほぼ在宅」を目指しています。

2023年度を振り返って

【病棟目標】

1. 自部署の経営数値目標達成と経営意識の向上を図る

病床稼働率 80% （目標89%）

在宅復帰率 77.1% （目標72.5%）

入院数／月 36名 （目標 39名）

* 統計資料参照

2. 法人内外の連携強化を図り、スムーズな入退院調整と患者さん・ご家族のニーズに対応できる

- ・退院支援チームを中心に新患カンファレンスや多職種ミーティングの実施により患者さん・ご家族の情報共有やスタッフ間の連携強化につながった。
- ・地域包括ケア病棟に必要な講義をMSW・リハビリスタッフ・退院支援チームで開催し意識づけできた

- ・法人外での連携は、多職種や家族会のみであった。在宅・訪問・外来との意見交換や情報共有は今後の課題。

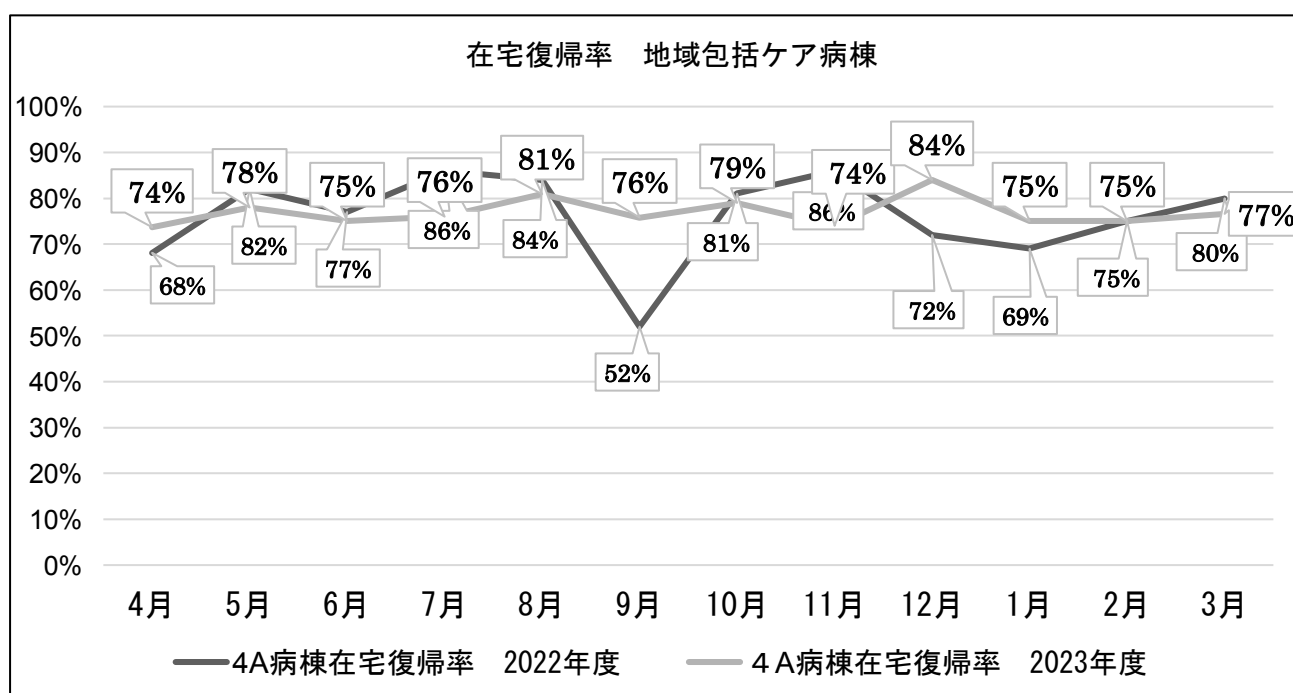
3. 安心・安全な医療・看護の提供とスタッフのケアにチーム全体で取り組む

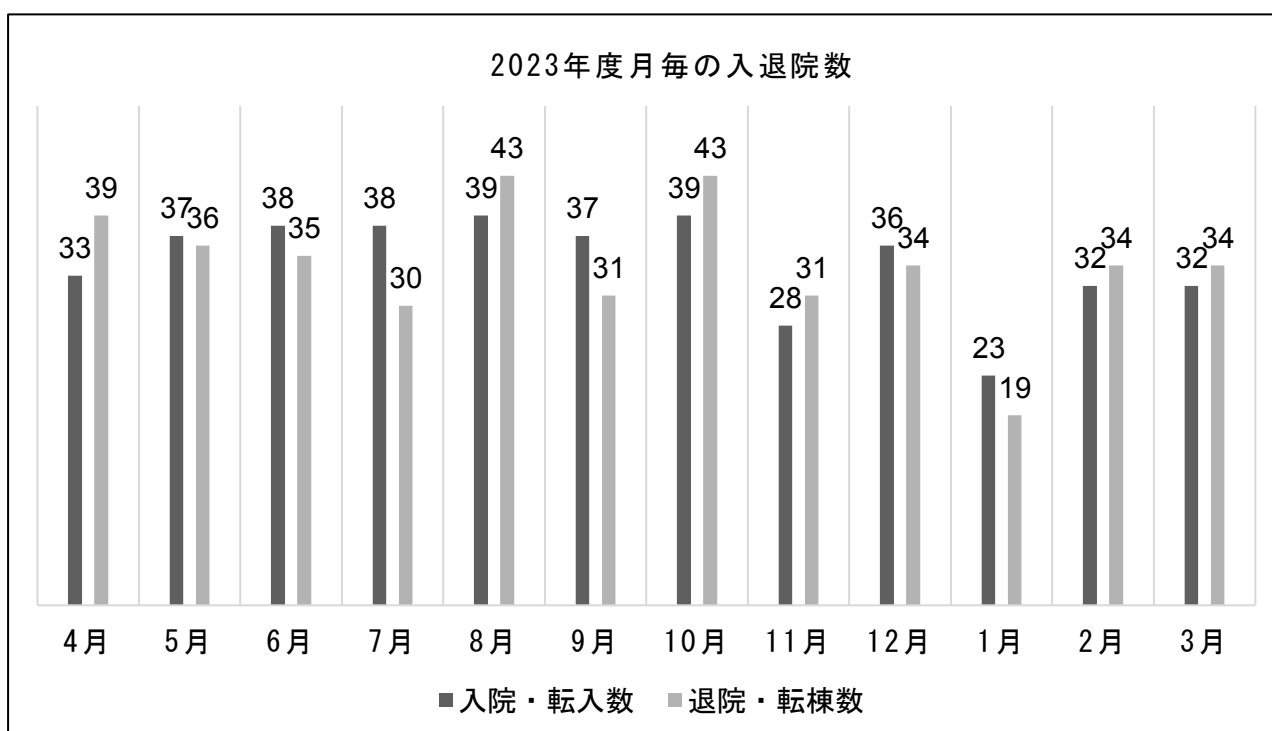
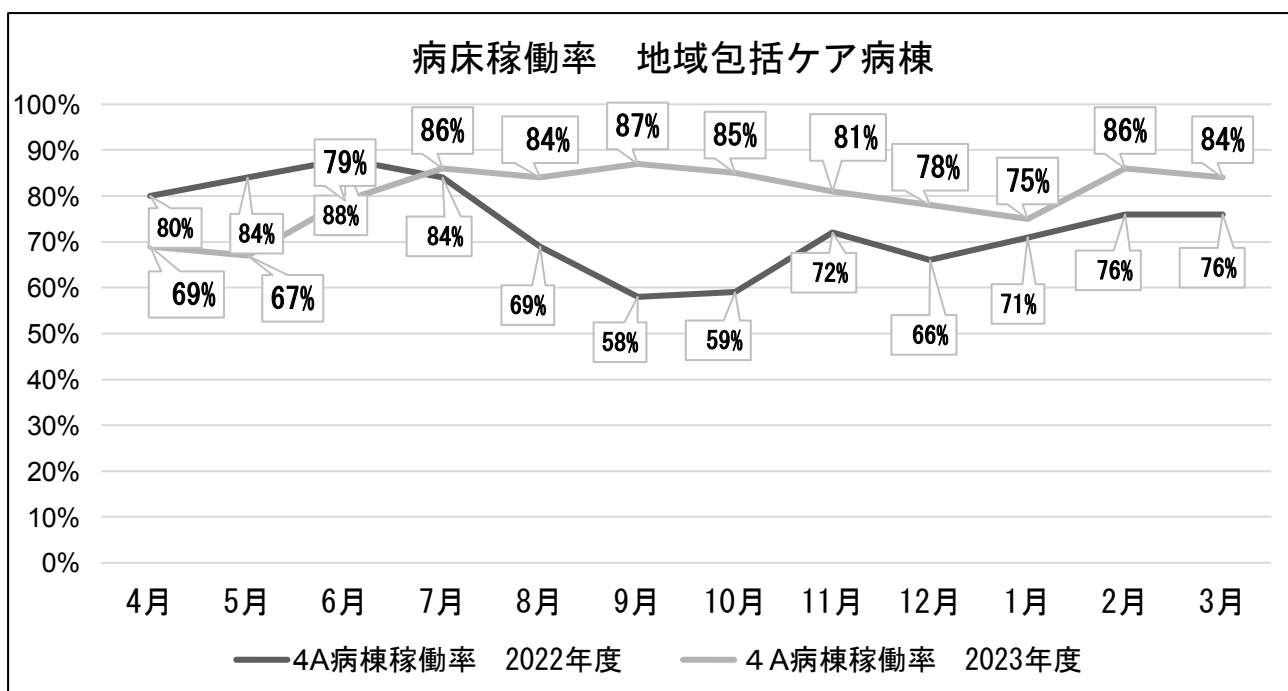
- ・退院支援チーム、教育指導チーム、業務改善チーム、マナーアップチームそれぞれが課題を明確にしてチーム全体で取り組みことができた。ケアに関しては、インシデントやクレーム報告もあり次年度で改善できるよう情報共有していく。

4. 職員満足度を上げ働きやすい職場を作る

- ・マンパワー不足の中、12月から1月にかけてのコロナ感染者（患者・スタッフ）対応をスタッフ全員で協力し乗り切ることができた。またリフレッシュ休暇も31名中、希望者14名全員取得できた。

年間統計





職場紹介

1. 職員構成

看護師 19名 看護補助者 6名 クラーク 1名

2. 業務内容

<病棟基本方針>

- ①地域の神経難病患者さんを主に受け入れていきます
- ②入院患者のADLを維持し、QOLを高めることで継続的で安全・安楽な医療看護を提供します
- ③癒し、癒される関係の構築を図ります
- ④レスパイトを通して在宅医療の支援を図ります

<4 B 病棟の目指すべき医療・看護>

多職種専門職によるチーム医療を基本として、神経難病及び障害を持つ患者さんの療養生活におけるQOLの向上を目指します

<入院患者状況>

神経難病を主に対象とする病棟。

主な疾患名は、パーキンソン病、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症など。

主な入院目的は、

- ① 病状評価のための検査
- ② 身体機能維持・向上を目指したりハビリ
- ③ 症状マネジメント
- ④ 合併症治療
- ⑤ 呼吸器装着、胃ろう造設・交換
- ⑥ レスパイトのための短期入院
- ⑦ 在宅療養指導
- ⑧ 医療依存度の高い患者の長期療養～看取りケアなどへの対応

<病床数>

28床

2023年度を振り返って

【病棟目標】

1. 患者さん・ご家族の思いに沿った入退院支援・療養支援を行う

- ① 内科カンファレンスを全患者さんについて実施、カンファレンスシートの活用促進
- ② 患者さんの立場に立ち、QOL向上のために出来るケアを考え実践する

<評価>

内科カンファレンスにカンファレンスシートを用い、全患者さんに実施することで、情報共有は容易になった。解決に向けたマネジメントはプライマリナースの個人差があり、チームで協働する体制が必要。さらに多職種連携につないでいく。

2. 5Sを促進し、気持ちの良い働きやすい職場環境を作る

- ① マニュアル・データ類・記録物・ファイルの整理
- ② 部署の業務手順、決まりごとの見直し・検討

<評価>

各自で役割分担しマニュアル更新を行った。各京セラチーム活動で、それぞれの課題・業務改善策を挙げ、チームに投げかけながら業務改善に取り組んだ。

3. 経営参画とスタッフケアのバランスを考えた部署運営

- ① 稼働率89%維持に取り組む

<評価>

2023年度平均稼働率82.8%、目標未達成。

神経難病センターとしての役割を果たすとともに、一般疾患・ホスピス待機患者さんの受け入れを積極的に行い、さらに意識を高め取り組んでいく。

2024年度にむけて

【病棟目標】

1) 個別性のある全人的ケアを提供し患者さんのQOL向上を支援する

- ①呼吸・栄養管理チーム
- ②多職種連携チーム
- ③記録チーム
- ④難病ケア・倫理接遇チーム
- ⑤5Sチーム

チーム活動を通してケアの質向上を目指す

2) スタッフがやりがいと誇りを持った仕事を実践し、職務満足度が上がる

3) 安定した部署経営への取り組みを実践する

- ①25名／89%目標稼働率の維持
- ②安定的な入退院調整

職場紹介

1. 職員構成 看護師長代理：倉田 正子
 主 任：平山 好恵
 副 主 任：江島 佑果, 藤田花奈子
 看護師 20名（上記含む）、ケアワーカー6名、クラーク1名

2. 診療内容／業務内容

回復期リハビリテーション病棟

脳血管疾患や骨折術後など急性期治療を終えた患者さんに、リハビリテーションを集中的に行う病棟です

在宅復帰を目標に各職種専門性を活かし、各患者さんにあった効率的なリハビリテーションを提供します

2023年度を振り返って

2023年度もコロナに翻弄される1年でした。5類へ移行しましたが感染力も高い為、引続き感染対策の強化に取り組んでいました。しかし入院患者さんがコロナに罹患され、リハビリを停止せざるを得ない状況となり、改めてリハビリの大切さを実感しました。スタッフ一人一人の頑張りと患者さんやご家族のご協力で病棟全体に広がることはなく終息できたことに感謝しています。前年度はコロナ禍による制限がある中で十分に退院支援が行えない状況でしたが、徐々に制限が緩和されコロナ前の状況に戻りつつあります。しかし自由な面会や外出・外泊は制限が続いており入院中の患者さんやご家族の方にはまだまだ不自由な入院生活となっています。このように全て以前のようには戻っていませんが、今後はWithコロナで感染対策に留意しつつ回復期リハビリ病棟のあるべき姿で取り組んでいきたいと思えます。

【2023年度の病棟目標・評価】

1. 退院支援を病棟全体で取り組み、看護の質向上を目指す
- ・合同／診断カンファレンスの開催→未実施（週間業務に入れ込めなかった）
→週に2日シーツ交換の日程を、毎日へ変更した事で2日間の時間の確保が出来たため、次年度その枠を活用してカンファレンスの開催に繋げていく
 - ・多職種カンファレンス、家族会の充実→実施は出来ているが、内容には検討の必要がある
→状況の報告会ではなく、課題に対する検討会へのシフト
新主治医の体制（4月入職）となるため、医師、リハビリセラピスト、看護師、医療ソーシャルワーカーで協働し、効果的なカンファレンス体制の構築を目指す

・プライマリーとしての効果的な退院支援への取り組み

→退院支援チームにより進捗状況の確認を行いながら、必要時、家族指導・相談などのフォローでチームでの介入を行っている

→次年度も引き続きチーム活動を継続し、プライマリーの負担軽減を図り、チームメンバーとなることでも、支援内容を理解し、プライマリーが自立して退院支援に関われるよう育成していく

2. 残業時間削減のため、業務を見直し業務負担軽減をおこなう

→業務検討会や業務改善チームの取り組みにより、業務改善に繋がっている

残業時間については、マンパワー不足もあり、なかなか解消できなかった

勤務時間内で患者対応に追われ、記録や委員会、チーム活動、プライマリー業務が時間外となってしまう

→看護師定数が1名増員となる

看護師のケアワーカー夜勤が不要となり日勤帯の人員確保が出来るように、ケアワーカーの定着を図る

業務内容の見直しは継続

3. 認知症への知識を高め、対応力強化図る 【3か年計画－2年目】

→認知症委員、チームメンバーにより勉強会や症例検討を実施し、困難事例の振り返りを行うことで、その後の患者対応に活かせるように取り組んでいる

しかし、感情的な声掛けを行ってしまう場面もあり、スタッフの対応力にはばらつきがある

→スタッフ全体の対応力の底上げが必要である為、勉強会の実施や、研修への参加を促していく

次年度も引き続き症例検討を行うことで、自己の対応を振り返り、次につなげることで認知症患者への対応力向上を目指す

2024年度にむけて

◇5A病棟のあるべき姿

『在宅復帰』

1. 患者個々にあった看護・支援をおこなう

2. 【連携】各職種の専門性を活かし、効率的なりハビリを提供する

◇病棟目標

1. 効果的な退院支援に取り組み、看護の質の向上を目指す

2. 看護師と看護補助者のパートナーシップの形成により、働き甲斐をもって業務に励むことができる

3. 認知症への知識を高め、対応力強化図る 【3か年計画－3年目】

年間統計

	稼働率	在宅復帰率	重症者	重症者 4 点 (FIM16 点) 以上 改善
基準値	9 割以上	7 割以上	4 割以上	3 割以上
2023 年度実績	79.25%	84%	43.92%	35%

感染防止対策室 医療安全管理室

■ 感染防止対策室

室 長 安藤 俊二
副室長 鎌倉 富雄

職場紹介

1. 職員構成 室 長：安藤 俊二
副 室 長：鎌倉 富雄
専任看護師：野田 理恵（２０２３年７月中旬まで）

2. 業務内容

- ・ コロナ感染に関連した対応
 - ① 院内でコロナが発生した際のゾーニングを含めて初期対応と指導、関連部署への情報提供
 - ② 職員、職員家族が感染した場合の対応相談、自宅待機期間の管理（一覧表管理）。
 - ③ LINE WORKS等を活用し、職員、所属長等と情報提供、共有。
 - ④ 感染の流行時期や発生状況に合わせた行動制限等の確認と見直し検討、共有。
- ・ 院内感染の管理とICTラウンドでの抗菌薬の適正評価の実施
- ・ 院内感染防止対策委員会、その他臨時の感染防止対策会議の実施
- ・ 職員への年２回の院内感染防止対策の研修の実施、部署毎の勉強会実施
- ・ 外部施設（福岡市民病院等）との連携と感染症サーベイランス報告、カンファレンス参加
- ・ 健康管理室との連携により職員のワクチン接種の管理（Ｂ型肝炎、麻しん） など

2023年度を振り返って

2023年５月に新型コロナウイルスの感染症区分が２類から５類へと変更となり、当院でも感染状況を見ながら段階的に感染防止対策についての見直しを行った。しかしその後も院内感染が発生し、今年度法人全体で１０件、うち９件が栄光病院内で発生を認め（グラフ①）、感染防止対策室としてもゾーニング等の初期対応やその後のフォロー、情報共有に尽力した。行政の方針や地域のコロナに対する危険認知が軽減されていく中で、医療現場の現状との温度差への対応に苦慮する一年となった。

感染防止対策室としても専任スタッフが不在となり、業務量の増加と医療安全業務の両立を求められる中、病院機能評価受審や保健所立ち入りの準備対応に追われ、多忙な一年となった。

新しい取り組みとしては、今年度より健康管理室と連携し、職員のＢ型肝炎ワクチンと麻しんワクチン接種の促進を開始し、職員の抗体価の管理を協同で行う取り組みをした。

日々の業務に追われ、体力的にも精神的にも厳しい一年となったが、いろんな経験を通して、課題や問題点が見えてきたこともあり、この経験値と学びを来年度に繋げていきたいと思う。

2024年度にむけて

「withコロナ」への意識改革を定着させ、コロナを恐れ過ぎず、上手な付き合い方を見出していく必要がある。そのためには、段階的な感染防止対策の見直しも大詰めとなってきており、現状に合わせたマニュアルの見直し、更新と職員への教育、情報の提供をその都度行っていく必要がある。

感染防止対策室としてのマンパワーの限界もあるため、今後の体制や業務の見直しと効率化などの検討も必要であり、今後の病院の方針に沿って、対応していく。

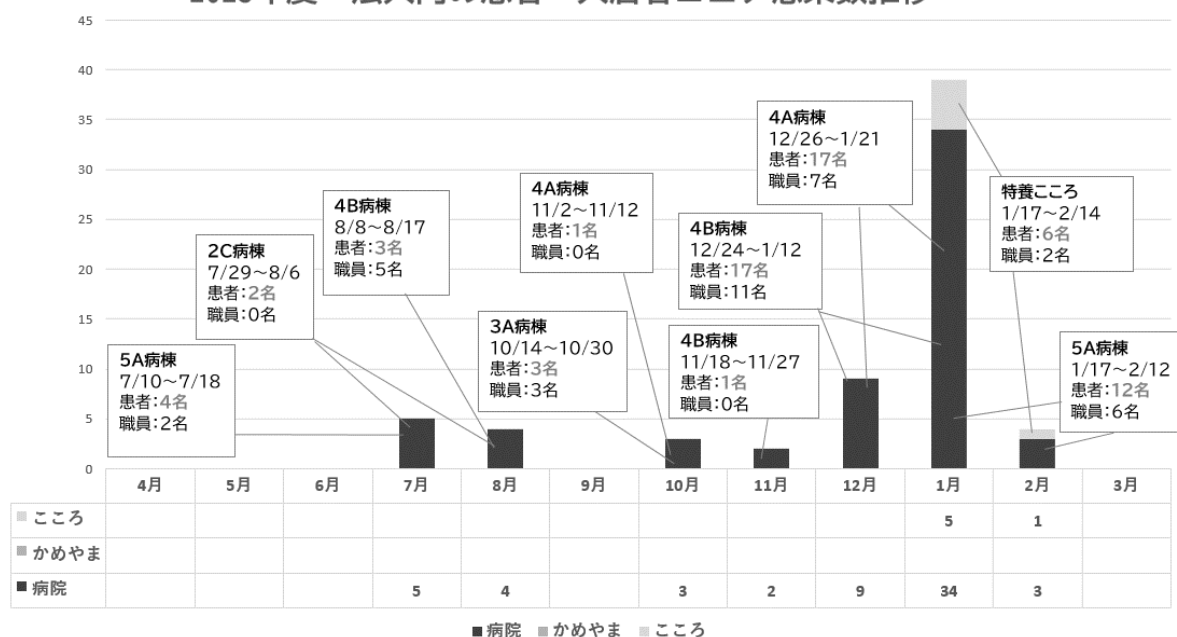
医療安全同様、「質の向上」を目標のキーワードとして掲げ、課題の抽出と優先度を考慮した上で、出来ることから取り組んでいきたいと考えている。

室長より

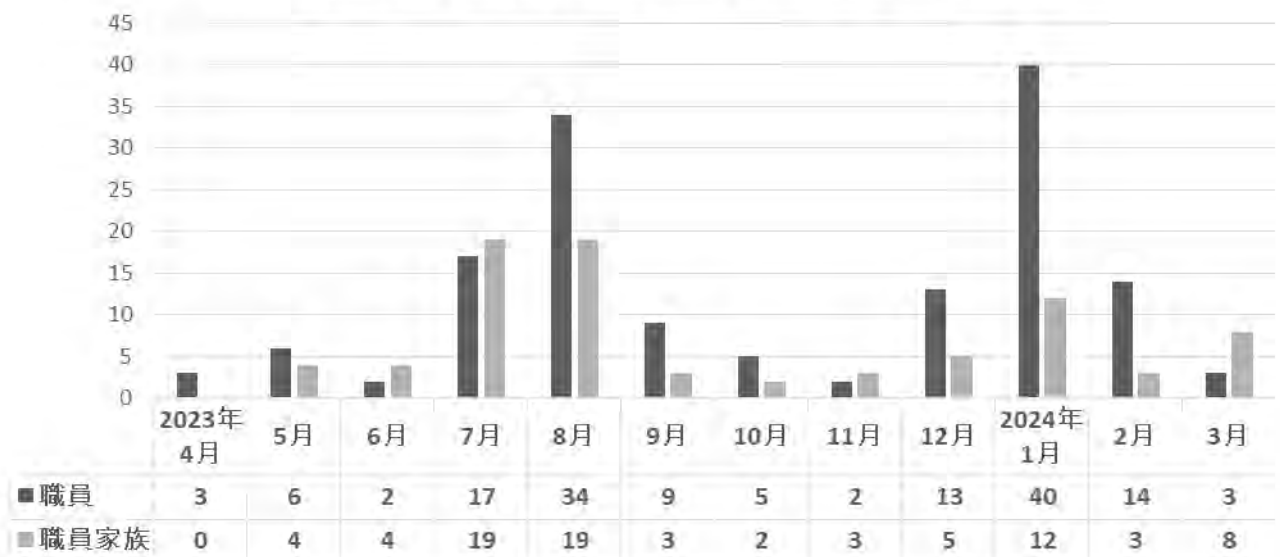
感染防止対策とは、院内における不測の感染症を未然に防ぐことであり、早期に発見することであり、さらに適切に治療し、院内に拡げないよう対策を立てることです。ICUラウンドにて耐性菌の拡大防止、抗菌薬の適正使用の促進を行い、COVID-19感染拡大時にはゾーニング等の指示を適切に行っています。今後、新たな感染症への対策も必要となると考えています。そのために感染防止対策室では、鎌倉看護師長を中心に感染症に関する情報収集、院内講演会・実地指導による啓蒙活動、サーベイランスなどを行っております。

年間統計

2023年度 法人内の患者・入居者コロナ感染数推移



2023年度 法人職員と職員家族のコロナ陽性者数推移



職場紹介

1. 職員構成 室長：吉田 晋 副室長：鎌倉 富雄

2. 業務内容

- ・ インシデント報告の内容把握と対策の確認、検討、全体の集計と分析
- ・ 事故レベル3～b以上の現場検証と再発防止策の立案と報告書の作成
- ・ 医療安全ラウンドの実施（毎週火曜日、1回2部署ずつ、全15部署）
- ・ 「医療安全だより」の発行による情報提供、注意喚起（不定期）
- ・ 業務改善の取り組みと報告書の作成
- ・ 院内研修の実施（2回／年）
- ・ 安全管理委員会の開催（1回／月）、医療安全リンクスタッフ委員会との連携
- ・ 院内での全死亡症例をチェックシートにより把握、確認 など

2023年度を振り返って

年度明け当初、医療安全対策加算、医療安全対策地域連携加算の取得に向け、準備を進めていたが、病院の方針と諸事情から今年度の取得は困難となった。また、本部事務局の医療安全担当者が不在になったことや感染防止対策室の体制が変更となったことで業務量が増え、院内での感染発生時には医療安全に関連する業務が滞る状況が多々あった。アクシデント報告の中には事故区分5に相当する事例も発生し、多忙な一年となったとともに、いろんな経験の中で、学びにも繋がった一年であった。また、病院機能評価受審の年でもあり、以前からの指摘事項でもあった医師のインシデント報告の低迷については、吉田室長が積極的かつ強力に働きかけて頂き、報告書提出促進にも繋がった。慌ただしい一年ではあったが、次年度の課題に繋げることができる一年となった。

2024年度にむけて

病院機能評価受審での指摘事項を踏まえ、問題点や課題を抽出し、現状を踏まえたマニュアルの見直しや情報の共有など、医療安全の質の向上に向け見直しを行っていく必要がある。そのためには医療安全管理室の体制や業務の見直し、効率化、連携や協力体制についても検討する必要がある。

2024年度の目標のキーワードは「質の向上」を掲げ、課題の優先度を整理し、まずは取り組める内容から尽力していく。

室長より

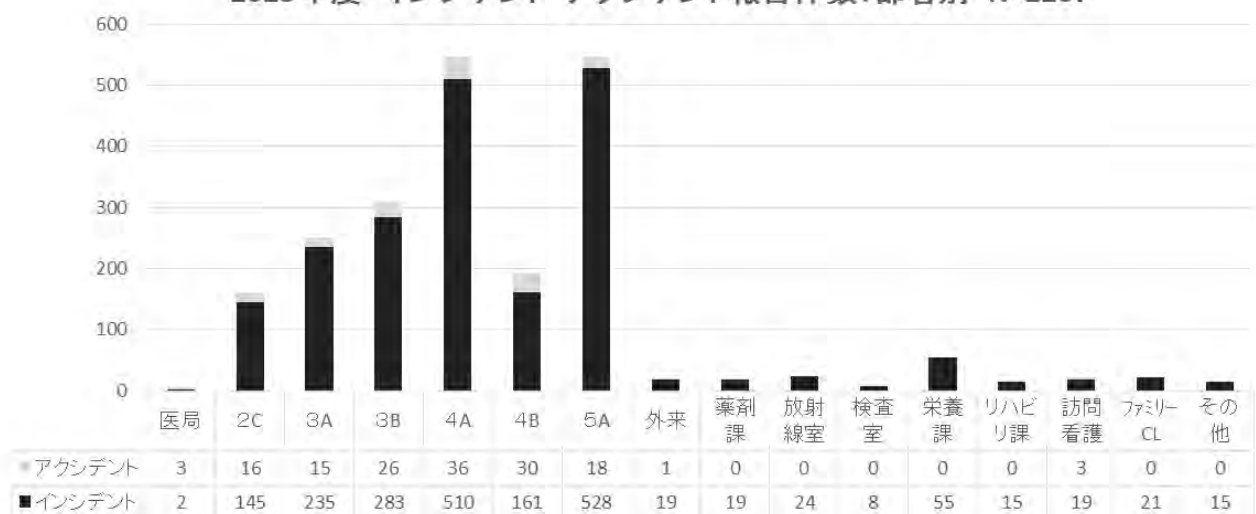
インシデント報告は看護部からが多く、他部署からは少数、特に医師からの報告はごく少数であった。医療行為の多くに看護師が関わっており、かつ報告書の中に「主治医の判断」という欄があり、ここに担当医が意見を記載し内容確認をしていた。病院機能評価で医師からのインシデント報告が少ないという指摘があり、内容によっては他部署との重複であっても医師からの報告書提出を積極的に働きかけることとなった。「医療者の働き方改革」で戸惑うことが多い中で業務負担となる矛盾を感じるが、カルテ記載と同様に、このような記録が自分らの身を守ることもあることを念頭に置いて全職員に報告書を書いてもらっている。

年間統計

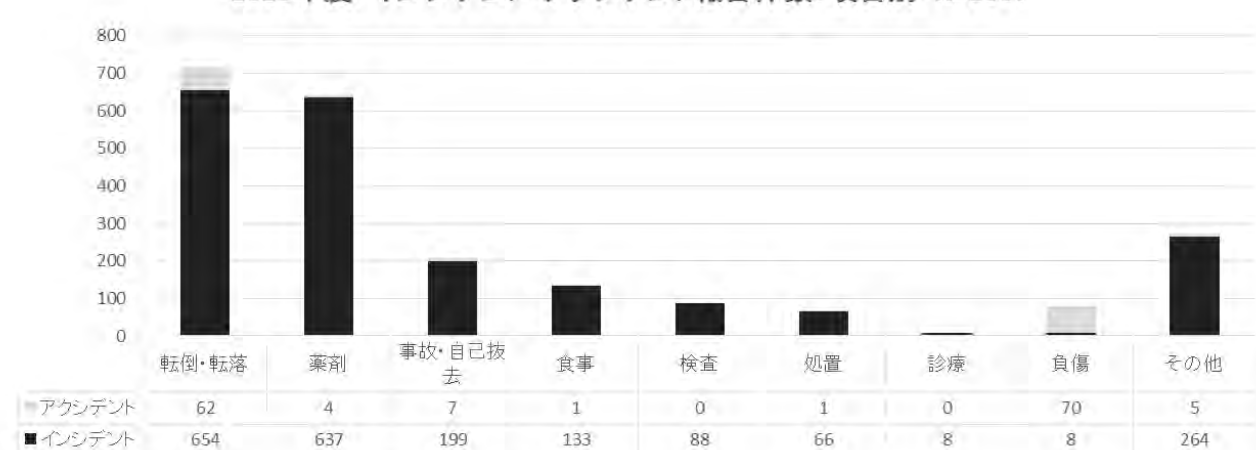
2023年度：インシデント・アクシデント報告件数年間集計

(2023年4月1日～2024年3月31日)

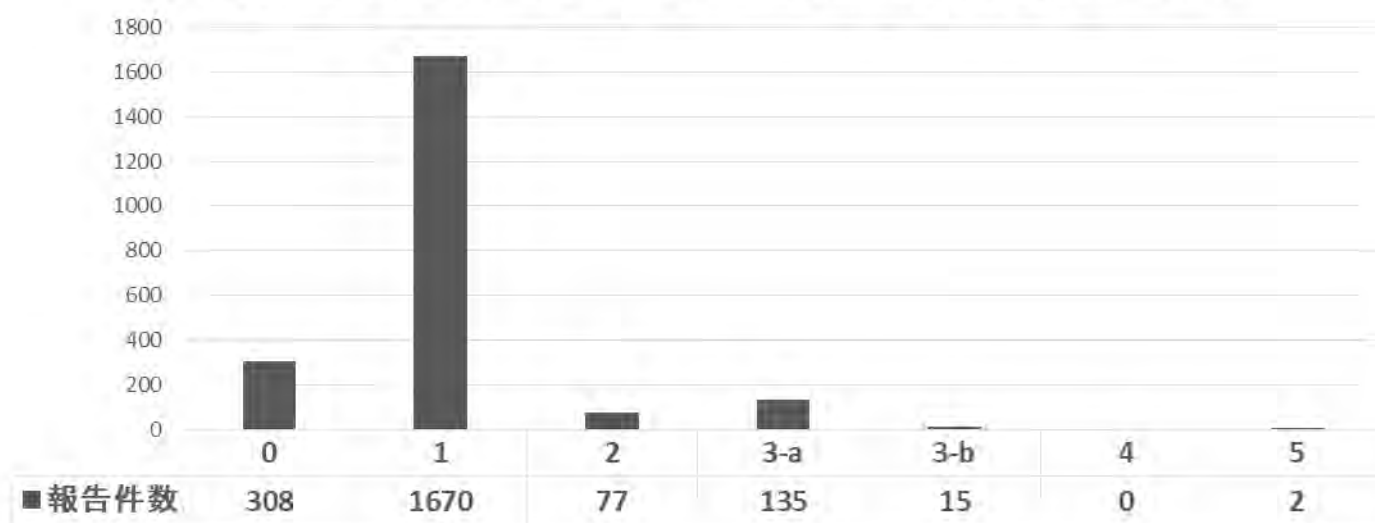
2023年度 インシデント・アクシデント報告件数：部署別 N=2207



2023年度 インシデント・アクシデント報告件数：項目別 N=2007



2023年度 インシデント・アクシデント報告件数：事故区分別 N=2207



* 事故区分 5 の 2 件については、同一の事例に対し、医師と看護師からの報告によるものである。



医療事務

職場紹介

1. 職員構成

課長	増田	こずえ				
主任	上條	憲一	豊福	稔		
副主任	森岡	直美				
入院担当	山田	留実	深野	良太		
外来担当	澤井	紋也	城戸	綾乃	定村 千香子	久芳 志穂
	藤本	悟史	鹿毛	優子		
夜間管理	小島	真弓				

13名

2. 業務内容

- ・窓口受付
- ・会計業務
- ・診療報酬請求（レセプト作成・点検・総括・請求）
 - －外来（在宅医療含む）：月平均 2300件
 - －入院：月平均 250件
- ・各種文書受付
- ・未収金管理
- ・他院からの問い合わせの対応等

2023年度を振り返って

- ・診療報酬点数の新しい情報を病院の医事課と、ファミリークリニックの医事課で共有ができるよう努めた。また、スタッフの急な休みの際は協力して業務に取り組むことができた。
- ・診療報酬請求に対する査定では、月別の集計を継続して行い医師やコメディカルへの報告を行った。
また部署内でのミーティングや、勉強会を通して内容の把握と査定対策に努めた。
- ・未収金は「新規発生」や「回収状況」について委員会資料を毎月作成し、関連部署と情報共有を行った。

2024年度にむけて

- ・法人全体の収入増加ならびに患者満足度向上を支援し、法人の必要収益の確保をサポートする
- ・2024年度診療報酬改定の対応を医事課一丸となって行う
- ・病院を訪れる患者さんや、ご家族の方に話しかけられやすい雰囲気づくりを大切に、受付窓口では臨機応変な対応を心掛けていきたい。

職場紹介

1. 職員構成

診療情報管理士 3名

2. 業務内容

- 1) 入院診療記録の保管管理
- 2) 入院診療記録の整理・点検
- 3) 退院時要約（サマリー）の早期推進と管理
- 4) 国際疾病分類（ICD-10）に基づく疾病コーディング
- 5) 「診療情報管理システム」へ情報登録、統計業務
- 6) 入院診療記録のアリバイ管理、貸出業務
- 7) 「DPC退院患者調査」データの作成業務
- 8) 全国がん登録データ作成業務
- 9) 診療情報管理委員会の運営

2023年度を振り返って

1) 診療記録の点検・管理

病院機能評価受審に向け診療記録の見直しや早期整備に取り組んだ。

サイン漏れや記載不備等は、記載者に記載・訂正依頼を行い記録の充実に努めた。

2) 退院時サマリーの管理

退院14日以内のサマリー作成率：月平均98.4%

医師協力のもと毎月90%以上を維持している。

3) DPC退院患者調査（厚労省に提出）

様式1作成件数：1,100件

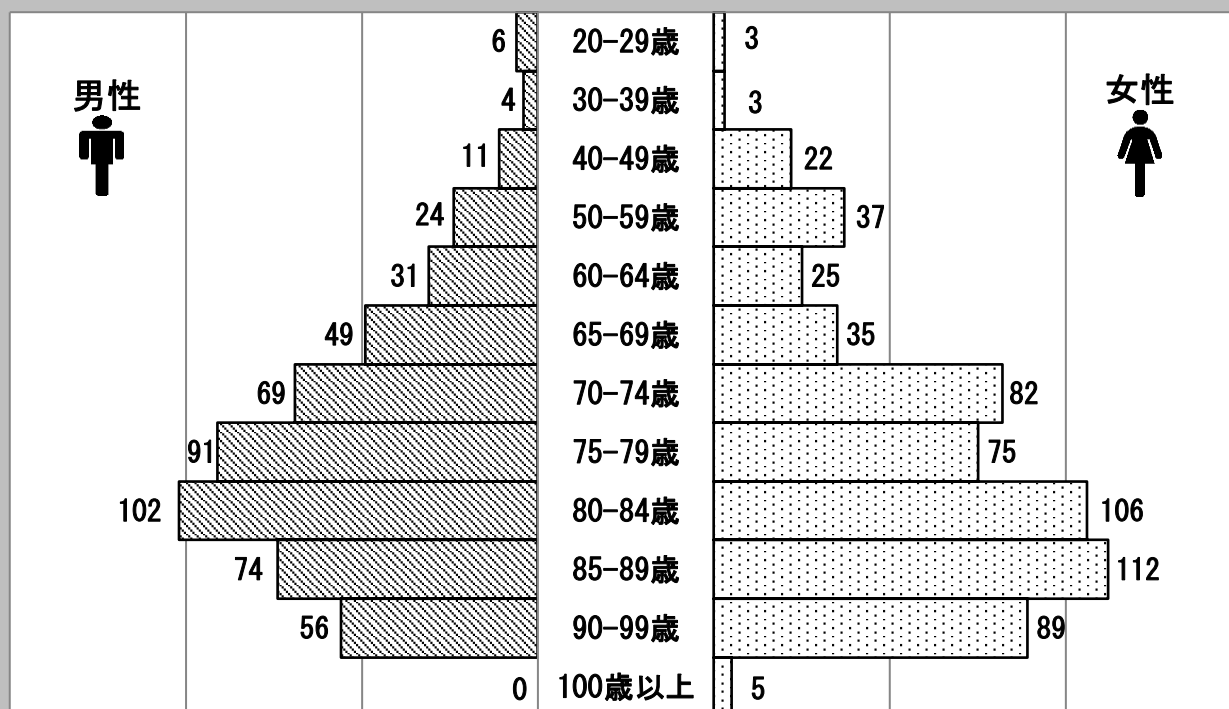
来年度の診療報酬改定に伴い調査項目の見直しが行われる。

→情報収集を行い関係部署には協力を要請し柔軟に対応していく。

4) 全国がん登録（2016年1月より法制化）

届出件数（2022年症例）：623件

男女別/年齢階層別 全病棟退院患者件数 (総件数：1,111件)



地域包括ケア病棟 疾病小分類別・上位疾病別・病名数

番号	順位		分類名	件数	構成比 (%)	延べ在院日数	平均在院日数	平均年齢
1	1	M62	筋障害	30	7.8	1,397	46.6	84.0
2	2	J69	固形物及び液状物による肺臓炎	27	7.0	1,357	50.3	89.3
3	3	J15	細菌性肺炎、他に分類されないもの	26	6.7	769	29.6	78.1
4	4	S32	腰椎及び骨盤の骨折	23	6.0	938	40.8	80.0
5	5	S22	肋骨、胸骨及び胸椎骨折	14	3.6	621	44.4	77.9
6	5	S72	大腿骨骨折	14	3.6	535	38.2	80.1
7	7	I50	心不全	13	3.4	527	40.5	89.2
8	8	E11	2型糖尿病	12	3.1	232	19.3	66.2

対象期間の総退院件数：386件

障害者施設等病棟 上位疾病割合

		件数	構成比(%)
① G12 脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	計	19	28.4
	男	5	20.0
	女	14	33.3
② G20 パーキンソン＜Parkinson＞病	計	15	22.4
	男	6	24.0
	女	9	21.4
③ G31 神経系のその他の変性疾患、他に分類されないもの	計	4	6.0
	男	1	4.0
	女	3	7.1
③ G90 自律神経系の障害	計	4	6.0
	男	3	12.0
	女	1	2.4
⑤ I61 脳内出血	計	3	4.5
	男	2	8.0
	女	1	2.4

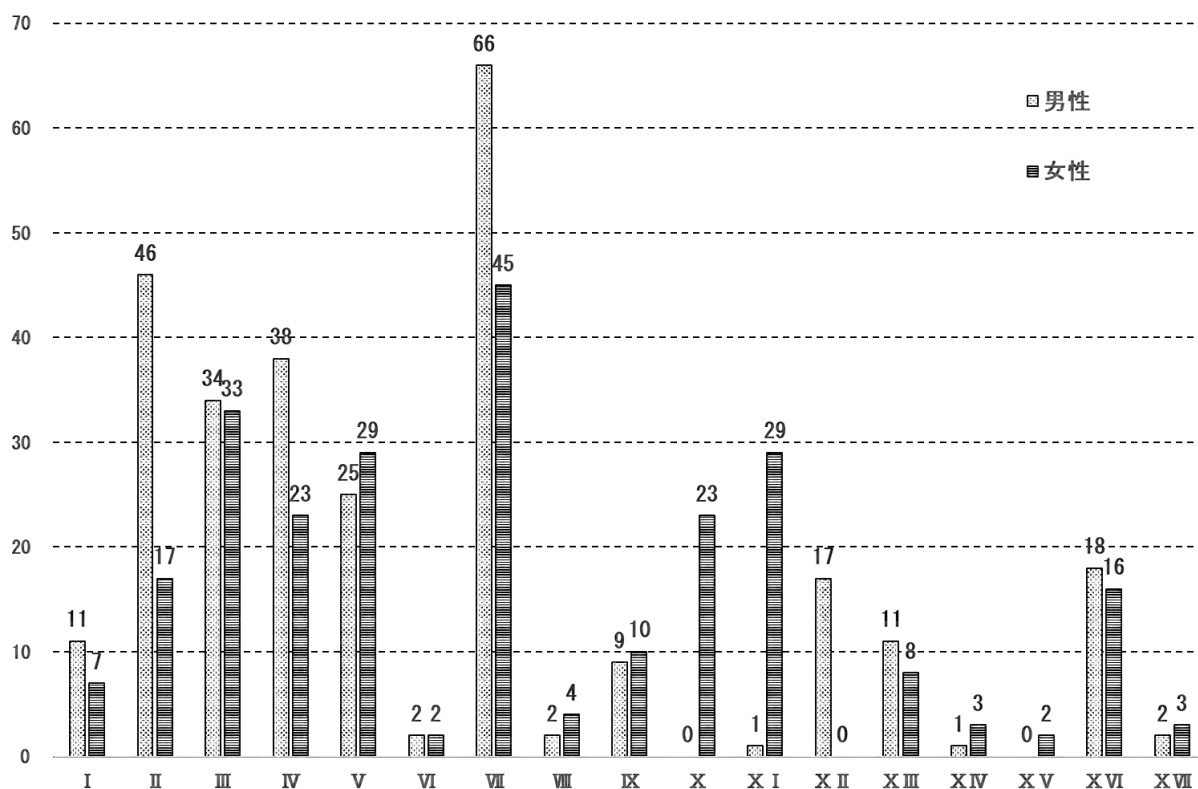
総退院件数	計	67	100.0
	男	25	37.3
	女	42	62.7

回復期リハビリテーション病棟 上位疾病割合

		総数	構成比(%)
① S72 大腿骨骨折	計	32	26.4
	男	7	14.0
	女	25	35.2
② I63 脳梗塞	計	31	25.6
	男	14	28.0
	女	17	23.9
③ S32 腰椎及び骨盤の骨折	計	12	9.9
	男	3	6.0
	女	9	12.7
④ I60 ・ くも膜下出血・脳内出血 I61	計	11	9.1
	男	6	12.0
	女	5	7.0
⑤ M17 膝関節症 [膝の関節症]	計	6	5.0
	男	2	4.0
	女	4	5.6

総退院件数	計	121	100.0
	男	50	41.3
	女	71	58.7

緩和ケア病棟 男女別・悪性新生物部位別 件数



部位		男性	女性
I	舌・歯肉・口蓋・耳下腺・上下咽頭・副咽頭	11	7
II	食道・胃	46	17
III	小腸・結腸・直腸・肛門・肛門管	34	33
IV	肝・肝内胆管・胆嚢・胆道	38	23
V	膵	25	29
VI	鼻腔・中耳・副鼻腔	2	2
VII	気管支・肺・胸腺	66	45
VIII	関節軟骨・皮膚	2	4
IX	中皮・後腹膜・腹膜・結合組織・軟部組織	9	10
X	乳房	0	23
X I	女性生殖器	1	29
X II	前立腺	17	0
X III	腎・腎盂・副腎・尿管・膀胱	11	8
X IV	髄膜・脳	1	3
X V	甲状腺	0	2
X VI	リンパ組織・造血組織及び関連組織	18	16
X VII	部位不明	2	3
計		283	254

【診療圏別・男女別・退院患者件数】

診療圏	合計	糟屋郡志免町	糟屋郡宇美町	糟屋郡篠栗町	糟屋郡須恵町	糟屋郡新宮町	糟屋郡久山町	糟屋郡粕屋町	福岡市東区	福岡市博多区	福岡市中央区	福岡市南区	福岡市西区
男	517	136	62	12	44	--	1	40	18	111	5	6	2
女	594	178	66	13	40	1	2	37	26	112	10	6	3
計	1,111	314	128	25	84	1	3	77	44	223	15	12	5
構成比(%)	100.0	28.3	11.5	2.3	7.6	0.1	0.3	6.9	4.0	20.1	1.4	1.1	0.5

診療圏	福岡市城南区	福岡市早良区	大野城市	春日市	古賀市	宗像市	福津市	太宰府市	筑紫野市	前原市・糸島市	那珂川市	久留米市
男	2	2	20	6	1	2	2	17	9	1	3	--
女	4	6	19	9	2	--	3	15	12	1	1	4
計	6	8	39	15	3	2	5	32	21	2	4	4
構成比(%)	0.5	0.7	3.5	1.4	0.3	0.2	0.5	2.9	1.9	0.2	0.4	0.4

診療圏	大牟田市	小郡市	みやま市	朝倉市・朝倉郡	北九州市	遠賀郡	中間市	田川市・田川郡	宮若市	京築 (行橋市・豊前市・ 京都郡・築上郡)	その他(九州外)	その他(九州外)
男	--	1	1	2	2	1	--	1	1	--	6	--
女	1	3	--	2	1	--	1	4	--	1	9	2
計	1	4	1	4	3	1	1	5	1	1	15	2
構成比(%)	0.1	0.4	0.1	0.4	0.3	0.1	0.1	0.5	0.1	0.1	1.4	0.2

栄光会ファミリークリニック
栄光会訪問看護ステーション

職場紹介

1. 職員構成

院長 波多江 登喜子

副院長 田崎 英範

医師 青戸 雄司（在宅診療）、手越 静子（水曜日外来）

看護師 関 恵美子（1月まで）、田羽田 裕子、久保山 佳子、石井 咲紀、正木 由美

古川 幸子、平井 嘉代子、溝口 由香子（3月から）

医事課 安河内 晶子、深江 美幸、土生 律子

2. 診療内容

内科、呼吸器内科、アレルギー科、在宅診療（在宅療養支援診療所）

小児科

2023年度を振り返って <内科>

2019年12月に中国から発症し2020年1月に日本でも感染が始まったCOVID-19感染症も2023年5月には5類感染症となりました。2022年のような大量ではありませんでしたが、2023年度もやはり、かなりの数の患者さんが発熱外来を受診されました。加えて例年ならば冬に流行するインフルエンザも夏前から流行しました。重症化される方はありませんでしたが、通院中の患者さんや在宅、施設入所の患者さんも多くの方々が罹患され、ほとんどのスタッフも感染しました。

COVID-19感染症に対するワクチン接種は2024年1月まで会場を設置し、一般診療、発熱外来と並行して行いました。インフルエンザや帯状疱疹、肺炎球菌に対するワクチン接種も随時行いました。

在宅診療において2022年度は約130名の方々に対し月1～2回訪問していましたが、施設入所や経済的理由による中止などで2023年度は約120人と減少しました。原因は90歳以上の超高齢患者さんで介護者がその高齢の配偶者の場合が多く、入院されると在宅復帰される方は少なくほとんどが施設入所となっています。新規訪問診療の患者さんの数は年間30人程度と例年通りでしたが終了になられる方が50名と大変多くなっていました。今後もこの傾向は続くと思われます。

2024年度に向けて <内科>

当クリニックは小児科、内科、訪問診察、通所リハビリテーションなどを行っています。

インフルエンザやCOVID-19感染症、肺炎球菌、帯状疱疹に対するワクチン接種が近年多くなっています。また、RSウイルスの高齢者に対するワクチン接種も始まっています。

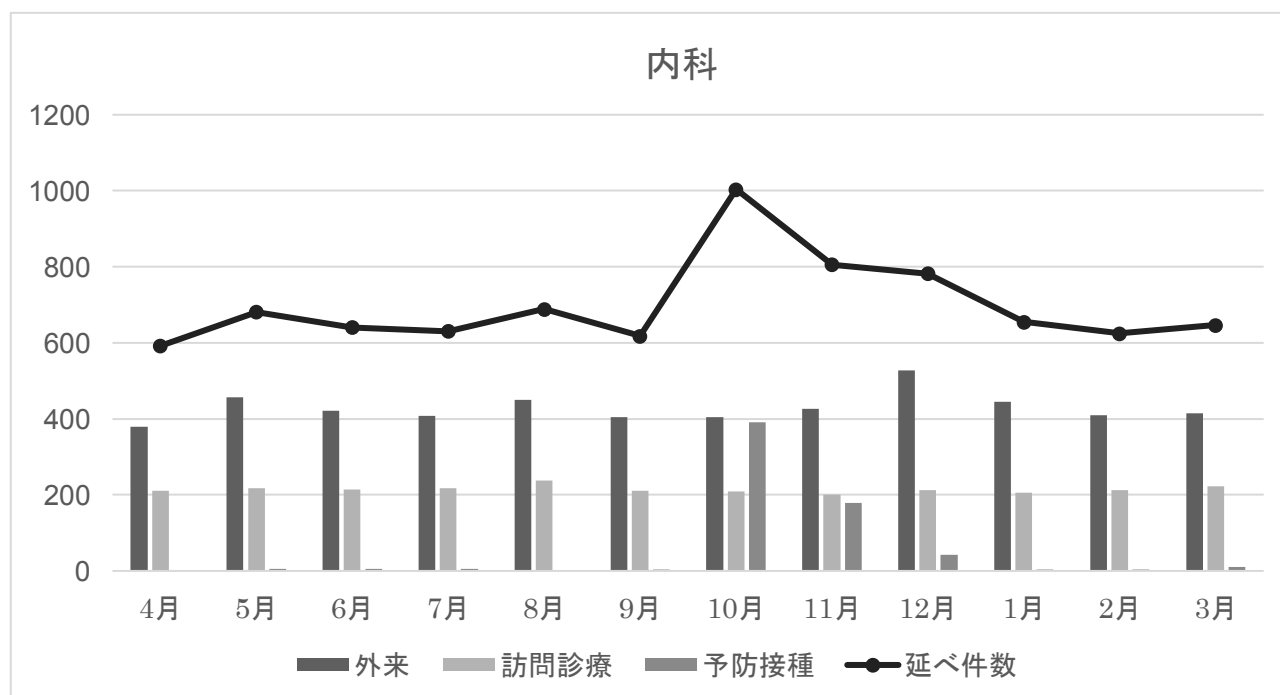
当院でも積極的に行っていく予定です。

また従来通り家族会も進めていきたいと思います。禁煙外来、アレルギー性鼻炎に対する免疫舌下療法、睡眠時無呼吸症候群の治療、肺がん検診も継続して行います。在宅医療も栄光病院以外の医療機関からの紹介患者さんを伸ばしたいと思っています。

年間統計＜内科＞

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
外来	379	457	421	408	450	405
訪問診療	211	218	215	218	238	210
予防接種	2	6	5	5	1	3
延べ件数	592	681	641	631	689	618

2023年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
外来	404	426	528	445	410	414	5147	429
訪問診療	209	201	212	206	212	222	2572	214
予防接種	391	179	42	4	3	11	652	54
延べ件数	1004	806	782	655	625	647	8371	698



2023年度を振り返って <小児科>

新型コロナ感染症は、7～9月の第9波、1～2月の第10波と、2023年度もまた想像を絶する感染者数となりました。加えて、第10波に重なり、昨年度に引き続きインフルエンザが大流行し、スタッフ一同、十分な休息も取れない過酷な日々が続きました。そんな中、ひとりひとりの自覚と努力と工夫により、なんとか乗り越えることができました。

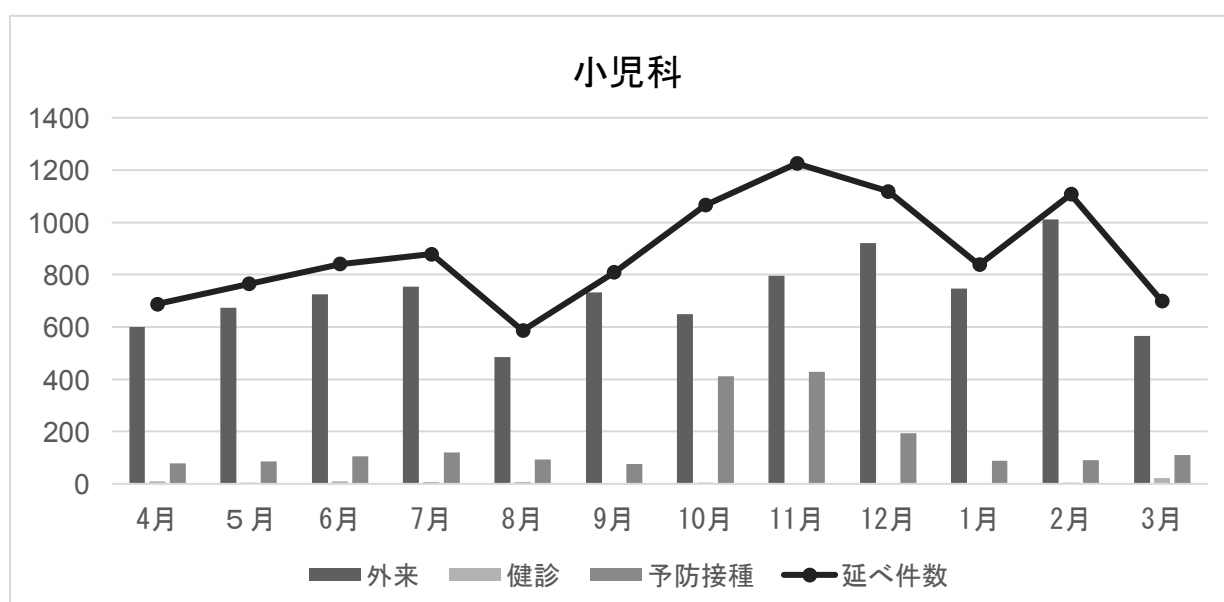
2024年度に向けて <小児科>

新型コロナウイルスは、その毒性も感染力も決して弱くなったわけではありません。しかしながら、マスク着用率は減り、大人数での会食も行われるようになり、国民は昨年度にも増してさらに緊張感を薄めています。その上、由々しきことに、2024年度からは新型コロナワクチンが有料の任意接種となります。今後また必ず来る第11波以降の流行は、これまで以上のさらなる脅威となることが予想されます。スタッフ一同、覚悟を持って臨んでいきたいと考えています。

年間統計<小児科>

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
外来	599	674	725	753	485	733
健診	10	5	9	7	7	0
予防接種	78	85	106	119	94	76
延べ件数	687	764	840	879	586	809

2023年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
外来	649	796	921	748	1012	566	8661	722
健診	6	0	3	2	4	22	75	6
予防接種	411	429	194	88	91	111	1882	157
延べ件数	1066	1225	1118	838	1107	699	10618	885



職場紹介

1. 職員構成

看護師：9名（内、非常勤2名含む）

訪問リハビリ：4名（PT：1名・OT：3名）

クレーン 1名

2. 業務内容

利用者・家族が安心して在宅療養が送れるように、療養上の目標を設定し計画立案・評価をしながら、適切な看護の提供をします。また、住み慣れた家庭環境等で過ごせるよう在宅ターミナル・神経難病・介護保険利用者の個々に合わせたケアを行っています。

2023年度を振り返って

【訪問看護ステーションのあるべき姿】

利用者・家族が安心して生活できるよう、細やかな配慮、丁寧な対応を心がけ信頼関係を築き、頼ってもらえる訪問看護ステーションとなる。

【目標】

1. 利用者・家族の目線に立ち安心と満足を得られる様に、寄り添う事が出来る感性を磨き看護実践できる
2. スタッフが明るく生き生きと仕事ができる職場環境
3. 安定した部署経営の取り組み。機能強化型訪問看護管理療養費1の算定に向けた体制強化

上記目標を設定しスタート。オンコール対応できるスタッフ数が少ない事もあり、新規受け入れを制限し異動してきたスタッフや新入職員のスタッフに対しOJTマニュアルに基づいた教育・指導を行いオンコールできるまで支援した。

高齢の利用者やターミナル・神経難病の利用者が多く、コミュニケーションに障害がある場合や、摂食や嚥下に問題がある場合に専門的にサービスが受けられるよう言語聴覚士を訪問看護ステーションに導入した。

新規の患者さんの受け入れを徐々に拡大し、住み慣れた自宅で気兼ねなく家族との時間を過ごせるよう在宅医療センターと連携を図り支援を行った。最期は入院を希望されるケースも多くあったが個々に合わせた療養生活を訪問看護と多職種で支えていく横の繋がり的重要性を再認識する事ができた。

2024年度に向けて

【訪問看護ステーションのあるべき姿】

利用者・家族の療養生活を支える為に、スタッフ間でコミュニケーションを密に図り、個別性に合わせた細やかな看護を提供できる

【2024年目標】

1. 個々が心身共に健やかに業務できるよう、セルフケアに取り組む事ができる
2. 利用者・家族に寄り添い、自身の看護の見直しや質向上に努めることができる
3. 柔軟な新規受け入れと多職種連携を密に行い、個々に合わせたホスピスケアを提供する

年間統計

利用者数

訪問看護利用者延べ人数	1, 044名	月平均：87名
うち医療保険		月平均：42.9名
介護保険		月平均：44名
年間訪問延べ件数	7, 676件	月平均：639件
年間新規利用者数	118名（医療保険92名・介護保険26名）	
年間在宅看取り件数	27名（うちターミナル療養費算定25名）	

介護事業本部

職場紹介

1. 介護事業本部 事務職員構成

本部長：下稲葉 主一 副本部長：田ノ上 剛

副主任：中山 裕子

職 員：池田 美由紀、齋藤 嘉世、守崎 美智代、長谷川 賢史、藤田 洋子

2. 業務内容：

介護事業部統括・運営支援、本部事務との連携窓口

各部署介護報酬請求支援、物品管理支援、施設受付・窓口業務など

福利厚生として売店運営など

地域協働部との連携業務など

3. 介護事業部 <所属部署>

介護付き有料老人ホームかめやま、栄光会通所リハビリテーション

栄光会ヘルパーステーション、栄光会ケアプランサービス

介護事業本部栄養管理課、介護事業本部事務

2023年度を振り返って

2023年度 介護事業部 方針

1. 人事制度を活用し、スタッフのモチベーション向上と離職率低下を目指す
2. スタッフ教育や業務改善を進め、サービスの質を向上させる
3. 地域住民のニーズや予防医学の観点からも事業を見定め、実現化する
4. 全スタッフ一丸となって、収支目標を達成する
5. コロナ前の行事や地域活動を復活させ、コミュニケーションの輪を広げる

コロナ禍を経験し、コロナと共に…が日常となる中、職員は常に感染予防に努め、業務に励んでまいりました。今年度、離職率は低く経過しました。感謝です。通所リハビリテーションの短時間化への移行・リハビリ機能をより強化する体制づくりを行いました。介護付き有料老人ホームかめやまも常に入居相談があり、待機者が複数名おられます。受け入れ態勢を整え、期待に応えていきたいと思います。

介護予防事業（志免町委託事業 うきうきルーム／脳若トレーニング）も本格的に稼働し、介護予防事業の充実に努めました。

各部署、介護報酬改定に向けて対策・準備を進め、理念実現と向き合いました。

2024年度に向けて

2024年度 介護事業部 方針

1. 部署間/職種間の連携を強化し、地域包括ケアシステムの実現をはかる。
2. 介護報酬改定を踏まえ、各事業所に求められるサービスを再構築する。
3. 栄光会における介護事業のあり方を見定め、次世代への基盤を作る。

本年度は2025年が目前に迫り、ターニングポイントの年度となる。

在宅⇄施設・病院を繋ぐ役割を果たせるよう、各部署が部署内外と連携し、求められている役割を果たしていきたい。

また、望まれる場所で生活・人生を支援し、関わる方々が幸せな最期を迎えられる体制づくりを目指していきたい。

職場紹介

1. 職員構成

主任介護支援専門員	(常勤専従)	4名
介護支援専門員	(常勤専従)	1名
主任介護支援専門員	(非常勤専従)	1名
		計6名

2. 業務内容

介護相談

要介護認定申請、更新手続き代行

居宅サービス計画（ケアプラン）作成

ケアマネジメント業務全般

病院・サービス事業所・行政との連絡調整

施設入退所支援

介護予防支援等業務の一部委託

2023年度を振り返って

近年、介護保険の居宅介護支援は事業所数の緩やかな減少が続き厚生労働省が公表した統計で減少は5年連続の状況、事業所数が減っている一方で、高齢化に伴って中規模化・大規模化事業所の利用者数や給付費は伸び続けている。

介護支援専門員の複数人の配置を評価する「特定事業所加算」など、国の施策も影響を与えており現在の居宅介護支援をめぐっては、ケアマネ不足が顕在化して優勝劣敗の人材獲得競争も激化している。介護ニーズが更に拡大していく今後、質の高いサービスを切れ目なく提供できる体制を作っていくことが大きな課題で、国が業務の効率化、生産性の向上と一定の大規模化を促していることから、事業所数の減少は今後も続く可能性がある。

栄光会ケアプランサービスは「居宅介護支援費Ⅰ(i)、特定事業所加算Ⅰ、特定事業所医療介護連携加算」算定継続できており質の高いケアマネジメントを担保し、引き続き質の高いケアマネジメントを提供でき、継続的かつ安定したサービス提供ができるよう、経営基盤の強化を図ることが求められている。

2024年度に向けて

1. 利用者サービスの充実 要介護者等の尊厳を保持しながら、その方の同意の下、心身の状況に応じ適切なサービスを利用することができるよう、地域包括支援センターやサービス提供を行う者等との連絡調整等を行い利用者だけでなくその家族も含めての「自立とQOLの向上」を目指す。
2. 地域社会との関係性強化：地域ケア会議等を通じて地域包括支援センターや民生委員等との更なる連携強化を図る。
3. 生産性の向上：記録等のペーパーレス化に取り組み事務作業の効率化を図る。法人内他の高齢者福祉事業所とデータの共有等、ICT活用を推進し事務を効率的に行う。

[生産性向上計画]

- (1) 事業規模拡大計画：介護支援専門員常勤換算一人当たりの実績に基づく請求上限件数を40とする。但し、介護予防利用者の方については、2件を1件としてカウントする。
- (2) 稼働率向上計画：ご家族やサービス事業所等の協力を得ながら、体調管理や転倒予防を行い、状態の変化が見受けられた場合、早めに受診を行うよう促すことで入院の長期化及び介護状態等の悪化を防ぎ、在宅生活の維持を図る。

職場紹介

1. 職員構成

看護師：	常勤 6 名	生活相談員：	常勤 1 名
ケアワーカー：	常勤 10 名 非常勤 3 名	介護支援専門員：	常勤 1 名
機能訓練指導員（看護師）：	非常勤 1 名	管理栄養士（兼務）：	常勤 1 名

2. 業務内容

入居者の生活全般に対する支援やご家族との連携・相談対応

看護師を中心とした多職種連携による疾病管理・医療処置

法人内外への受診・往診対応

多職種による看取りケア

3. 部署目標

- ①入居者が笑顔で安心して暮らせる場所づくり
- ②スタッフ同士の絆を育む
- ③仕事にやりがいと誇りを持つ

2023年度を振り返って

新型コロナウイルス感染症も2023年5月からは第5類に移行したが感染の脅威は衰えず職員や入居者の感染管理には依然、気が抜けない状況であった。その中にあっても、入居者の方々の楽しみのある暮らしを取り戻すためご家族や知人とのご面会の制限緩和やレクリエーションの再開などを実施した。

事業運営に関しては収入や稼働率及び要介護度の目標達成には残念ながら至らなかった。

待機者は数十名いる中、人員基準との兼ね合いで新規受け入れができなかったことは次年度への課題となる。「生産性の向上に向けての取り組み」では慢性的な人員不足の中、職員全体で業務の効率化に取り組んだこと、職員間の絆を育む活動を行い風通しの良い組織風土作りに注力したなどが挙げられる。

また、経営参加のコスト削減やワークライフバランス推進の一環として残業削減にも取り組み、間接業務と直接業務の仕分けを行い、業務分担を明確にしたことで年間約3割の残業時間を削減できた。次年度も入居者の方々の豊かな暮らしを提供することと、職場環境の改善の2本柱を実践していくことが経営の安定に繋がっていくものと考えている。

2024年度に向けて

引き続き感染対策を行いながら入居者の方々の暮らしが安心して幸福と感じられる生活環境を整えることを目標に掲げケアや生活の質の維持、向上に尽力していく。目標収入や稼働率の安定には人員の定着も大きな要素になると考える。

全国的にみても介護人材のなり手は減少傾向となり次世代に向けた介護事業の在り方が問われる時代となる。いかに限られた人材で事業を継続できるか真剣に考えていかななくてはならない。当該施設に於いても魅力ある施設となり「ここで働きたい」と思ってもらえるような取り組みが必要となる。

これまでに培ってきた組織風土がさらによりよいものとなり「働きやすい職場」「やりがいのある職場」「自分が必要とされる職場」「成長できる職場」作りに職員全体で尽力するとともに質の高いケアの提供と安定経営に資していきたい。

年間統計

年	2023 年									2024 年		
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
稼働率	91%	91%	91%	91%	91%	91%	91%	91%	91%	91%	91%	91%
看取り件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
平均年齢	89.8 歳	89.8 歳	89.8 歳	89.3 歳	90.2 歳	90.2 歳	90.2 歳	90.2 歳	90.2 歳	90.4 歳	90.3 歳	90.3 歳

職場紹介

1. 職員構成

理学療法士	2名（内非常勤1名）
作業療法士	3名
看護師	1名
介護福祉士	5名（内2名非常勤）
ヘルパー	1名（内1名非常勤）
相談員	1名

2. 診療内容/業務内容

リハビリ（評価・計画・見直し）
ご家族へ介護のアドバイス
健康観察 社会参加の支援 等

2023年度を振り返って

新型コロナウイルスに関しては、これまでの経験や対策、エビデンスをもとに安全な営業を継続する事が出来ました。

担当者会議や家庭訪問の機会も、以前と同等の状態に回復し、利用者の方々、ご家族とのコミュニケーションの機会を多く持つことができ、ご自宅での問題点に取り組むことができました。

また利用者の方々は、みなさん意欲的にリハビリに取り組まれ、とても活気がある通所リハビリとなりました。

昨年度も様々な事業所より多数のご紹介をいただき、地域に信頼される通所リハビリの運営を心がけてまいりました。

2024年度に向けて

今年は、3年に一度の介護報酬改定の年となります。

今回の介護保険制度改定では、通所リハビリの長期利用について、制限が一層強まる内容となり、ご利用いただいている方々の今後のご利用、リハビリ内容に大きな影響を受ける事となりました。

しかし、栄光会通所リハビリとしては、そのような時代の流れの中でも栄光会の理念を元に可能な限りご本人ご家族、地域のニーズに応えられるよう取り組んでまいります。今後も変わらず利用者の方々、ご家族、他種サービス間の連携をより丁寧に図りながら、必要なリハビリ、活動支援が行える運営を模索してまいります。

職場紹介

1. 職員構成

管理者（常勤兼務）	:	1名
サービス提供責任者（常勤専従）	:	1名
介護福祉士（常勤専従）	:	1名
介護福祉士（非常勤専従）	:	1名
ヘルパー（常勤兼務）	:	1名

2. 業務内容

利用者の方々のご自宅に訪問し、生活や身体の介護を行う。

具体的には、料理／掃除／洗濯などの家事全般から、

日用品の買い出し（買い物代行）、そして食事／入浴／排泄などの
各種身体介助が中心となる

2023年度を振り返って

突発的なスタッフの欠員が相次いだことにより、利用者の方々に対して回数制限や時間変更などのスケジュール調整を余儀なくされたことがたいへん遺憾であった。全国的なヘルパー不足の影響をまともに受けた形となったが、そのような状況下においても、残ったスタッフ達がご利用者の生活を支えようと必死に奮闘したことにより、感謝やお礼の言葉を多数頂いた他、アンケートによる満足度調査も高評価であった。

人員をいかに確保していくか、という命題に加え、感染予防への対策を徹底しつつ、限られた制度の範囲内で、ご家族やケアマネージャーと連携し、研鑽を重ねながらの安定的なサービスが求められている。また当然ながら収益面での成果も重要であり、来年度も非常に厳しい運営が予想される。

以上の通り、訪問介護事業は厳しい状況下にあるが、地域住民からの事業継続の強い要望に応えていくためには、事業所単独での努力のみならず、事業所間の連携や行政との協力関係等も視野にいた理想的な事業形態を具体化していくことが必要だと考える。

職場紹介

1. 職員構成

管理栄養士 1名（施設側） 委託（日清医療食品株式会社） 調理師 2名 栄養士 1名

2. 業務内容

献立作成・発注・施設入所者・利用者様食事提供・栄養管理
クリニック栄養指導・訪問栄養指導

2023年度を振り返って

入所者・利用者様に栄養のバランスを考慮し、より家庭的な味を心がけ、安心安全な食事の提供を目標に取り組んできました。

外出が難しい入居者の方々には、食事で季節を感じていただけるように心がけました。

桜の時期には、桜ちらし寿司や桜もち、夏の暑い時期はかき氷・そうめん、冬は大豆から味噌を作る等、食を通して癒し癒される時が過ごせたと感じています。

多職種協働によるNST（栄養サポートチーム）を月に1回行う事で低栄養による身体症状の重症化を防ぎ、個々の食事形態や喫食状況を把握、誤嚥予防、体重減少等、早期に身体状況の変化に気づき改善策に取り組んでいます。

2024年度に向けて

お食事で季節を感じていただいたり、以前のようにイベント（夏祭り）が出来るようになればと考えています。又日々の生活の中で、野菜を包丁で切り浅漬けを作ったり、揚げたての天ぷらやたこ焼きパーティーを行うことで、食への楽しみが増えると良いと思っています。

より家庭的な雰囲気味わっていただけるように努めていきます。

通所リハビリをご利用の方々にはリハビリの状況を把握し、フレイル・サルコペニア予防のため、その方にあった栄養量や誤嚥性予防のための食形態を提案いたします。一人一人スクリーニングを行うことで体重の変化、身体状況をすばやく把握することで健康寿命を延ばし、自分らしい生活が送れるお手伝い出来ればと思います。

クリニックの外来においては生活習慣病予防のため、栄養指導の必要性を理解していただき、具体的な献立の提案を行います。タニタ体組成計を用い、見える化による目標を設定し達成を目指します。地域包括ケアシステムにおける栄養士の役割として、健康教室・うきうきルーム・料理教室開催時には、最新の栄養情報を伝え、食の支援活動を行うことで地域の健康増進、病気の予防、介護予防等の役割を果たしていきたいと思っています。

また、子供の栄養不良・過多も近年問題となっています。身体は毎日食べる物で作られます。

世代ごとの問題点もあり、一人で解決するのではなく、今こそ地域の力が必要と感じます。

微力ではありますが、栄光会栄養士の力を発揮していきたいと思っています。

伝道部

職場紹介

1. 職員構成

チャプレン／グリーフカウンセラー 清田直人

2. 業務内容

社会医療法人 栄光会 栄光病院 伝道部は1997年に設立し、病床訪問をはじめとし、患者礼拝、院内キリスト教行事の企画等を中心に活動している。

- 1) 患者、家族へのスピリチュアルケア、職員への心理／産業カウンセリング、遺族へのグリーフカウンセリング
- 2) 患者礼拝“よきおとずれ会”“第四日曜礼拝”の主宰
- 3) 院内キリスト教行事の執行
- 4) 院内における洗礼式、冠婚葬祭などの執行
- 5) NPO法人栄光ホスピスセンター
- 6) 協力牧師会事務局

a) 伝道部基本理念

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」
—栄光会創立の精神—

- i) キリスト教病院としての栄光病院建院の精神を確認し、「栄光会フィロソフィ」に基づいて、その目的達成につとめる。
- ii) キリスト者スタッフは、まず自らの勤務を通じてキリスト者としての立証につとめ、他のスタッフや患者・家族に対して、キリストの愛を持ってそのつとめを行う。

b) 伝道部目標

- i) キリスト教精神に基づく病院理念の啓蒙
- ii) 院内キリスト教行事の充実
- iii) 病院理念に基づくスピリチュアルケアとグリーフケア

2023年度を振り返って

年間聖句：「何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。」

(ヨハネの手紙 第一 5：14)

i) キリスト教精神に基づく病院理念の啓蒙

○栄光会の体制が大きく変化していくなかで、改めて栄光会の土台となるキリスト教精神を確認しつつ啓蒙する

1. 行事

- ・たんぽぽ 毎月発行
- ・よきおとずれ会 院内放送のみで開催 毎週火、木、土曜日 9:00～9:30
栄光の間（野村、清田）
- ・聖日礼拝 第4日曜日 10:30～11:30 礼拝堂 5月より再開
- ・イースター集会 日時：2023年4月8日（土）14:00～15:00
院内放送のみで開催
- ・第62回追悼記念会 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策により中止
- ・召天者墓前記念礼拝 日時：2023年10月14日（土）14:00～15:00
場所：聖徳廟 栄光病院納骨堂 出席者：8家族17名
- ・栄光病院クリスマス会 日時：12月23日（土）14:00～14:50
院内放送のみで開催
- ・年末感謝礼拝 日時：2023年12月29日（金） 8:30～8:50 礼拝堂
- ・年頭感謝礼拝 日時：2024年1月5日（金） 8:30～8:50 礼拝堂
- ・第63回追悼記念会 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策により中止
- ・イースター集会 日時：2024年3月28日（木）15:00～15:50
院内放送のみで開催

2. その他

院内葬儀	7件（2023年3月31日現在）
院内結婚式	0件（2023年3月31日現在）
納骨式	3件（2023年3月31日現在）
洗礼式	0件（2023年3月31日現在）

2024年度に向けて

「わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです。」

（コリントの信徒への手紙 第一 3:9）

3) 病院理念に基づくスピリチュアルケアとグリーフケア

○入院患者およびその家族のスピリチュアルペインを的確に評価し、スピリチュアルケアに繋げていく。

ー各病棟との情報共有に努めるー

地域協働部

職場紹介

1. 職員構成

部 長 下稲葉 主一

部長補佐 鷹尾 剛

部 員 和田 優里菜

※地域協働部は、栄光会他部署のメンバー諸氏の協力により成り立っています

2. 業務内容

時代背景

2025年、2040年に向け、時代は「地域包括ケア」及び「地域共生社会」へと向かっている。

在宅時代のなか、専門職及び生活支援に関わる地域住民は育っているのか？

目的

医療介護と地域社会がネットワークを組み、地域社会で生活をし続けることができ、その方々の幸せな人生最期に貢献する事にある。

内容

栄光会と地域人を繋ぎ、ネットワーク化する中で協働できる仕組みをつくる事。

- ① 志免町健康課からの委託事業である「うきうきルーム」の運営。
- ② 「NPO法人志免地域支え合い互助基金」の運営事務局。
- ③ 大学及び各団体、企業との協働。
- ④ 志免町版介護予防事業の研究。
- ⑤ iPadで脳若トレーニング講座の運営。

2023年度を振り返って

2022年度より始めた介護予防分野に関するプロジェクトが拡がり始めた2023年度であった。

NPO法人志免地域支え合い互助基金での事業及び事務局運営と絡み合った成果である。

2024年度から始まる町全体で介護予防について考える対話の場の誕生に繋がった。

①志免町健康課からの委託事業である「うきうきルーム」の運営

「うきうきルーム」は、担当町内会の公民館に理学療法士を中心に訪問し各種講座や運動を行う。

2023年度は5月より開催開始となり11町内会を担当。合計57回の開催、605名の参加となった。

②「NPO法人志免地域支え合い互助基金」の運営事務局

当活動を通じて、全町的な人的ネットワークの構築が出来ている。以下は、代表的な活動事例。

- ・中学生～40代等の世代との関りが、志免中学校との協働で結成している「支え合い新聞部」を通じて出来てきた。
- ・「防災」活動を行う諸団体との協働により、多面的に繋がる人的ネットワークへと進化している。
- ・「NPO法人いるか」との連携協定を通じ、志免町の小学校区に1ヶ所の『多機能型子ども食堂』づくりのサポートを行う中で、町内会や議員、行政等、様々な方々との協働が進み始めた。
- ・志免町内での介護予防に関する『対話の場』を創造する展開へと進化している。

③大学及び各団体、企業との協働。

- ・福岡工業大学との協働⇒篠栗町ラボプロジェクト、古賀市・福津市の介護予防事業への関わり。
- ・志免中学校との協働⇒支え合い新聞部活動。「ほほえみ結ぶ・しめ新聞」第2・3号発刊。
新聞は、各300部発行され、関係各所に配置して頂いた。
- ・志免町の各企業との協働⇒例）富士正醤油醸造元と志免西小学校3年生が行う醤油づくり活動から生まれる売上から寄付を頂くシール事業。

④志免町版介護予防事業の研究。

- ・志免町の住民有志と連携し、志免町の介護予防事業の研究を進める。

⑤iPadで脳若トレーニング講座の運営。

- iPadで脳若トレーニング講座の運営を介護予防の一環として実施。通所型と訪問型にて運営。
- ・通所型⇒2回／月の木曜で実施。
⇒今年度は、新規受講者を募集する為、1クール制のトレーニングを開発・実施。
- ・訪問型⇒志免町社会福祉協議会デイサービス輝き、春日市の介護予防講座に出向き講座を実施。

2024年度に向けて

1. 介護予防分野で産官学における対話の場を開催する他、今後のモデル案づくりを行う予定。
2. NPO法人志免地域支え合い互助基金で行う活動を通じた人的ネットワークの拡充。
3. 脳若トレーニングのメニューや人材開発を行うほか、志免町各所で展開する。

(敬称略)

年度統計

2023年度 志免町委託事業 『5きうきルーム』参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
別府2	準備月	8		7		7		7		5		9	43
別府3			12		17		15		14		9		67
南里3			19		17		16		13		20		85
志免5		8		8		6		4		6		7	39
志免6			11		17		12		13		13		66
石橋台		11		9		6		7		0		5	38
向ヶ丘			9		10		11		8		11		49
王子八幡		15		13		17		16		12		19	92
水鉛		15		7		9		7		5		5	48
御手洗			8		9		8		0		0		25
サンパパン			14		11		9		8		11		53
合計		57	73	44	81	45	71	41	56	28	64	45	605

2023年度 栄光会脳若ステーション 『Padで脳若トレーニング』訪問型 (場所: 志免町社会福祉協議会 デイサービス輝き)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	20	22	20	23	18	21	20	18	19	0	20	35	201

2023年度 栄光会脳若ステーション 『Padで脳若トレーニング』医療介護施設かめやま 木曜日通所型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通常型	10	11	16	8	13	10	18	24	16	17	18	20	171
ワンクール				8	7	8							23
合計	6	11	16	16	20	18	18	24	16	17	18	20	194

2023年度 栄光会脳若ステーション 『Padで脳若トレーニング』春日市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数		1	2			2		2		2	2	1	12
人数		23				30		18		35	48	20	174

※主催者である春日市さんから頂いた参加者人数にてカウントをしている。

ボランティア統括部

職場紹介

1. 職員構成

主任 1名

2. 業務内容

ボランティア活動が円滑になされるための支援

2023年度を振り返って

2020年度より、コロナ禍の中、ボランティア活動は一部を除き 休止となっています。

2020年2月23日より、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、ボランティアのみなさんには屋外での活動である花壇の整備以外、活動の休止をお願いしています。感染の収束を願いながらも、4年以上の月日が経過し、今なお ボランティア活動の全面再開は実現していません。

そのような中、マスクを着用する、病院建物内には入らないといった感染対策を講じた上で活動することを確認し、新型コロナウイルス対策会議の承認を得て、花壇ボランティアの活動は継続されています。病院の玄関前の花壇ボランティアの活動は6年目に入りました。ボランティアさんたちのご尽力によって 美しい花がいつもそこに咲いています。

その他にも、患者さんに直接お会いすることはできなくても、折り紙やペーパークラフトの飾り物を自宅で作って送ってくださるボランティアさんがいらっしゃいます。患者さんや病院のことを思いながら、一折り、一折り 作ってくださったことを想うと 心が温かくなります。季節を感じさせてくれる作品が届くと、患者さんのお目に留まる所に飾るようにしています。

2024年4月現在、63名の方がボランティアに登録してくださっています。活動休止の期間、63名のみなさんにあてて、はがき、メール、電話 等で つながりを絶やさないようにと努めています。ボランティアさんからも再開が待ち遠しいという声が届いています。一日も早く以前の活動に戻れますようにと願っています。

年間のボランティア活動

1. 主な活動

整備、製作活動

外回りの整備—玄関前ボランティア花壇

季節の装飾—折り紙の壁掛け ・ クリスマスオーナメント

2. 栄光病院ボランティア活動実績 (2023年 4月 ~ 2024年 3月)
 玄関前ボランティア花壇の整備

月	新規登録数	延べ活動回数	延べ活動時間
4	0	7	6:30
5	0	16	19:05
6	0	12	11:30
7	0	10	9:10
8	0	17	15:40
9	0	13	10:55
10	0	18	18:05
11	0	19	22:05
12	0	9	6:35
1	0	6	4:10
2	0	9	10:45
3	0	8	7:30
計	0 人	144 回	142時間00分

季節の装飾の製作

月	作 品	
4	折り紙の壁飾り	『 チューリップ 』
5	折り紙の壁飾り	『 端午の節句 』
6	折り紙の壁飾り	『 紫陽花 』
7	七夕飾り	
8	折り紙の壁飾り	『 納涼 』
9	折り紙の壁飾り	『 お月見 』
10	折り紙の壁飾り	『 ハロウィン 』
11	折り紙の壁飾り	『 秋の風情 』
12	折り紙の壁飾り	『 クリスマス 』
	ペーパークラフト	『 クリスマスオーナメント 』
1	折り紙の壁飾り	『 お正月 干支 』
2	折り紙の壁飾り	『 節分 』
3	折り紙の壁飾り	『 ひなまつり 』

本部事務局

職場紹介

職員構成

事務局長	1名
事務局次長	1名
主任・副主任	10名
一般職	7名
【計】	19名

(2024/4/1現在)

2023年度を振り返って

2023年度の大きなプロジェクトの一つであった「病院機能評価3rd G. 更新受審」を8月に終了し、12月には無事に更新認定を頂くことができました。受審最終日、サーベイヤーの方からの講評の際、「皆さんよく頑張って、縁の下働き、それぞれの業務を遂行しておられると思います。事務部門の下支えがあって、診療・看護の現場の皆さんが頑張ることができます。」との言葉を頂きました。本部事務局は、受審準備委員会のコアメンバーとして準備に携わってきましたので、その言葉は本当に大きな報いであり、次の業務に向かうモチベーションとなりました。

今回の受審準備を通して得られた経験を活かして、病院全体としての継続的な業務改善に繋げることができるよう、引き続き取り組んでいきたいと考えております。

2024年度に向けて

《2024年度 本部事務局 部署目標》

1. 栄光会の職員としての誇りを持ち、現場を支える使命感をもって業務に精励する
2. 経営改善のため、経費削減を積極的に推し進める
3. 本部内の連携を強化し、業務の効率化を促進し、働き方の改善に努める

「全人的ケアを担う栄光会の現場を支える」という本部事務局の役割・使命を意識しながら日々の業務に励むことで、スタッフ一人一人が、目の前の仕事にやりがいを感じ、栄光会で働く楽しさ、意義を感じることができればと考えています。

昨年度は、長年本部事務局で大切な役割を果たしてくれた職員が定年退職し、大きな存在を失いましたが、2024年度幸いにも新たな職員を迎える予定です。栄光会の理念のもとに、本部事務局スタッフと心と力を合わせて、気持ちも新たに励んでいきたいと思っております。

職場紹介

「“経営の羅針盤”となるべく、法人の経営成績および財政状態を適正かつ速やかに把握し、経営の改善・向上に寄与する」。

1. 業務内容

- 1) 各種財務諸表作成
- 2) 資金の調達、管理、運用
- 3) 理事会、幹部会への財政状態・経営成績・財務分析報告
- 4) 新規事業計画の支援（財務面での検証）、または立案・作成
- 5) 法人の意思決定に資する各種情報の収集

年度統計

外来患者数

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月
内科	1,397	1,424	1,448	1,545	1,651	1,477
外科	323	260	291	277	267	259
循環器科	189	167	203	153	198	160
呼吸器科	174	172	176	177	178	195
整形外科	87	105	110	99	115	98
リハビリ	100	89	96	106	95	116
健診センター	220	341	584	379	473	317
在宅医療センター・栄光	158	161	168	189	189	178
予防接種 他	151	176	176	172	166	153
計	2,799	2,895	3,252	3,097	3,332	2,953

診療科	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	1,508	1,477	1,647	1,462	1,409	1,446	17,891
外科	288	269	245	237	270	218	3,204
循環器科	173	212	176	189	179	159	2,158
呼吸器科	204	165	186	176	157	177	2,137
整形外科	116	120	127	111	113	115	1,316
リハビリ	122	127	121	100	124	165	1,361
健診センター	601	721	482	285	344	408	5,155
在宅医療センター・栄光	175	152	178	155	148	154	2,005
予防接種 他	879	577	260	145	161	155	3,171
計	4,066	3,820	3,422	2,860	2,905	2,997	38,398

医業収入

年			2023		2023		2023		2023		2023		2023		
月			4月		5月		6月		7月		8月		9月		
患者数	栄光病院	外来	2,421		2,393		2,500		2,529		2,670		2,458		
		健診センター	220		341		584		379		473		317		
		在宅医療センター栄光	158		161		168		189		189		178		
		訪問看護	624		741		810		783		696		757		
		ファミリークリニック	内科(外来)	381		416		404		414		451		408	
			内科(訪問診療)	211		218		215		218		238		210	
			小児科	687		811		862		878		586		809	
		通所リハ	949		982		972		921		878		956		
棟	・延患者数 ・1日平均	3 A	636	21.2	624	20.1	691	23.0	702	22.6	677	21.8	667	22.2	
		3 B	618	20.6	662	21.4	669	22.3	682	22.0	622	20.1	655	21.8	
		2 C	610	20.3	600	19.4	638	21.3	660	21.3	581	18.7	545	18.2	
		4 A	938	31.3	941	30.4	1,063	35.4	1,201	38.7	1,177	38.0	1,172	39.1	
		4 B	733	24.4	691	22.3	690	23.0	774	25.0	711	22.9	727	24.2	
		5 A	857	28.6	895	28.9	915	30.5	925	29.8	903	29.1	915	30.5	
		全院	4,392	146	4,413	142	4,666	156	4,944	159	4,671	151	4,681	156	
		・稼働率 ・入退院 (転棟含む)	3 A/24	88%	29	84%	39	96%	18	94%	23	91%	28	93%	11
	3 B/24		86%	33	89%	22	93%	34	92%	37	84%	39	91%	20	
	2 C/23		88%	30	84%	34	92%	39	93%	39	81%	35	79%	40	
	4 A/45		69%	72	67%	73	79%	73	86%	68	84%	82	87%	68	
	4 B/28		87%	7	80%	22	82%	12	89%	16	82%	14	87%	14	
	5 A/34		84%	19	85%	20	90%	20	88%	23	86%	29	90%	16	
	全院		82%	190	80%	210	87%	196	90%	206	85%	227	88%	169	
	有老<かめやま> 35室		%	91%		91%		90%		88%		85%		80%	
	その他	・時間外比率	%	34%		38%		34%		50%		48%		51%	
・死亡退院		人	37		43		36		38		41		28		
・救急車来院回数		回	16		20		25		13		23		16		

年			2023		2023		2023		2024		2024		2024		
月			10月		11月		12月		1月		2月		3月		
患者数	栄光病院	外来	3,290		2,947		2,762		2,420		2,413		2,435		
		健診センター	601		721		482		285		344		408		
		在宅医療センター栄光	175		152		178		155		148		154		
		訪問看護	864		735		806		719		770		866		
		ファミリークリニック	内科(外来)	776		605		570		449		413		425	
			内科(訪問診療)	228		201		212		206		212		222	
			小児科	1,066		1,225		1,118		838		1,107		699	
		通所リハ	993		969		924		782		813		849		
棟	・延患者数 ・1日平均	3 A	621	20.0	651	21.7	694	22.4	652	21.0	632	21.8	598	19.3	
		3 B	666	21.5	653	21.8	664	21.4	670	21.6	581	20.0	561	18.1	
		2 C	651	21.0	638	21.3	659	21.3	680	21.9	610	21.0	576	18.6	
		4 A	1,180	38.1	1,088	36.3	1,083	34.9	1,050	33.9	1,119	38.6	1,165	37.6	
		4 B	736	23.7	681	22.7	756	24.4	701	22.6	697	24.0	639	20.6	
		5 A	880	28.4	696	23.2	728	23.5	740	23.9	707	24.4	693	22.4	
		全院	4,734	153	4,407	147	4,584	148	4,493	145	4,346	150	4,232	137	
		・稼働率 ・入退院 (転棟含む)	3 A/24	83%	25	90%	31	93%	31	88%	23	91%	21	80%	40
	3 B/24		90%	28	91%	32	89%	38	90%	38	83%	30	75%	46	
	2 C/23		91%	37	92%	22	92%	26	95%	20	91%	29	81%	26	
	4 A/45		85%	82	81%	59	78%	70	75%	42	86%	66	84%	66	
	4 B/28		85%	13	81%	10	87%	8	81%	8	86%	9	74%	13	
	5 A/34		83%	14	68%	25	69%	22	70%	8	72%	22	66%	24	
	全院		86%	199	83%	179	83%	195	81%	139	84%	177	77%	215	
	有老<かめやま> 35室		%	80%		80%		80%		80%		82%		88%	
	その他	・時間外比率		%	40%		45%		50%		49%		43%		39%
・死亡退院		人	37		37		48		30		28		50		
・救急車来院回数		回	16		18		11		14		13		15		

研修状況

院内・院外研修状況

■ 2024年度 新入職員研修スケジュール

≪ 2日研修 ≫ 研修場所 2F礼拝堂

【4月1日（月）】

8:30～ 9:00 開院記念日・入職式
9:10～ 9:40 訓辞・「新しい方々を迎えて」 井上理事長
9:40～10:00 法人の概況・職員の心構え 後藤事務局長
10:00～11:30 「新人事制度について」 後藤事務局長・小池事務局次長
人事労務関係留意事項 松尾主任
11:40～12:30 「看護部の紹介」 堤看護部長
13:30～14:30 医療安全 鎌倉医療安全管理副室長
感染対策 鎌倉感染防止対策副室長
14:30～15:00 防災訓練実施要領説明 齋藤主任
15:00～16:10 防災訓練 齋藤主任
＜礼拝堂・2F リハビリテーション課前自動販売機付近＞
16:20～16:50 人事・労務関係入職時提出書類説明 布川主任
16:50～17:00 事務連絡

【4月2日（火）】

8:30～ 8:40 事務連絡
8:40～12:20 部署紹介（全20部署）
8:40 栄養管理課 8:50 リハビリテーション課 9:00 医事課
9:10 臨床検査室 9:20 放射線室 9:30 薬剤課
9:40 医療機器安全管理室 9:55 ライフサポートセンター 10:05 ケアプランサービス
10:15 伝道部 10:25 診療情報管理室 10:35 開放型病院推進室
10:45 ファミリークリニック 10:55 通所リハビリテーション
11:05 介護付き有料老人ホームかめやま 11:15 ヘルパーステーション
11:30 訪問看護ステーション 11:40 在宅医療センター
11:50 健診センター 12:00 地域協働部 12:10 特別養護老人ホームこころ

12:20～12:30 名札写真撮影（本部事務局内撮影場所）

13:30～14:10 「栄光会における地域協働活動」

～住民が支え合い、安心して暮らせる地域社会を目指して～

下稲葉圭一本部長

14:10～14:50 「栄光会フィロソフィ」 清田チャブレン

15:00～15:30 ビデオ放映（幸福な死を迎えたい）

15:30～16:20 「栄光ホスピスの『こころ』」

～関わる全ての人の『幸せ』の『小さなきっかけ』となる働きを目指して～

下稲葉順一副理事長・ホスピス長

16:20～16:50 研修の感想・まとめ

16:50～17:00 事務連絡

【4月3日（水）】

8:30～ 9:00 永年勤続表彰式

■ 第 15 回 T Q M 研究発表会の開催

栄光会の患者様・利用者様に対するサービス向上、医療・看護・介護のレベルアップ、及び勤務モラル向上を期して、栄光会第 15 回 T Q M 研究発表会を開催した。

栄光会全部署が参画し、各部署創意工夫を凝らした発表を行った。

開催日：2023 年 11 月 17 日（金） 14：00～16：00 礼拝堂及び W e b 併用

発表部署（8 部署） 下記スケジュール参照

発表時間等 発表時間 8 分×8 部署 挨拶・講評 27 分 計 120 分

審査員 井上理事長・青戸副理事長・下稲葉副理事長・吉田副院長
堤看護部長・下稲葉副看護部長・下稲葉本部長・田ノ上副本部長
後藤事務局長・小池事務局次長・坂本施設長 計 11 名

時 間	部 署	テーマ
14:00～14:05	開会挨拶	
14:05～14:13	① 3 A 病棟	ホスピス病棟における浮腫ケア
14:15～14:23	② 臨床検査室	エコー検査のスムーズな検査開始と検査数増加を目指して
14:25～14:33	③ ファミリークリニック	コロナ禍を乗り越えるための私たちの挑戦 ～ワクチン普及にむけ奮闘する毎日～
14:35～14:43	④ 4 B 病棟	進行性難病患者の希望を支えるためのアプローチ ～多職種連携を通して学んだこと～
14:43～15:00	休憩	
15:00～15:08	⑤ 医事課	医事課のお仕事・おもてなし 私たちだからできる小さな配慮と気配り目配り
15:10～15:18	⑥ ライフサポートセンター	ライフサポートセンターって皆さんの Якуニタッ テマスかどうか？ ～課題と展望～
15:20～15:28	⑦ 外来	『どこに行けばいいの？』 ～わかりやすいご案内をめざして～
15:30～15:38	⑧ 在宅医療センター	情報共有方法の改革 ～訪問看護とのよりよい連携を目指して～
15:38～16:00	講評	

※なお、審査採点の結果、最優秀賞：外来

優秀賞：ファミリークリニック、優秀賞：医事課
が表彰された

■ 院内研修会 実施状況

栄光これから研修会

月	日	研修会名	講 師	受講者数
5	10	『診療用放射線の安全利用』	放射線室	210
6	7	『感染対策』	鎌倉 副室長	279
7	5	『医薬品の取扱いについて』	中島 主任	185
8	2	『医療安全』	鎌倉 副室長	278
9	6	『認知症について』	大野 脳神経内科部長	263
10	2	『感染対策』	安藤 内科部長	303
11	1	『医療ガス安全講習』	(株)朝日酸素商会	201
12	6	『医療機器の安全管理』 (AED の使い方)	日本光電(株)	293
2	5	『医療安全』	吉田 副院長	303

新入職員研修

4	1	『医療安全』(新入職員研修)	鎌倉 医療安全管理副室長	17
4	1	『感染対策』(新入職員研修)	野田 看護師	17
4	1	『防災訓練』(新入職員研修)	安川 総務・システム支援課長	26

■ 看護部 院内研修

看護部研修会 （隔月第2水曜日 17:15～18:00 礼拝堂）

開催日	モニター担当	テーマ	講師
2023/4/12		2023年度 看護部目標 目指す方向性	堤看護部長
2023/5/10	5A	症状マネジメント	認定看護師
2023/6/14	訪看	フィロソフィ	清田チャプレン
2023/7/12	FC	症状マネジメント	認定看護師
2023/9/13	外来	臨床論理	認定看護師
2023/10/11	3A	看護必要度	4A・5A
2023/11/8	3B	褥瘡について	認定看護師・船津看護師
2023/12/13	2C	フィロソフィ	清田チャプレン
2023/1/10	4A	フィロソフィ発表①	2C・3A・3B・LSC・在宅 訪看・看護管理室
2023/2/14	4B	フィロソフィ発表②	外来・4A・4B・5A・FC かめやま

職位研修 （看護師長・師長代理） eラーニング事前視聴後ディスカッション

開催日	研修テーマ	担当者
2023年5月	チームで成果を上げる目標管理	村勢師長
2023年6月	人事考課とマネジメントラダーを活用する事例	岡崎師長
2023年7月	「いま」求められるリーダーシップ ～VUCAの時代を乗り越えよう～	神信師長
2023年9月	管理者から見るスタッフのメンタルケア	寺田師長
2023年10月	中間評価を最大限に活かす目標管理 ～年間目標を見据えた評価と人材育成～	石田師長
2023年11月	対応に配慮が必要なスタッフとともに働くための支援	波多野師長
2023年12月	心理的安全性が叶えるヘルシーワークプレイス ～暴力・ハラスメントからスタッフを守る～	鎌倉師長
2024年1月	看護補助者と看護師の協働がかなえる医療の効率化 ～すべての看護スタッフが主体的にいきいきと 働く職場をつくる～	松岡師長
2024年2月	地域と患者を守る病床管理のためのマネジメント	梅野師長

職位研修（看護部主任）

e ラーニング事前視聴後ディスカッション

開催日	研修テーマ
2023/3/17	チーム医療の極意～専門職がもちたいリーダーシップの考え方～
	タスクシフト・シェアと多職種協働をめぐる現状を整理する ～看護職の業務範囲を前提に～

職位研修（看護部副主任）

e ラーニング事前視聴後ディスカッション

開催日	研修テーマ
2023/3/22	これからのコーチング・ファシリテーション ～基礎から実践のコツまで～

■ 看護部 院外研修参加報告 2023年4月～2024年3月

部署	日付	主催	テーマ	参加数
2C	4/1	コンバック株式会社	ストマー装具選択を極めよう ～SPA ツールと装具選択基準の使い方とコツ	1
	6/11	コロプラスト株式会社	ストマー周囲皮膚合併症予防について考える	1
	8/5	コロプラスト株式会社	IBD 疾患とストマーケアについて学ぶ	1
	5/20	日本褥瘡学会九州沖縄地方会	九州沖縄地方学術集会	1
	5/11	学研メディカルサポート	褥瘡のケア「いろは」 ～予防、発見、悪化防止の3ステップ	1
	7/25	学研メディカルサポート	創傷管理の基本とドレッシング材、外用薬使用のコツ	1
3A	6/11	日本緩和医療学会	第35回教育セミナー	1
	6/30. 7/1	日本緩和医療学会	学術大会	1
	5/27. 28	日本緩和医療薬学会	第16回 日本緩和医療薬学会年会	1
	6/11	日本緩和医療学会	第35回教育セミナー	1
	6/23. 24	日本医療マネジメント学会	第25回 学術総会	1
	6/30. 7/1	日本緩和医療学会	学術大会	1
	1/20	日本死の臨床研究会九州支部	ケアする心をケアする	1
	2/24. 25	日本がん看護学会	第38回日本がん看護学会学術集会	1
	1/21	日本緩和医療学会	第36回教育セミナー (CIPN 便秘 せん妄 皮膚症状)	1
	1/21	日本緩和医療学会	教育セミナー	1
3B	6/2	コロプラスト	コロプラストセミナー	1
	7/10	睡眠研究所	睡眠と転倒・転落	1
			睡眠視点からの転倒転落対策の実際	1
	1/20	死の臨床九州支部	ケアする心をケアする	2
	1/20	死の臨床九州支部	ケアする心をケアする(発表)	1
4A	4/1	コンバテック株式会社	ストーマ装具選択を極めよう	1
	4/28	e ラーニング	チーム医療の極意 専門職が持ちたいリーダーシップを考える	1
	4/28	e ラーニング	看護における臨床推移論とその会得方法	1
	4/28	日本終末期ケア協会	そのムせいいムセ、悪いムセ	1
	6/5	e ラーニング	多職種連携を基盤とした ACP	1
		e ラーニング	クリティカル領域における看護師の成長モデルと臨床推論	1

4A	6/8	日本終末期ケア協会	いつまでリハビリ？いつまでもリハビリを	1
	6/5	福岡県看護協会	抑えておきたい看護の基本	1
	6/2	コンプラスト	コンプラストセミナー(ストーマ)	1
	6/11	コンプラスト	ストーマ周囲皮膚の合併症予防について考える	1
	6/5	福岡県看護協会	入退院支援における看護の役割 オンデマンド	2
	6/5	福岡県看護協会	感染予防の基礎知識	1
	6/5	福岡県看護協会	看護に活かすフィジカルアセスメントⅡ 循環・脳神経系	1
	6/5	福岡県看護協会	基礎から学ぶ医療安全	1
	5/11	e ラーニング	褥瘡ケアの「いろは」 予防発見悪化防止のステップ	1
	7/8	福岡県看護協会	在宅看護の現場から 病院と在宅をつなぐ	2
	7/10	福岡県看護協会	多様化の支援 LGBTQ の理解を深めよう	2
	7/12	福岡県看護協会	癌性疼痛の看護ケア 入院から在宅まで	2
	7/25	e ラーニング	創傷管理の基本とドレッシング剤・外用薬使用の コツ	1
	8/4	福岡県看護協会	看護管理者が行うスタッフのストレスマネジメ ント	1
	8/6	e ラーニング	いま求められるリーダーシップ	1
	8/11	福岡県看護協会	入退院支援における看護の役割	1
	8/11	e ラーニング	もう一度振り返ろう チーム医療の基本	1
	8/8	e ラーニング	入浴のお世話	4
	8/8~8/9	福岡県看護協会	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	2
	4/25	ネスレ	認知症の食事支援について	1
	5/25	雪印	誤嚥性肺炎を防ぐポジショニングと口腔ケア	1
	4/	スミスアンドネフィー	明日から生かせる褥瘡ケアのポイント	1
	5/	パラマウントベット	医療安全セミナー	1
	6/7	マジックシーズ	ころやわで転倒骨折予防を始めよう	1
	7/14	徳洲会病院	KYT について	1
	8/7	パラマウントベット	医療安全セミナー	1
	8/7	メディカルチャレンジ	心電図マスターコース	1
	8/14	メディカルチャレンジ	心電図マスターコース	1
	2/9	日本ストマ排泄リハビリ テーション学会	つながりひろがりチャレンジする	1
	2/1	看護協会	地域包括ケア時代に看護管理者が取り組む地域連 携体制を考える	1
	2/6	福岡県精神保健福祉セン ター 相談指導課	自死遺族支援 関係者研修会	1

4A	2/20	パラマウントベッド	褥瘡対策 WEB セミナー	1
	2/7	パラマウントベッド	明日から実践 体圧分散マットレスの機能をいかすシーツの活用方法	1
	2/21	スミス・アンド・ネフュー	これで納得 ガイドラインの基づく褥瘡 局所治療	
	3/	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	認定更新のための講習会	1
	2/24	メディカルチャレンジ	心不全の基本	1
	2/25	メディカルチャレンジ	冠動脈疾患の基本	1
	3/4～ 5 月まで 毎週月曜日	メディカルチャレンジ	循環器集中学習コース	1
	3/	パラマウントベッド	医療安全オンデマンドセミナー	1
4B	4/11	アボットジャパン	認知症患者を食べるに導く食支援テクニック	1
	4/19	スミス・アンド・ネフェ	軟骨の選択と局所陰圧閉鎖療法 (NPWT)	1
	5/16	アルケア×ナースの星 WEB セミナー	もう一度学ぶ褥瘡ケアのあり方	1
	5/17	大塚製菓工場メディバンクス株式会社	地域包括ケア時代の在宅医療・口腔ケア	1
	6/2	コロプラスト株式会社	コロプラスト演習型製品勉強会	1
	6/2	メディバンクス株式会社	WEB 退院支援塾第 1 回これまでの変遷をふりかえり退院支援から次のステップへ(講義)	1
	6/6	メディバンクス株式会社	”(ZOOM)	1
	6/15	メディバンクス株式会社	第 2 回第 1.2 段階実践したい支援過程そして求めたい看護実践値(講義)	1
	6/20	メディバンクス株式会社	”(ZOOM)	1
	7/1	メディバンクス株式会社	第 3 回第 3 段階最低限の知識と連携(講義)	1
	7/4	メディバンクス株式会社	”(ZOOM)	1
	7/18	メディバンクス株式会社	第 4 回かかりつけ医(医療)機能に含まれる在宅医療支援(講義)	1
	7/25	メディバンクス株式会社	”(ZOOM)	1
	7 月	ネスレ	経営栄養の下痢アセスメントポイント	1
	8 月	看護協会	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	1
	5/27	さわやかセミナー	急変時の対応の研修	1
	6/24	フランスベッド(株)	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症について	1
	2/14	スミス・アンド・ネフュー	DEISGN-R2020 で創をモニタリング	1
	2/29	公益財団法人医療機器センター	令和 5 年度在宅人工呼吸器に関する講習会	1

4B	3/6	スミス・アンド・ネフュー	これで納得ガイドラインに基づく褥瘡局所治療～ 2022 年改訂第 5 版より～	1
	3/27	スミス・アンド・ネフュー	ウンドバイジーンを知ろう～治りにくい褥瘡の原因と対策	1
5A	5/8	看護協会	看護現場に活かすファミリーテーション技術	
	7/29	看護協会	事例の基づいたモチベーションを高める支援と指導	
	6/5	看護協会	入退院支援における看護の役割	
	7/5	地域保健福祉課	認知症サポーターの養成講座	
	8/8	福岡県福祉協議会	キャラバンメイト養成研修	
外来	5/13		第 83 回九州消化器内視鏡技術学会	4
	5/28		第 25 回日本母性看護学会学術集会	1
	5/29		第 83 回九州消化器内視鏡技術学会(オンデマンド)	1
	5/29		第 83 回機器取り扱い講習会(オンデマンド)	1
	5/8	e ラーニング	プロレクターマインド～後輩とともに成長するための心構え～	1
	5/9	e ラーニング	接遇マナーの基本～患者・家族のかかわり方～	1
	5/15	e ラーニング	現場で役立つ認知症のアセスメントとケア	1
	5/18	e ラーニング	怒っている人がいたら	1
	6/5	福岡県看護協会	臨床で使える心電図をマスターしよう	1
	6/11	福岡県看護協会	QOL を高める脳卒中看護	1
	6/18	福岡県看護協会	医療安全を組み立てる！プロレス指向と標準化	1
	6/19		第 90 回日本消化器内視鏡技術学会(オンデマンド)	1
	7/16	e ラーニング	学び直しの標準予防策	1
	7/30	e ラーニング	チームの力を引き上げる 多職種で取り組む医療安全	1
	7/24	e ラーニング	知っておきたい投薬の基本	1
	8/5	看護協会	管理者向けのストレスマネジメント	1
	6/18		日本老年看護学術集会 第 29 回	3
	8/20	e ラーニング	患者参加で実現する医療安全	1
	7/30	看護協会	今求められている外来看護	1
LSC	5/8～	久留米大学	エンドオブライフケアにおけるプロレスコーチング	1
	オンデマンド	福岡県看護協会	入退院支援における看護の役割	1
	6/5	福岡県看護協会	入退院支援における看護の役割	1
	8/26	福岡県看護協会	家族看護～家族に向き合う力を高めよう～	1
	8/1	福岡市医師会	第 47 回 地域医療連携ワークショップ	1
	6/5	志免町役場	キャラバンメイト	1
	1/24	九州がんセンター	子どもが親を看取るということ (zoom)	1

LSC	1/16	九州中央病院	人生最終段階における緩和ケア (zoom)	1
	2/20	筑紫医師会	脳血管障害／大腿骨頸部骨折パス勉強会	1
	2/9	粕屋保健福祉事務所	自殺未遂者等のハイリスク者支援のための連携勉強会	1
	2/22	志免町役場	ゲートキーパー養成講座	1
	2/15	福岡赤十字病院	多職種連携	2
FC	2/6	メディバンクス	どうしてますか？繁忙期の対応	2
	1/13	看護協会	在宅 施設管理者研修及び交流会	1
	3/6		肺炎球菌ワクチンについて	7
	3/11		RS ワクチンについて	7
訪看	4/25	ナースの星 WEB セミナー	在宅における呼吸ケアと栄養管理、食事支援	1
	5/17	ナースの星 WEB セミナー	Othuka Nutrition Webinar 地域包括ケア時代の在宅医療・口腔ケア	2
	4/20	訪問看護ステーション連絡協議会	訪問看護における多職種との連携について	1
	4/24	訪問看護ステーション連絡協議会	認知症と訪問看護	1
	4/25	訪問看護ステーション連絡協議会	認知症の方の意思決定支援	1
	7/30	志免町包括支援係	認知症ささえあい上映会 「ぼけますから、よろしくお願いします」	1
	8/6	NHK 厚生文化事業団	福岡がんフォーラム 「がんと生きる～こことからだ私らしく～」	1
	8/18	帝人株式会社	訪問看護のためのオンラインセミナー 訪問看護の夜間緊急対応”頭痛”	1
	8/23	志免町包括支援センター	令和5年度第2回志免町多種連携研修会	1
	3/1	浜の町病院	正しい吸引の方法	1
	2/6	福岡県精神保健福祉センター	自死遺族支援関係者研修会	1
	3/1	浜の町病院	正しい吸引の方法	1
看護 管理室	9/20	看護協会	看護補助者活用推進のための看護管理研修	1
	12/7	福岡県医師会	看護管理総論研修 (5日間)	1
	1/27	ヴェクソンインターナショナル株式会社	令和6年度 診療報酬改定概要 (オンデマンド)	1
	2/10	看護協会	第2回看護管理者が共に学びを深める会	1
	2/23	看護協会	診療報酬改定	1

対外研修の状況

■ 栄光ホスピスセミナー これまでの歩み

1986年4月の開院当初より、特別医療法人 栄光会 栄光病院では終末期医療に取り組んでまいりました。そして、1989年5月、当院ホスピス3年間の経験を踏み台とし、さらに多くの方々の現場でのご経験を提供していただき、ホスピスケアの確立・充実をめざして学問的にそして实际的・具体的に研鑽に励み末期がん患者とその家族の生活の質を高めることに寄与することを目的として「栄光ホスピス研究会」を設立し、セミナーを開催してまいりました。

	演題 又は テーマ	講師 (敬称略)	その他	参加人数
第1回 89.5.20	医の心 福岡亀山栄光病院ホスピスの3年	脇坂 順一 久留米大学名誉教授 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	VTR「忘れ得ぬ人」	261
第2回 89.7.15	がん告知は いま	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	看護婦・患者・患者家族・牧師 弁護士の立場よりの発表	84
第3回 89.9.2	医師として 末期医療(ホスピス)に どのようにかわるか	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	(医師部会)	37
第4回 89.12.9	ホスピス～全人格的ケア 4つの痛みはどう應えるか 末期医療ケアの現状と今後の課題	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 中島 正治 厚生省健康政策局 保健医療技術調整官		230
第5回 90.2.3	ホスピスケアにおける看護婦の役割	広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR「病院紹介」 症例発表・質疑応答	118
第6回 90.3.24	残される者へのグリーフケア	河野 友信 死の臨床研究会幹事 都立駒込病院内科心身医療科医長	募集演題発表 4例	82
第7回 90.6.23	がんを病む心・仕える心 ーがん患者の心理をめぐってー	牛島 定信 福岡大学精神医学教室教授	発表 患者・家族・看護婦の 立場より	158
第8回 90.9.8	WHO方式癌性疼痛治療法と MSコンパニ錠の徐放機構について 癌性疼痛とその対策	松本 禎之 塩野義製薬株式会社 製品部・次長 檀 健次郎 福大医学部麻酔科教授	VTR「栄光病院ホスピス案内」 (医師部会)	27
第9回 90.11.10	危機的状況にある 患者・家族の理解と援助	小島 操子 聖路加看護大学教授	発表 VTR「だからみんなで」	123
第10回 91.2.23	患者の家族としてホスピスに何を望むか	患者家族 4名	VTR「いのち輝いて」	64
第11回 91.6.29	安らかな人生最後の日々のために ホスピスにおける精神的援助	ホスピス医・看護婦・患者家族・牧師よりの 発表	VTR「いのちの旅人」	120
第12回 91.10.19	チーム・アプローチと看護 看護の心 期待される看護婦像	海尾 弘 栄光病院看護士長 広瀬 典子 栄光病院総婦長 藤江 良郎 栄光病院院長	事例検討 VTR「ホスピス・ナースの一日」	124
第13回 91.12.14	ホスピスのめざすところ ・ホスピスに期待するところ	患者家族・MSW・チャプレン・ホスピス医	事例検討 VTR	107
第14回 92.3.7	がん告知の理論と実際 ーどのように告知するかー がん告知と精神的援助 ーどのように援助するかー	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師	募集演題 2例 事例検討	95
第15回 92.5.9	相即の医療 ー死の彼方よりの医療ー	藤江 良郎 栄光病院院長	事例検討 VTR「われらの困難は天にあり」	93
第16回 92.7.25	痛みの看護	広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR「がん病棟24時間」 事例検討	112
第17回 92.10.16	人間の幸福をめざす医療	柏木 哲夫 淀川キリスト教病院副院長 小島 操子 聖路加看護大学教授 佐藤 智 ライオンシステム代表幹事	(第16回死の臨床研究会 記念講演会)	多数
第18回 92.11.14	WHO方式癌性疼痛治療法と MSコンパニ錠の徐放機構について モルヒネ剤による疼痛コントロールの実際 ー非経口的使用法を中心にー	松本 禎之 塩野義製薬株式会社 製品部・次長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	(医師部会)	28
第19回 93.3.27	不二の人生に関わって ー精神的援助のあり方を考えるー	森山 健也 栄光病院協力牧師	事例検討 VTR「主よあなたがともに」	157
第20回 93.7.24	ホスピスケアの理論と実際	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 海尾 弘 栄光病院看護士長	症例検討 VTR「主よあなたがともに」	203
第21回 93.9.18	医療現場における思いやり・ 優しさとは何か ホスピスのめざすところ ホスピスにおける宗教的援助の役割 ホスピスにおける看護婦の役割	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR「ホスピス・ナースの一日」 事例検討	420
第22回 93.11.5	がん疼痛の鎮痛薬による 効果的治療法のABC	武田 文和 埼玉県立がんセンター総長		386
第23回 94.3.26	QOL向上をめざす全人格的ケアを ホスピスケアの内容と課題	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 柏木 哲夫 大阪大学人間科学部教授 淀川キリスト教病院名誉ホスピス長	VTR「主よあなたがともに」	439
第24回 94.5.21	一般病棟でどのようにして ホスピスケアを実現できるか	栄光病院スタッフ	事例検討・意見交換 患者家族の発表	226
第25回 94.7.23	訪問看護婦から見た在宅ホスピス 在宅ホスピスを可能にする 要因を考える 行政側から見た終末期医療	高沢 洋子 淀川キリスト教病院 訪問看護ステーション 林 治子 西南女学院大学 保健福祉学部看護学科 田中 慶司 福岡県保健環境部長		434

第26回 94. 10. 28	インフォームド・コンセントとがん告知 がん告知、その理論と実際 がん告知、その精神的援助 がん告知、看護婦の役割 終口モルヒネ剤使用の理論と実際	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長 武田 文和 埼玉県立がんセンター総長	事例発表	354
第27回 95. 2. 25	QOL向上をめざす全人格的ケアを －コミュニケーションをどのように－ 全人的ホスピスケアの実践	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 中島美知子 ホスピタリズム中島医院院長		154
第28回 95. 5. 31	取材を顧みて ホスピスに生きて20年	迎 恵子 テレビ西日本報道部 チーフ・ジャーナリスター 柏木 哲夫 大阪大学人間科学部教授 淀川キリスト教病院名誉ホスピス長	VTR「ありがとう幸せの日々を」 (TNCテレビ西日本制作)	317
第29回 95. 9. 8	ホスピスにおける「プライマリ・ナーシング」 症例発表－「プライマリ・ナーシング」の関わり－	大内 裕子 淀川キリスト教病院 ホスピス病棟婦長代理		189
第30回 95. 10. 30	モルヒネを使いこなそう －モルヒネ使用の理論と実際－	武田 文和 埼玉県立がんセンター総長	(医師部会)	193
第31回 96. 1. 26	ホスピス・ケアの実践 －全人的理解・全人的ケア－	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長	症例発表	184
第32回 96. 5. 18	死を生きる －ホスピスケアに従事して－	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 河野 博臣 河野胃腸科外科医院院長	栄光病院開院10周年記念	399
第33回 96. 8. 3	癌末期患者の症状コントロール 癌告知はいかに	恒藤 暁 淀川キリスト教病院ホスピス長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長		382
第34回 96. 10. 25	安楽死をどう考えるか 基調講演 シンポジウム	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 広瀬 典子 栄光病院総婦長 浜口 至 北九州がんを語る会 代表 阿蘇品スミ子 久留米大学医学部 看護学科助教授 森山 健也 栄光病院協力牧師 三浦 啓作 奥田三浦法律事務所弁護士		325
第35回 97. 2. 1	在宅ホスピス－看取りを通して－ 在宅医療におけるネットワーク活用について 在宅での看取り－訪問看護の実践から－	海尾 弘 栄光病院在宅看護士長 青戸 雄司 栄光病院内科部長 紅林 みつ子 訪問看護婦		256
第36回 97. 4. 19	死を受容し、安らかな死を迎えたある 癌末期患者への援助を通じて学んだこと ターミナルケアにおけるコミュニケーション	山田 由香里 福岡亀山栄光病院 緩和ケア病棟看護婦 青木 福代 トータル・カンセリング・スクールセミナー講師	VTR 供覧 「魂が癒されるその時まで」 福岡亀山栄光病院制作	235
第37回 97. 9. 13	ホスピス講習会 基調講演1 基調講演2 基調講演3 患者家族の体験談 特別講演・かけがえのない母を看取って	第一部 死にゆく人への心のケア 藤江 良郎 栄光病院理事長 森山 健也 栄光病院協力牧師 第二部 家族の悩み・家族への援助 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 池田 典子 患者家族 熊谷真実・松田美由紀 女優	症例発表 VTR 供覧 「幸福な死を迎えたい」 福岡亀山栄光病院制作	477
第38回 98. 1. 31	市民がホスピスに望むこと 一般病院におけるターミナルケア	波多江伸子 死生学者・作家 高宮 有介 昭和大学病院医師		151
第39回 98. 5. 23	栄光病院ホスピスを語る	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR 供覧 「いのちの質を求めて」 福岡亀山栄光病院制作	139
第40回 98. 9. 12	人生に有終の美を	日野原重明 聖路加国際病院・理事長		377
第41回 99. 3. 13	家族への援助－家族に聞く－ 基調講演 シンポジウム	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 協力牧師 広瀬 典子 総婦長 青戸 雄司 内科部長 後藤 隆子 緩和ケア病棟婦長 平井 美幸 医療ソーシャルワーカー 松山やよい 患者家族 佐伯 洋文 患者家族		99
第42回 99. 5. 22	ターミナルケアにおけるがん告知について 基調講演 シンポジウム	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 朔 元則 九州医療センター外科部長 中村 浩子 患者家族 工藤 涼子 栄光病院緩和ケア病棟婦長 三浦 啓作 奥田三浦法律事務所弁護士 森山 健也 香椎バプテスト教会牧師		132
第43回 99. 11. 13	ターミナルケアにおけるセデーション 基調講演 発表 発表	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 吉田 晋 栄光病院緩和ケア病棟医師 堺 千代 栄光病院緩和ケア病棟婦長		132
第44回 00. 02. 26	在宅で看取る 特別講演「在宅でこそ その人らしく」 症例発表「死を生き抜くということ」 特別講演「これからの高齢者医療・ 福祉と介護保険」	佐藤 智 ライフケアシステム代表幹事 崎田 雅子 ケア訪問看護ステーション訪問看護婦 荒瀬 泰子 福岡市保健福祉局高齢者部長		163

第45回 00.05.13	ターミナルケアにおける看護婦の役割 基調講演「ターミナルケアに 期待する看護婦像」 発表「オーストラリア・ホスピス事情」 症例発表「拒否的な患者への 看護介入について」 特別講演「ターミナルケアにおける 家族への援助ーその危機介入ー」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 下稲葉かおり 栄光病院緩和ケア病棟看護婦 深田 美幸 栄光病院緩和ケア病棟看護婦 小島 操子 大阪府立看護大学学長		302
第46回 00.09.01	ターミナルケアにおける医師の役割 基調講演「ターミナルケアに 期待される医師像」 特別講演「がん疼痛治療における オピオイドと鎮痛補助薬の使い方」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 恒藤 暁 淀川キリスト教病院ホスピス長		106
第47回 01.03.10	スピリチュアルケア 基調講演「スピリチュアルケア」 シンポジウム「スピリチュアルケアの実際」	窪寺 俊之 関西学院大学神学部教授 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 工藤 涼子 栄光病院緩和ケア病棟婦長 清田 直人 栄光病院チャプレン 日野 晴廣 患者家族		229
第48回 01.6.16	家族への援助 基調講演「悔いの多い遺族・悔いの少ない遺族」 ～その援助の理論と実際～ 「最愛の夫をホスピスで看取って」 シンポジウム「家族への援助」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 高島 望子 患者家族 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 堺 千代 緩和ケア病棟主任看護婦 清田 直人 栄光病院チャプレン 池田 典子 患者家族 高島 望子 患者家族		138
第49回 01.10.27	チームケアにおける看護婦の役割 一般病棟、緩和ケア病棟でターミナル期の 患者をケアするナースの持つニーズ ～その共通点と相違点～ オーストラリアにおける緩和ケア ～日本への提言～	Susan Lee 栄光病院ホスピス長 下稲葉かおり 栄光病院ホスピス長 Susan Lee 栄光病院ホスピス長		午前の部 39 午後の部 156
第50回 02.03.02	福岡ホスピス・フォーラム ～死を見つめ、いのちを支えるホスピスケア 講演「死を見つめ、いのちを支えて」 ～ホスピス医として20年～ 講演「ホスピスで母を看取って」 独唱 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 挨拶 ピアノとヴァイオリンによる演奏 特別講演「ホスピスにおける霊的癒しと医学」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 松田美由紀 女優・患者家族 本田路津子 ゴスペルシンガー 長村 文夫 財団事務局長 良永季美枝 ヴァイオリニスト 松村えりか ピアニスト・患者家族 日野原重明 聖路加国際病院理事長		1950
第51回 02.06.08	ターミナルケア講習会 講演「癒し癒されること」 講演「ターミナルケアにおけるコミュニケーション」 事例検討「キーパーソン不在による 母親としての痛みを支えて」 分科会 a. 症状コントロール b. コミュニケーション c. スピリチュアルケア d. スタッフのケア	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 宮原 純子 緩和ケア病棟看護婦		午前の部 145 午後の部 93
第52回 03.01.18	いのちを看るホスピスケア 講演「死を見つめ いのち支えて」 講演「海外看護留学」 ～オーストラリアの緩和ケアにふれて学んだこと～ 特別講演「いのちを看るホスピスケア」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 下稲葉かおり モナシュ大学看護学科レクチャー 柏木哲夫 大阪大学大学院人間科学研究科教授		359
第53回 03.09.13	グリーフケア 講演「家族の悲しみ 医療者の悲しみ」 ～グリーフケアを通して学んだこと～ 講演「お父さん 大好きです」 特別講演「喪失と悲嘆：その理解」	下稲葉かおり モナシュ大学看護学科レクチャー 的場章子 患者家族 リンダ・エスピー女史 グリーフケアカウンセラー (通訳:下稲葉かおり)		301
第54回 04.01.17	緩和ケア・コンサルトナースの役割 事例発表 “積極的な除痛を拒み 「痛みをとらないで」と訴えた 患者の関わりを振り返って” 特別講演「緩和ケア・コンサルトナースの役割」	田村和恵 栄光病院緩和ケア病棟看護婦 レイリオン・リーズ女史 (通訳:下稲葉かおり)		113
第55回 04.06.19	実りある家族援助のために 講演「癒し癒されてーホスピスの現場からー」 特別講演「実りある家族援助のために」 ～カウンセリング的アプローチによる 援助を通して～	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 田中信生 米沢興譲教会牧師 トータルカンゼンスクール主宰		292

第56回 05.03.05	今、死に対峙する人と共に 記念講演「死に対峙する絶望を支えられるか ーホスピス医として20余年ー 発表「死の臨床における宗教的援助の役割」 記念講演「医療の本質とは」 ー癒し癒され、癒されつつ癒すー	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 清田 直人 栄光病院チャプレン 藤江 良郎 栄光病院理事長	日本死の臨床研究会 九州支部第16回研究 集会と共催	252
NP0法人 設立記念 フォーラム 05.06.18	記念式典 記念リサイタル 講演「ホスピスのめざすもの～癒しのホスピス」 記念講演「ホスピスケアを支えるいのち」	千住真理子 ヴァイオリニスト 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 柏木哲夫 金城学院大学学長 淀川サト教病院名誉ホスピス長		372
第57回 06.03.04	栄光病院ホスピスを語る 【第一部】 ホスピス医として ホスピスにおけるMSWの役割 ホスピスにおけるリハビリテーションの役割 患者家族として 1 ホスピスの心ーホスピス長としてー 病棟案内 (VTR供覧) 【第二部】 家族看護に必要とされる予期的悲嘆への援助 ホスピスにおけるチャプレンの役割 ホスピスにおける栄養士の役割 患者家族として 2 栄光病院ホスピスを語るー理事長としてー	吉田 晋 栄光病院ホスピス医長 麻生 直子 栄光病院MSW 林 邦男 栄光病院理学療法士 原田 公栄 患者家族 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 「幸福な死を迎えたい」 石津 暁子 栄光病院ホスピス病棟看護師 清田 直人 栄光病院チャプレン 藤川富佐子 栄光病院栄養士 徳永 悦子 患者家族 藤江 良郎 栄光病院理事長		218
第58回 06.09.30	世界ホスピスデー 福岡ホスピスフォーラム 福岡県における終末期医療に対する取り組み ー在宅ホスピスケアの普及に向けてー ホスピスの歴史、現状、将来展望 ホスピスにおけるスピリチュアルケア	岡本 浩二 福岡県保健福祉部 理事兼医監 柏木 哲夫 金城学院大学学長 沼野 尚美 淀川サト教病院名誉ホスピス長 六甲病院緩和ケア病棟 チャプレン・カウンセラー		122
第59回 07.03.10	こころの聲に寄り添って～コミュニケーションが支えるもの～ 心のホスピス・コミュニケーションの心 栄光病院ホスピスを語る～コミュニケーション こころの聲に寄り添って～コミュニケーションが支えるもの～ 「『もう死にたい』と訴えた患者と その家族との関わりを振り返って」 こころの聲に寄り添って～チャプレンの立場から～	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス長 吉田 晋 栄光病院ホスピス長代理 赤司 宏子 栄光病院ボランティア 中島 祐子 栄光病院ホスピス病棟看護師 清田 直人 栄光病院チャプレン		129
第60回 07.10.20	福岡ホスピスフォーラム (世界ホスピスデー2007) ホスピス その傾向と対策 ー栄光病院ホスピスの現場からー やすらぎコンサート “生き方”としてのホスピス	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス長 Shana 原麻由子 (オカリナ) / 原健太郎 (ギター) 柳田 邦男 ノンフィクション作家・評論家		413
第61回 08.03.08	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 終末期における意思決定の際の 医療者と患者のコミュニケーション スタッフのケア	Susan Lee モンテ大学看護学科シニアレクチャー 下稲葉かおり モンテ大学看護学科レクチャー	レベルアップ 栄光ホスピス研修会 合同開催	159
第62回 08.10.25	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) グリーフケア～今、一番伝えたいこと～ 生と死 いのちに寄り添うこと 星の会との出会いを通して ～ともに感じるひとときを～ グリーフケアを考える ～ちいちゃんの歩みをとおして～ 悲しむ人と共に	武田康男 北九州市立総合療育センター歯科部長 金城亜紀 九州大学病院口腔外科歯科医師 須堯晴美 星の会 清田直人 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー	レベルアップ 栄光ホスピス研修会 合同開催	247
第63回 09.03.14	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 「チームアプローチ」 ホスピスは やはりチームケア 症状マネジメントの考え方の基本 どのように患者さんに説明するか どのように家族を援助するか どのように心の不安に向き合うか	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス主監 吉田 晋 栄光病院ホスピス長 下稲葉順一 栄光病院ホスピス医長 波多野智子 栄光病院ホスピス病棟看護師長 清田直人 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー		101
第64回 09.10.24	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 「かけがえのない今を生きる」 ～がん終末期患者を支えるとは～ 「緩和ケア認定看護師への道」 ～よりよい看護をはぐくむために～ 「死について考える」 ～オーストラリア・心のケア教育プログラムに参加して～	山岡憲夫 やまおか在宅クリニック院長 梅野理加 栄光病院ホスピス病棟看護師主任 部屋和子 栄光病院ホスピス病棟看護師主任		217
第65回 10.03.13	全人的ケア ワンポイントレクチャー 「ホスピスの奥の奥に迫る」 症状コントロール 「ホスピスにおける注射鎮静剤の使い方」 コミュニケーション 「『山紫水明』 心をとときはなつ」 家族への援助 「家族の悲嘆を支えるケアについて考える」 スピリチュアルケア 「『スピリチュアリティ』に迫る」	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス主監 吉田 晋 栄光病院ホスピス長 工藤涼子 栄光病院ホスピス看護顧問 波多野智子 栄光病院ホスピス病棟看護師長 清田直人 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー		120

第66回 10. 09. 25	(栄光ホスピス実践セミナー2010②合同開催) ホスピスにおけるスピリチュアルケア 「魂の叫びを聴く～ホスピスケアの心～」 シンポジウム： 「温かいもてなし」ホスピスの心で ～栄光ホスピスにおけるスピリチュアルケアの実践～	窪寺 俊之 下稲葉順一 江崎 美子 篠崎智恵子 清田直人	聖学院大学大学院教授 栄光病院ホスピス医長 栄光病院看護師 栄光病院音楽療法士 栄光病院チャプレン・グループカウンセラー		284
第67回 11. 09. 17	(栄光ホスピス実践セミナー2011②合同開催) 子どもの命のそばで 「子どもの命のそばで」 「小児ホスピス 私達にできる事・できた事 ～小児科のない当院での関わりを通して～」 「子どもをなくすということ」 「親・きょうだいをなくした子どもたちに寄り添う ～サポートグループの立場から～」	細谷 亮太 下稲葉順一 吉原良子 大井 妙子	聖路加国際病院 副院長・小児総合医療センター長 栄光病院ホスピス医長 NPO法人SIDS家族の会 副理事長・九州地区代表リーダー たんぼぼの会		157
第68回 12. 10. 27	(栄光ホスピス実践セミナー2012②合同開催) 認知症を抱え、生きるということ 「認知症を抱え、生きるということ」 シンポジウム 「あるがままを見つめて ～認知症を抱えて、生きる人とともに～」	大谷るみ子 中尾美也子 永富ひとみ 亀割 圭子	グループホームふあみりえ ホーム長 栄光病院ホスピス医師 栄光病院ホスピス病棟看護師 いやしの家施設長		141
第69回 13. 11. 23	(栄光ホスピス実践セミナー2013②合同開催) 「人をお世話するという生き方」 「こころの通うホスピスケア ～患者さんが教えてくれたこと～」	池永 昌之 下稲葉かおり	淀川キリスト教病院ホスピス・ 子どもホスピス病院副院長 モナシュ大学看護助産師学科 レクチャー・博士		165
第70回 14. 9. 13	メインテーマ「出会いたいのに ありがとう」 「置かれたところで咲く」 「死を想え ～ホスピス患者さんは私の人生の大先輩～」	渡辺 和子 下稲葉康之	ノートルダム清心学園理事長 栄光病院理事長・名誉ホスピス長		335
第71回 15. 2. 7	メインテーマ「チームアプローチのちから 2」 「全人的ケアとチームアプローチ ～チームアプローチのちから～」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	吉田 晋 波多野智子 梅野 理加 柴田 冬樹 福地 祐子 下稲葉順一	栄光病院副院長・ホスピス主監 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院ホスピス医長 栄光病院 看護師 副主任 栄光病院ホスピス長		58
第72回 15. 10. 24	メインテーマ「聴くことのちから」 「聴くことのちから」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	久保 千春 福永 頼子 村勢加寿代 清田 直人 林 邦男 徳永 悦子	九州大学 総長 栄光病院ホスピス医 栄光病院ホスピス病棟看護師 栄光病院チャプレン 栄光病院理学療法士 栄光ひまわり会（ご遺族の会）		143
第73回 16. 2. 27	メインテーマ「チームアプローチのちから 3」 「全人的ケアとチームアプローチ ～チームアプローチのちから～」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	吉田 晋 波多野智子 梅野 理加 柴田 冬樹 福地 祐子 下稲葉順一	栄光病院副院長・ホスピス主監 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院ホスピス医長 栄光病院 看護師 副主任 栄光病院ホスピス長		62
第74回 16. 9. 3	メインテーマ「苦しむ人とともにいて学ぶこと」 「苦しむ人とともにいて学ぶこと」 シンポジウム 「癒し癒されて」 ～患者さん・利用者が教えてくれたこと～	小澤 竹俊 中尾美也子 小宮 真美 田ノ上 剛 藤田 望美	めぐみ在宅クリニック 院長 在宅医療センター・栄光在宅ケアセンター医長 栄光病院ホスピス病棟看護師 栄光会介護事業本部 課長 特別養護老人ホームこころ生活相談員		142
第75回 17. 2. 25	メインテーマ「ホスピスってなあに？」 ～いのちに寄り添うホスピスケア～ 1) 栄光病院ホスピスのご紹介 2) ホスピス病棟での生活とは？ 3) 入院費はどれ位かかる・・・？ 4) 実は ホスピスでもリハビリします！ 5) 在宅でホスピス緩和ケアを受けるには？	下稲葉順一 杉山小百合 増田こずえ 林 邦男 中尾美也子	栄光病院ホスピス長 栄光病院ホスピス病棟看護師 栄光病院医事課課長 栄光病院リハビリテーション課課長 在宅医療センター・栄光在宅ケアセンター医長		104
第76回 17. 11. 25	メインテーマ「今、ホスピス緩和ケアに想うこと」 特別講演「ホスピス緩和ケアのこころを深める 講演「ホスピス わが人生道場」 講演「聴く心」 講演「ホスピス緩和ケア」 ～ありがたい『いのち』と共に～	柏木哲夫 下稲葉康之 下稲葉かおり 下稲葉順一	淀川キリスト教病院 理事長・名誉ホスピス長 栄光病院会長・名誉ホスピス長 モナシュ大学看護助産師学科講師・博士 栄光病院ホスピス長		318
第77回 18. 2. 24	メインテーマ「ホスピスの心で看取る」 講演「ホスピスの心で看取る」 ～ホスピスマインドに満ちた老健施設を目指して～ 発表「暮らしの継続とは～看取りの不安から見えてきたこと 発表「在宅ターミナルケア」 ～本人の思いに寄りそう看護ケア～	中尾美也子 安河内貴代 関 恵美子	介護老人保健施設五島福寿園 医師 特養こころエトリ・介護福祉士 栄光会栄光訪問看護ステーション管理者		120

第78回 18.11.17	メインテーマ「悲しみとともに生きるということ」 講演「いのちと歩む」 ～かたること・みつめること・あゆむこと～ 発表「子どもたちを亡くしてから30年のあゆみ」 講演「being with: 悲しみとともに」	武田 康男 新生児口腔ケア研究会代表 田村 千早 下稲葉かおり 明治大学看護助産師学科講師・博士		126
第79回 19.3.2	メインテーマ「ホスピスケアの目指すもの」 ～病院と在宅の連携の先に～ 講演「病院と在宅の連携について」 ～納得した看取りが出来るように～ 発表「在宅に向けての支援」 ～安心して在宅で過ごすために～ 発表「家で最期まで過ごしたい」 ～一人で過ごすためにはどのようなサポートが必要だろう～	中堀 亮一 わかばクリニック 院長 矢羽田有希子 栄光病院患者サポートセンター MSW 西尾 雅代 在宅医療センター栄光／ ホスピス地域連携室 看護師		86
第80回 20.1.18	メインテーマ「栄光ホスピスのこころ」 基調講演「栄光ホスピスのこころ」 ～関わる全ての方の幸せの 小さなきっかけになる働きを目指して～ 講演①「栄光ホスピスの伝承」 講演②「ホスピスナースとして大切にしている事」 講演③「老健で『いのちの質』を考える」	下稲葉順一 栄光病院 ホスピス長 福德 雅章 函館おしま病院 理事長・院長 堺 千代 大分ゆふみ病院 看護師長 中尾美也子 介護老人保健施設五島福寿園 医師		161

※2020 年度、2021 年度、2022 年度、2023 年度はコロナ禍により栄光ホスピスセミナーは実施せず。

院外からの研修

令和5(2023)年度

No.	研修期間	(時間帯)	研修種別	所属施設・学校名	人数
1	4/3(月) - 5/31(水)		作業療法学科臨床実習Ⅲ	福岡リハビリテーション専門学校	1名
2	5/8(月) - 7/1(土)		理学療法学科臨床実習	柳川リハビリテーション学院	1名
3	5/22(月) - 6/17(土)		言語聴覚学科臨床実習Ⅰ	麻生リハビリテーション大学校	1名
4	6/1(木) - 6/14(水)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
5	6/12(月) - 8/4(金)		理学療法学科臨床実習Ⅱ	国際医療福祉大学	1名
6	7/3(月) - 7/14(金)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
7	7/3(月) - 9/2(土)		理学療法学科臨床実習Ⅱ	麻生リハビリテーション大学校	1名
8	7/4(火)	14:00-16:00	ホスピス研修【集合形式】	福岡高校	21名
9	7/6(木)	8:30-16:15	学外病院見学・体験学習	九州大学	6名
10	7/10(月) - 9/9(土)		作業療法学科臨床実習Ⅱ	麻生リハビリテーション大学校	1名
11	7/20(木)	13:30-16:30	ホスピス研修【集合形式】	佐世保市医師会看護専門学校	22名
12	8/2(水)	13:00-16:00	職業体験	須恵高等学校 普通科	6名
13	9/1(金) - 9/14(木)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
14	9/4(月) - 9/8(金)		理学療法学科見学実習	福岡天神医療リハビリ専門学校	1名
15	9/11(月) - 9/15(金)		地域作業療法実習	福岡国際医療福祉大学	2名
16	9/12(火)	8:30-16:00	訪問看護師養成講習会	—	2名
	9/13(水)	8:30-16:00		正信会 水戸病院	
17	9/26(火)・27(水) 29(金)・10/2(月) 3(火)・4(水)		在宅看護実習	福岡女学院看護大学	2名
18	10/2(月) - 10/16(月)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
19	10/23(月) - 11/18(土)		理学療法学科臨床実習Ⅱ	帝京大学 福岡医療技術学部	1名
20	11/1(水) - 11/15(水)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
21	11/28(火)	8:30-12:30	認定看護管理者教育課程サポ	福岡青洲会病院	1名
22	12/1(金) - 12/14(木)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
23	12/12(火)・13(水)・15(金)・18(月) 19(火)・20(水)		在宅看護実習	福岡女学院看護大学	2名
	12/18(月)・19(火)・20(水)・26(火) 27(水)				
24	12/18(月) - 12/22(金)		医療事務実習	医療秘書科	2名

令和6(2024)年

No.	研修期間	(時間帯)	研修種別	所属施設・学校名	人数
25	1/9(火) - 2/2(金)		認定看護師臨地実習	久留米大学認定看護師教育センター	2名
26	1/22(月) - 1/23(火)		ホスピス病棟 医師研修	大腸肛門病センター高野病院	1名
27	1/23(火) - 1/26(金)		地域医療実習	九州大学	1名
28	2/5(月) - 2/10(土)		理学療法基礎演習 I	麻生リハビリテーション大学校	1名
29	2/27(火)・28(水) 3/1(金)・4(月) 5(火)・6(水)		在宅看護実習	福岡女学院看護大学	2名
30	3/7(木)		訪問診療見学	しらしげ歯科医院	1名
31	3/11(月) - 3/16(土)		言語聴覚学科臨床実習 I	麻生リハビリテーション大学校	1名
32	3/12(火)		地域医療実習	九州大学	1名
33	3/12(火)・15(金)・19(火)		介護支援専門員実務研修	いやしの家 (栄光病院 4B病棟)	2名

社会医療法人・社会福祉法人 栄光会 年報
第 24 号

2024 年 6 月 25 日発行

発行者 社会医療法人・社会福祉法人 栄光会

編 集 社会医療法人 栄光会 本部事務局 総務課

〒811-2232 福岡県糟屋郡志免町別府西 3-8-15

電話 092-935-0147

FAX 092-936-3370

URL <https://www.eikoh.or.jp/>

E-mail eikoh@eikoh.or.jp

理念
～癒し癒される～

私たちは“『こころ』も『からだ』もともに癒され
しあわせに生きる医療・看護・介護”を
目指しています

